

石川県 金沢市

直江中遺跡

—金沢市副都心北部直江土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 I —

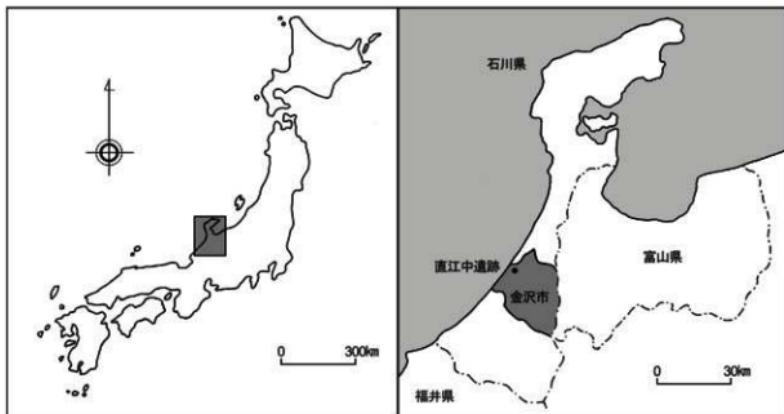
平成23年3月
(2011年)

金 沢 市
(金沢市埋蔵文化財センター)

石川県 金沢市

直江中遺跡

—金沢市副都心北部直江土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ—



平成23年3月
(2011年)

金 沢 市
(金沢市埋蔵文化財センター)

例　　言

1. 本書『直江中遺跡』は、石川県金沢市直江町地内に所在する直江中遺跡（新発見のため遺跡番号なし）の第1・2次発掘調査を扱った報告書である。
2. 本調査は金沢市副都心北部直江土地区画整理組合による土地区画整理事業に伴い、平成20・21年度に金沢市が発掘調査を実施したものである。
3. 現地調査は金沢市埋蔵文化財調査委員会（会長　橋本澄夫氏、谷内尾晋司氏、垣田修児氏、横山方子氏）の指導の下で、平成20年度は新出敬子（文化財保護課主任主事）、向井裕知（文化財保護課主任主事）が、平成21年度は前田雪恵（文化財保護課主任主事）、向井が担当した。
4. 本書の執筆及び編集は向井が担当したが、「第5章　直江遺跡群の古環境」については(株)パレオ・ラボに各分析を委託し、報文を得ている。写真撮影は遺物を向井が行い、遺構を各調査担当者、航空写真を日本海航測（株）、花粉化石、プラント・オバール、大型植物遺体の顕微鏡写真を(株)パレオ・ラボが行った。
5. 本書の各図及び写真図版の指示は以下のとおりである。
 - (1) 方位は全て座標北である。座標は世界測地系（第VII系）に基づき設定している。
 - (2) 各図の縮尺は、遺物は1/2・1/3・1/4・1/6・1/8、遺構は1/40・1/60・1/100が主であるが、各図に指示しているとおりである。
 - (3) 遺物実測図の番号は通し番号とし、それぞれの本文中、観察表、写真図版のそれと一致する。
 - (4) 遺構名の略号は、S B=掘立柱建物、S E=井戸跡、S K=土坑跡、S D=溝・川跡、S X=落ち込み・土器だまり跡などである。
 - (5) 土器については「壺」・「甕」・「高坏」・「器台」などと表記するが、用途を示すのではなく、形態による分類で、「壺形土器」などの略称である。
6. 本調査での出土遺物、記録資料は金沢市埋蔵文化財センターで保管している。

目 次

第1章 調査の経過

第1節	調査に至る経緯	1
第2節	発掘調査の経過	1
	発掘日誌抄	1

第2章 遺跡の位置と環境

第1節	地理的環境	3
第2節	歴史的環境	3

第3章 検出遺構

第1節	概要	5
第2節	掘立柱建物・ピット	5
第3節	井戸・土坑	5
第4節	溝・川	7

第4章 出土遺物

第1節	概要	33
第2節	掘立柱建物・ピット	33
第3節	井戸・土坑	33
第4節	溝・川	35

第5章 直江遺跡群の古環境

第1節	花粉化石	68
第2節	プラント・オバール	70
第3節	大型植物遺体同定	72

第6章 総括

第1節	遺構の変遷	78
第2節	中世前期の景観	78

遺構平面図	80
-------	----

写真図版	
------	--

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

今回報告する直江中遺跡を含む直江遺跡群は、金沢市副都心北部直江土地区画整理事業（以下、直江土地区画整理事業）に伴う埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査で見つかった遺跡である。

遺跡の発見から発掘調査へ至るまでの経緯は以下のとおりである。

平成 17 年 10 月 21 日付け文書にて区画整理課長から同年 11 月 9 日開催の直江土地区画整理事業設立に向けた説明会への出席が依頼された。そこでは、大まかなスケジュール案が提示され、平成 18 年度の秋に埋蔵文化財試掘調査を実施し、範囲の確定と調査経費の積算を行い、本発掘調査は平成 19 年度からお願いしたいとのことであった。

平成 17 年 12 月 6 日に区画整理組合の設立準備会より埋蔵文化財の調査依頼が提出された。平成 18 年 4 月 11 日には区画整理課より同様の依頼があり、耕作が終了した 10 月からの着手を希望してきた。平成 18 年 10 月 12 日～同 26 日に試掘調査を実施した。今回の試掘調査によって、大半の対象地が終了し、直江北遺跡、直江中遺跡、直江西遺跡が確認されたが、一部未実施地区と詳細試掘調査が必要な箇所が残った。翌年の平成 19 年 10 月 15 日～同 16 日に試掘調査を実施し、直江ポンノシロ遺跡が新たに見つかった。その翌年の平成 20 年 10 月 14 日～同 15 日の試掘調査で、直江西、直江ニシヤ、直江ポンノシロ、直江南の各遺跡の範囲が確定した。

試掘調査の結果、明らかになった遺跡に関して、街路や仮設水路等の工事によって遺跡が損壊もしくは損壊と同等の状態になる箇所について、平成 19 年度から順次発掘調査を実施している。

第2節 発掘調査の経過

直江中遺跡は平成 20 年度及び同 21 年度に発掘調査を実施した。

平成 20 年度は 6 月 25 日に区画整理組合と委託契約を交わし、7 月 30 日～11 月 27 日まで現地発掘調査を実施した。また、出土品の屋内整理は 12 月 1 日～平成 21 年 3 月 19 日まで実施している。

平成 21 年度は 6 月 10 日に委託契約を交わし、10 月 26 日～12 月 9 日まで現地発掘調査を実施した。屋内整理は 9 月 1 日～平成 22 年 1 月 29 日まで実施している。

【発掘日誌抄】

平成20年度	平成21年度
7月30日 表土掘削開始（8/6まで）	10月26日 表土掘削開始（10/29まで）
8月11日 遺構検出開始（8/18まで）	11月4日 遺構検出開始（11/5まで）
8月18日 SD01、SD02の層序確認	11月6日 SD01、SD02の層序確認
9月 1日 井戸跡掘削開始	11月16日 遺構検出
10月16日 金沢大学考古学研究室現地見学	11月27日 挖立柱建物跡掘削（12/2まで）
10月20日 1回目航空測量実施	12月9日 航空測量実施、調査完了
10月21日 一部未発掘箇所の表土掘削開始（10/24まで）	
10月28日 遺構検出	
10月30日 1回目航空測量箇所の井戸枠取り上げ（11/4まで）	
11月27日 2回目航空測量実施、調査完了	



第1図 金沢市副都心北部直江土地区画整理事業施工図と遺跡の範囲、調査位置図 [S=1/7,000]

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

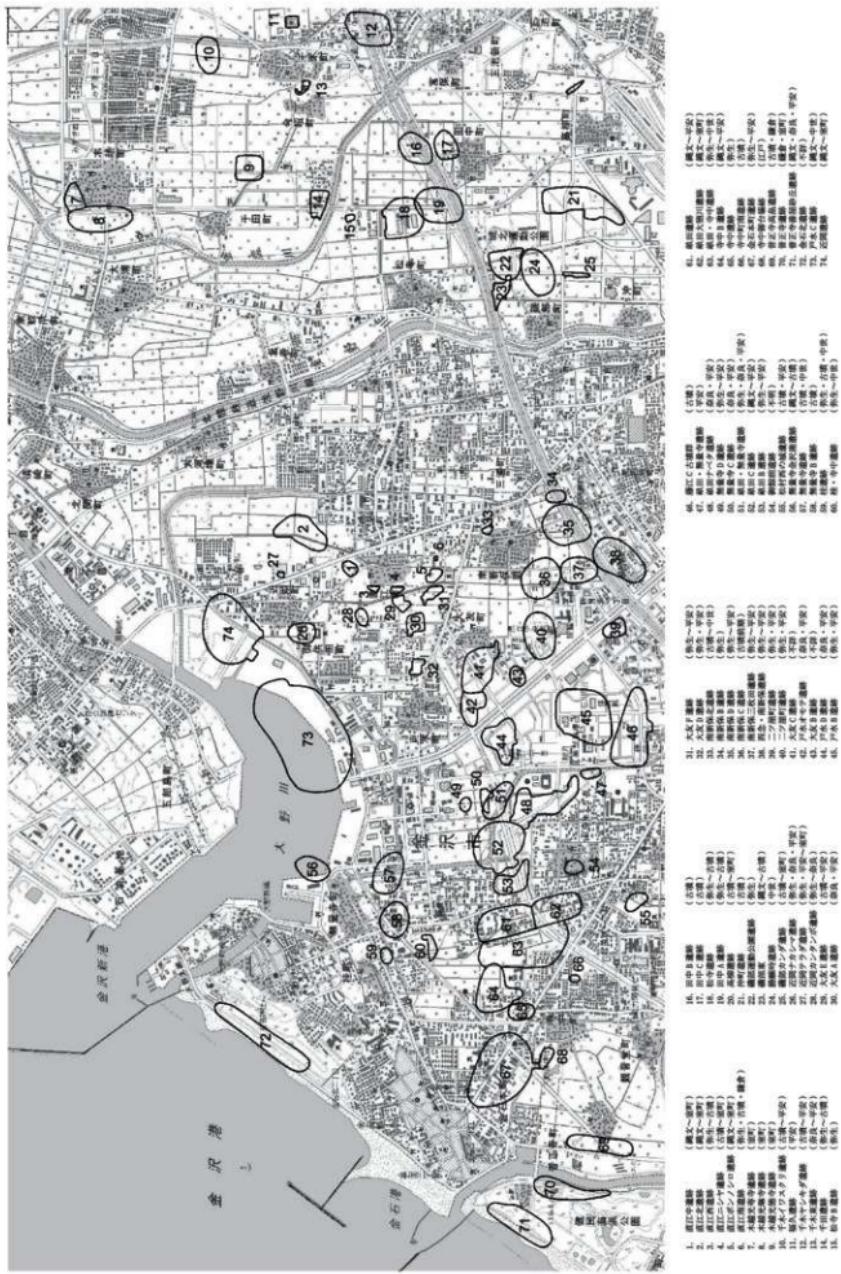
直江中遺跡は石川県金沢市直江町地内に所在する。石川県は本州日本海側のほぼ中央に位置している。北方は日本海に面し、南方は福井県、岐阜県、富山県と接する南北に細長い県であり、日本海に突き出た能登地方とその南の加賀地方に分けられる。金沢市は加賀地方の北部に位置している。その西部は日本海に接し、東南部には海拔 1,500m を越える山地をかかえる。この山地からは市域を西流する二大河川、浅野川と犀川が流れ、北側に位置する前者は河北潟へ、南側の後者は日本海へ注ぐ。市域の西部に展開する平野部では両河川に挟まれた地域に市街地が形成されている。また、犀川を境として、北部平野と南部平野に分かれ、前者は犀川・浅野川やその北部を流れる金剛川・森下川によって形成された沖積平野であり、後者は手取川が形成する扇状地の北辺である。

直江中遺跡は市内の北西部、現在の海岸線からは約 3km 内陸側に位置する。河北潟と大野川の後背湿地のため、土壤は強い粘性をもつ。近年は地下水の汲み上げ等に伴い地下水位が低下したが、古くは豊富な地下水の自噴地帯であった。また、大野川の旧河道や中州、自然堤防が島状に分布し、田舟で往来したというように、舟運が非常に重要な役割を果たしていた。

第2節 歴史的環境

直江町には本遺跡（縄文晩期、古墳前期、平安、鎌倉、室町）の他、直江北遺跡（縄文晩期、弥生中～末期、古墳前・中期、平安、鎌倉、室町）、直江西遺跡（弥生末～古墳中期）、直江ニシヤ遺跡（古墳前期、平安、鎌倉、室町）、直江ポンノシロ遺跡（縄文晩期、弥生末期、古墳前・中期、平安、鎌倉、室町）、直江南遺跡（弥生末期、古墳前期、鎌倉）が分布する。

本遺跡周辺に分布する遺跡を時代毎に概観すると、まず縄文時代には本遺跡で晩期の遺跡が確認できる。近岡遺跡では昭和 45 年の調査で花粉分析から縄文晩期の農耕について話題になった。隣接する戸水 C 遺跡からも土器片が少量出土している。弥生時代には戸水 B 遺跡、戸水 C 遺跡、藤江 C 遺跡などで前期からの遺物が確認されており、直江北遺跡においては中期から遺物が確認されている。後・終末期になると遺跡の数が多くなり、建物や墓などが多くみつかっている。古墳時代は弥生終末期の遺跡が継続されることが多いが、中・後期になると激減し、周辺では藤江 B 遺跡や畠田・寺中遺跡で確認できる。直江北遺跡では古墳時代前期から中期にかけての集落跡が見つかっており、掘立柱建物や布堀建物、井戸、溝などが見つかっている。奈良・平安時代は再び遺跡が広く分布し、戸水 C 遺跡や戸水大西遺跡、畠田遺跡群といった港湾施設や官衙に関係した遺跡が出現する。鎌倉・室町時代は、本遺跡報告の時期であるが、周辺には当該期の遺跡が広く分布している。畠田・寺中遺跡では、堀で囲繞された方二町×一町半程度の空間が検出されている。南新保北遺跡では錢の出納に関わる付札木簡が出土している。戸水 C 遺跡は古代以来の津湊関連遺跡と評価されている。近岡遺跡の所在する近岡町には林系の近岡九郎利明が 12 世紀末～13 世紀初頭に館を構えたと伝えられている。このように、遺跡周辺は中世期の活動が活発な地域であり、倉月荘内に比定される直江町においても本遺跡他、直江北遺跡、同ニシヤ遺跡、同ポンノシロ遺跡、同南遺跡で活動が認められる。「直江」の初見は、『天文日記』天文五年（1536）五月二日条に「加州直江村新右衛門尉」として見える。本願寺証如によるものであり、一向一揆が盛んであった当地域との関係が垣間見え、16 世紀代の遺物も川跡から出土している。このころ、木越には木越三光と称される一向一揆の有力寺院が所在しており、直江町からもほど近い距離といえる。



第2図 直江中遺跡の位置と周辺の遺跡 [S=1/30,000]

第3章 検出遺構

第1節 概要

本遺跡では、掘立柱建物、柵列、井戸、土坑、区画溝、川跡などを検出している。掘立柱建物と井戸については中世前半頃に限られており、他の時期は散発的である。調査区を南北に縦断する川については中世と近世の切り合いが確認できる。

なお、紙幅の都合により、各遺構についての詳細を述べることはできないが、位置や規模などは第1～3表をご参照願いたい。

第2節 掘立柱建物・ピット

S B01（第4図） 桁行2間×梁行2間の総柱建物である。南側梁行中央柱はSE05、SK04との重複により検出できない。柱穴からは土師器皿片が出土しているが、詳細年代が判別できる個体はない。

S B02（第8図） 桁行3間×梁行2間以上の建物の可能性があるものである。H20年度調査で検出し、H21年度調査で隣接地を調査したが、統きとなる柱列が検出できなかつた。また、柱列の並びも規則性は弱く、建物であった可能性は高いと言えない。

S B03（第8図） 建物柱列の可能性があるものである。SB02同様に平成21年度調査で隣接地を調査したが、対になる柱列は検出できなかつた。SD56によって失われている可能性がある。

S B04（第4・5図） 桁行5間×梁行3間の総柱建物である。南東隅は未調査箇所である。SB05・07と重複する。梁行柱間距離は2.5m前後に対し、桁行は2.3m前後だが、西側の1間分は約2mと狭い。底もしくは縁の可能性があり、その場合は4間×3間に底・縁1間が付属する建物となる。北から2間目、3間目の桁行柱列には重複する柱穴が複数見られ、同位置での建て替えが予想されるが、周囲には同様の柱穴が見られない。2間×1間の小規模建物との重複であろうか。可能性のみ指摘しておきたい。また、南端柱列の柱穴径が他より小さい傾向があり、これも底等の可能性が考えられる。柱穴からは13世紀前半頃の土師器皿が出土している。

S B05（第6図） 桁行4間×梁行2間の総柱建物である。SB04・07、SE04と重複する。柱穴からは土師器皿片が出土している。

S B06（第8図） 桁行2間×梁行2間以上の総柱建物の北西隅を検出したものである。調査時には1間分のみしか識別できなかつたが、整理時に北側1間分の存在が判明した。

S B07（第7図） 桁行3間×梁行2間の総柱建物である。北側に2×1間分の底もしくは縁が付属する。SB04・05、SE02・04と重複する。南端柱列の東から2番目の柱穴が見つかっていない。柱穴から13世紀代の土師器皿が出土している。

S A01・02（第7図） 共に柱間距離が1.2～1.3m程度で、対応する柱列が検出できなかつたものである。平成21年度調査では連続する並びを検出できなかつたので、柵列としての機能を持っていたかはわからない。

第3節 井戸・土坑

S E01（第9・11図） 井戸側として曲物を用いており、2段残っている。掘方は小さく、地山に近い土質である。1層は近代遺構の掘り込みであり、井戸側の一端に及んでいる。覆土上位層には土師器皿片が多く含まれており、跡地利用としての地固め目的を想定している。13世紀から14世紀前半頃の遺物が出土している。1は枠下段の曲物で外面には一部焦げ跡が見られる。体部中位に板窓が認

められ、図に示した細い縦板3枚と、これを1単位として曲物周囲を3等分する形態で板を挟んでいる。

S E02・SK07（第9・11図） S E02は井戸側として曲物を用いており、2段残っている。SK07はS E02の掘方である可能性はあるが、土層観察からは明確に言い切れない。当初はS E02として取り上げていた遺物もSK07出土の可能性があり、本報告では両者出土として報告している。出土遺物に時間差はあまり感じていない。上層部からは多くの土師器皿が出土している。S E01同様に跡地利用を目的としたものと考えられるが、そうであればSK07はS E02掘方になるであろう。井戸側内部からはほとんど遺物が出土していない。概ね13世紀前半頃の遺物が出土している。2は棒下段の曲物である。中位、下位に板籠が認められ、細い幅の縦板2枚と広い幅の縦板2枚を挟んでいる。

S E03（第9・12・13図） 井戸側として曲物を用いており、3段残っている。土層観察から検出面まで井戸側が延びていたことがわかるが、腐食によって上部の井戸側は存在しない。掘方覆土は地山土を含んだ黄褐色系の砂質土と黒褐色系シルトが互層に入る。井戸枠内上位層からは土師器皿や株洲焼が出土しており、13～14世紀頃の遺物が出土している。5は下段の曲物であり、板籠は認められない。他に上段、中段があるが、中段が最も器高が低い。6・7はそれぞれ下段、上段に付随する縦板である。補強材であろう。

S E04（第9・15図） 縦板組隅柱横桟留めの井戸側をもつものである。南東と北西隅には小規模隅柱が残っている。縦板は抜き取られたのか残っていない。横桟は下方に1段が見つかっているが、本来は上方に上段が存在したであろう。13世紀前半頃の遺物が出土している。12～15は横桟である。東西側に両端凸部の横桟を、南北側には両端凹部を用いて組み合わせている。17・18は隅柱である。

S E05・08・SK01・04（第10・13・14図） 遺構検出時は一つの大きな掘り込みとしてSK01として調査を行っていた。進捗に伴い、S E05の存在が判明したので、S E05とSK04として引き続き調査を実施した。最終段階で、S E08の存在が明らかとなったので、その井戸枠内をS E08とした。つまり、SK01はS E05、SK04の表層、SK04はS E08の掘方もしくはSK08を切る遺構である。S E05は井戸側として曲物を用いており、2段残っている。13世紀後半から14世紀前半頃の遺物が出土している。8は下段の曲物で、3段の板籠で全面を覆い、下端には幅細の板籠を1段備えるが、縦板は見えない。S E08はSK04との切り合いで、井戸側の上部構造が失われており、曲物は1段のみ残っている。10は前面を板籠で覆い、縦板1枚を挟んでいる。下端には非常に多い目釘痕が見える。S E08からは時期を特定できる遺物が出土していないが、13世紀頃の所産であろう。

S E06（第9・12図） 井戸側として曲物を用いているが、ほぼ検出面まで井戸側は残っており、3段を確認している。曲物を多用しており、上段に1点、中段に内外2点、下段に4点を組み合わせている。13世紀後半から14世紀前半頃の遺物が出土しており、木製品が比較的多い。川跡であるSD01の東岸付近で検出しておらず、他の井戸と比べて川辺に近い。植物などを水にさらすための用途であろうか。多くの曲物を用いて補強している点も他と異なる。3は中段内側、4は下段の曲物である。3は3段の板籠で全面を、4は上下端の板籠で補強しているが、縦板は認められない。

S E07（第10・14図） 井戸側として曲物を用いており、2段残っている。掘方として認識できる範囲が非常に狭かったので、掘方土層を確認するためにトレーナーを設定して拡幅したが、掘方と認識できる層位は得られなかった。井戸側から一回り大きい70cm前後の掘方であり、他の井戸と比べても小さい。13世紀代の遺物が出土している。9は上段の曲物であり、3段の板籠で全面を覆っている。縦板が2枚挟みこまれている。

S E09（第10・15図） 井戸側として曲物を用いており、1段残っている。S E01・07同様に掘方

が小さなタイプである。上部にも曲物側板があったものと想定されるが、腐食の痕跡は土層では確認できないので、抜き取られた可能性が高い。13世紀代の遺物が出土している。11は残っていた唯一の曲物で、3段の板籠で全面を覆い、縦板が1枚挟まれている。内面下端にはレ状の切欠きが9割程度廻るが、板などに関する痕跡かはわからない。図上部には底板のための木釘痕が認められる。

S E10 (第10・15図) 縦板の出土や掘方形から縦板組の井戸側をもつ井戸と想定しているが、検出状況からは不明である。井戸側が据えられた状態ではなく、各部品が散乱した状態で出土した。13世紀代の土器皿や漆器が出土している。19~24は井戸枠材の縦板である。23は上端部を劍先気味に尖らすような加工をしている。22とともに穿孔を伴う。26は断面隅丸方形を呈する棒材である。横桟もしく隅柱であろうか。27・28は広葉樹の先端を尖らせた杭である。

S K02 (第17図) 覆土に土器皿片や炭化物を含んだ円形の土坑である。S B01 柱穴との切り合ひは検出時に認められなかったので、S K02 が後から掘り込まれたものと考えられる。14世紀頃の遺物が出土している。

S K03 (第17図) 大型土坑である。平安時代の遺物が出土している。

S K10 (第17図) 覆土上層は地山質である。井戸のような規模、掘方であるが、井戸かは不明。

S K23 (第18図) 大型土坑である。形状はS K03と類似する。13世紀代の遺物が出土しており、横向きの人形状の木製品が出土している。素掘りの井戸かもしれない。

P 02 (第18図) 調査区西側の建物・井戸群に隣接する穴である。それらと同時期の遺物が出土している。遺構の用途、機能は不明である。

S X01 (第19図) S D05 の岸部分から出土する縄文土器の集中出土帯である。炭化物を含むシルト質土壤の上位層から縄文時代晩期土器が出土する。遺構の形成過程は不明である。

S X02 (第19図) I 8 区周辺から出土する縄文土器の集中出土帯である。炭化物を含む地山質土壤から縄文時代晩期土器が出土する。S X01 同様に遺構の形成過程は不明である。

第4節 溝・川

S D01 (第19~22図) 南北に流れる川跡であり、西岸は近世河川のS D02 に切られている。東岸から1~3m程西側からS D02 の掘り込みが始まっており、S D02 の西岸付近にS D01 の覆土は見られないことから、川幅は10mに満たない。シルトと砂の混ざった層が下位に堆積しており、水流のあったころに形成された層であろう、遺物も多く出土している。H 8区の東岸付近に杭材と横板材を用いて作られた木柵S A04 が所在する。杭材は川底側が太く、岸側ほど細くなる。第36図415~421、423~429はS A04構成材である。415は角柱の角を面取りしたもので、図下半は尖らすように加工している。元は柱としていたものを杭に転用したものであろう。柱の太さからは一般的の家屋よりも上位の建築物に利用されていた可能性を考えている。416は断面長方形を呈する角柱で、下端の短辺を削って尖らせている。また長辺には段を設けている。417、418も角柱状の太い材を用いており、横板が触れている4本の杭は太い材を用いていることがわかる。それに比して同じ列状にあるが、横板が接していない421や424~427は細い材を用いており、大きな差がある。419は倒れた状態で検出されたが、元は415と共に横板を挟んでいた可能性がある。421と隣接して検出された420は広葉樹の外皮を剥がさずに用いたものであり、一連のものとは別用途で設けられた杭であろうか。なお、S A04の杭は太さや加工の程度にばらつきがあるために、その多くが転用品である可能性が高い。横板は429が上段で図左側が上辺である。図下方の上辺に近い個所に略長方形状の孔があるが、対になる側は欠損のため孔の有無は不明である。428は下段で図右側が上辺である。図上方の上辺側には穿孔がある

が、対になる区下方にはない。しかし、図下方の下辺側には木釘が残る穿孔が1か所認められる。S A04 の配置であるが、概ね S D01 の流路に直交して設けられている。横板は杭よりも下流側（立地から北側を下流に想定）に設置されており、また杭との結束材は検出時には認められなかった。横板の位置は上流からの水流には、杭に支えられるような位置関係ではなく、弱い配置といえよう。また、S A04 の杭列ラインを東方向に延長させると、S D03 の北岸ラインに概ね一致することがわかる。S D03 に水を流し込むために S D01 を堰き止めるような治水施設の可能性が考えられるが、先に述べた横板の設置場所が問題となる。横板が杭に支えられるような力は下流側からの圧力であるが、この場合は S A04 から下流側を一部埋め立てて、張り出し施設などを設けた可能性が考えられるが、土層観察や検出状況からは、そのような痕跡は認められなかった。本遺構の機能や用途については、水流の検討も含めて課題である。なお、平成 21 年度に実施した調査で、S A04 の西側延長部分では継ぎが検出されなかつたが、これは S D02 によって失われている可能性が考えられ、延長部分がないことはならないと考えている。

S D02（第 20・21 図） S D01 と重複する近世の川跡である。川幅は 7 m 程である。川岸に樹木が建ち並んでいたようであり、その痕跡が S D01 上を掘り込んでいた。S D04 は延長部分であろう。

S D03（第 22 図） S D01 から派生する東西溝である。S D01 付近は約 1 m と幅広だが、徐々に狭くなり、約 0.4m となる。13 世紀代の遺物が出土している。

S D04（第 21 図） S D02 の上流にあたる延長部分と考えている。S D02 よりやや浅いか。

S D06（第 22 図） 幅約 0.5m の東西溝である。遺物出土量は多くないが、平安時代前期頃の遺物が出土しており、該期の遺構である可能性が高いが、中世期の S D03 と併行して延びているために、S D03 同様に中世前期の遺構である可能性も否定できない。その際は道路側溝になるであろう。

S D15（第 22 図） 幅約 0.5m の南北溝である。調査区西側で検出した建物と井戸群の空間を区切る溝と考えている。

S D16・17（第 22 図） S D17 は S D15 から約 5 m 東側に併行して延びる幅約 0.7m の溝で、その溝の北端で S D15 側に L 字状に折れた部分が幅約 0.5m の S D16 である。共に深い溝だが、居住空間を区切る溝であろう。平安時代後期から鎌倉時代の遺物が出土している。

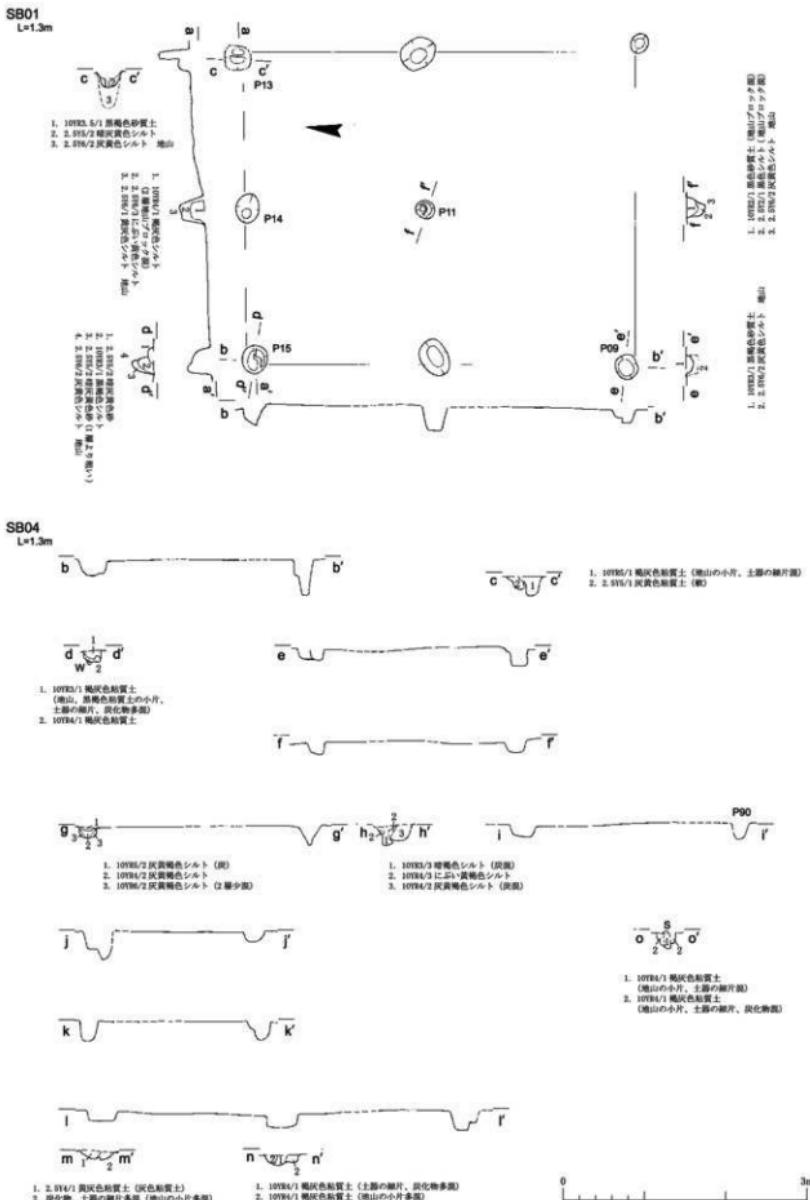
S D42（第 22 図） 調査区北端で検出した幅 1 m 前後の東西溝である。土師器や須恵器が出土しているが、遺物が少なく機能していた時期の特定には至らない。

S D43（第 22 図） S D02 と併行して南北に延びる溝である。平安時代と鎌倉時代頃の遺物が出土している。S D53 同様、S D01 と併走する可能性があり、S D01 の川幅を推し量る材料となろう。

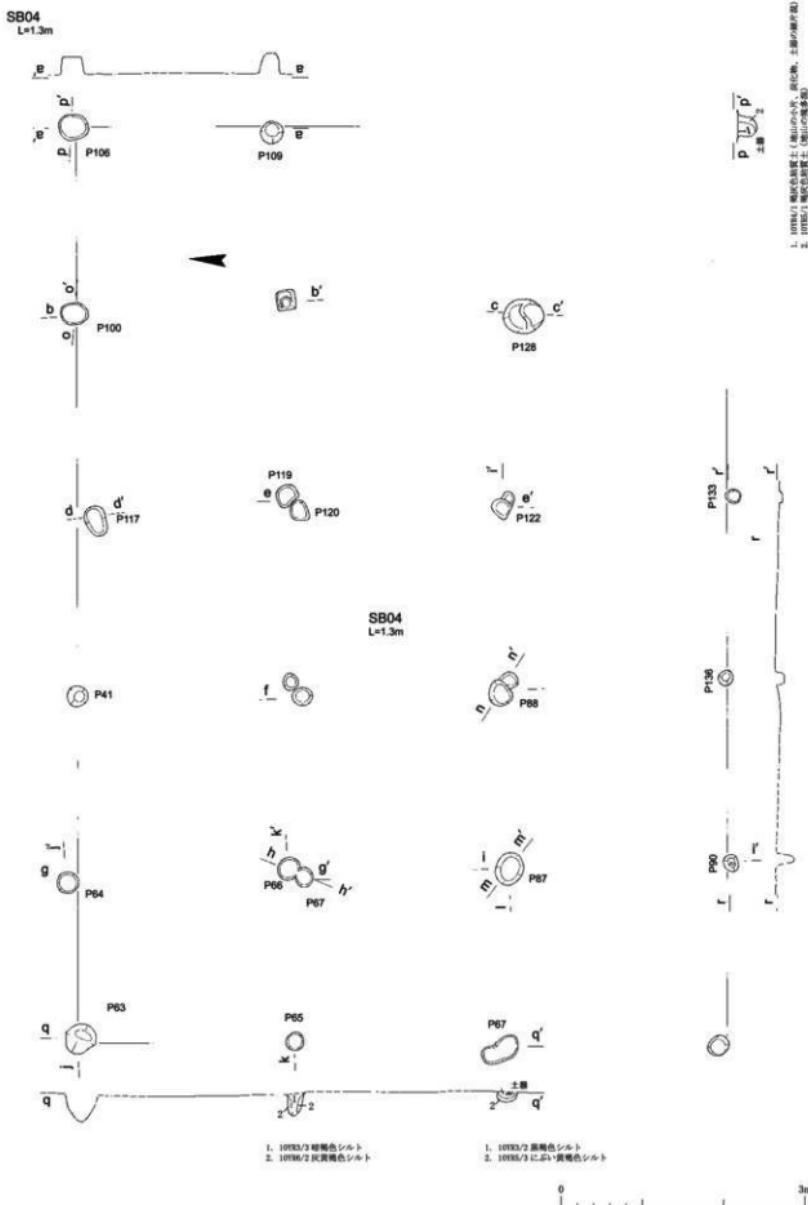
S D53（第 22 図） S D01 東岸と併走する溝である。南端で屈曲して S D01 と合流する。

S D55（第 22 図） S D42 から分岐する溝である。

S D56（第 22 図） 調査区北東端で検出した近世から近代の川跡である。

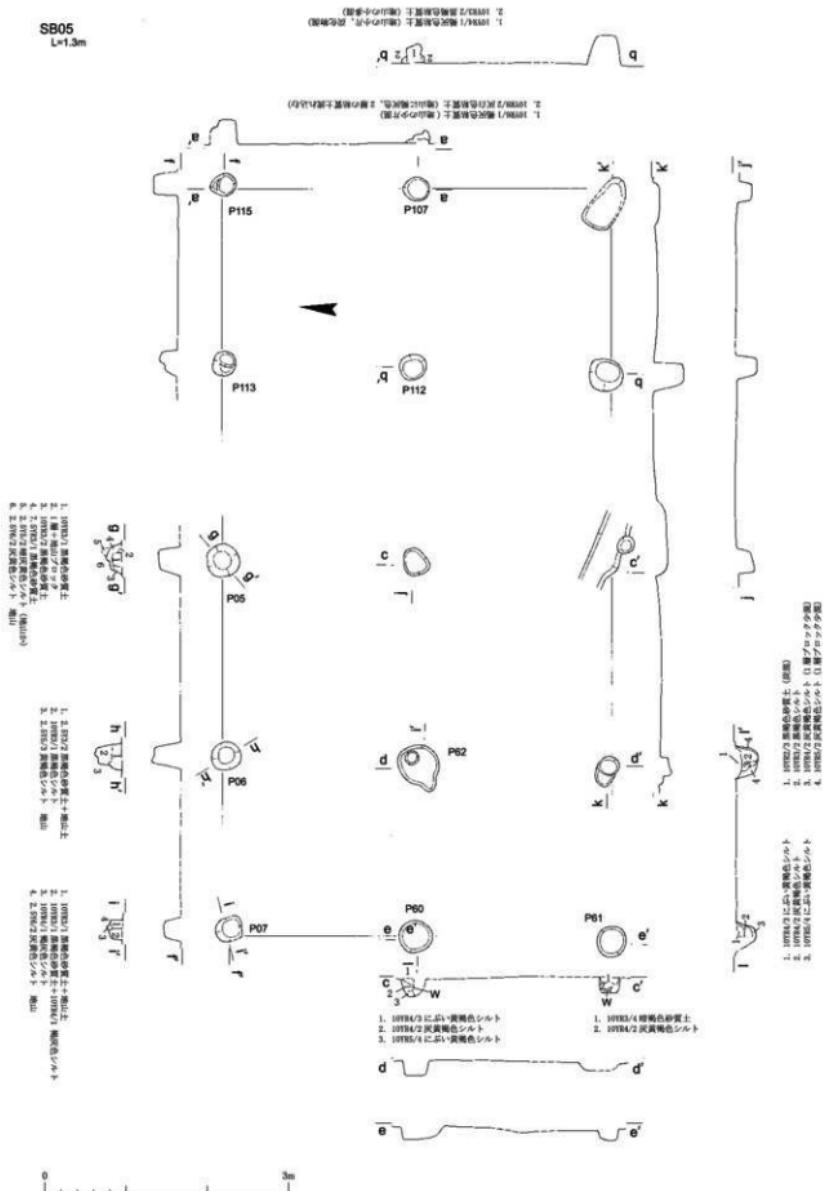


第4図 SB01-04 [S=1/60]



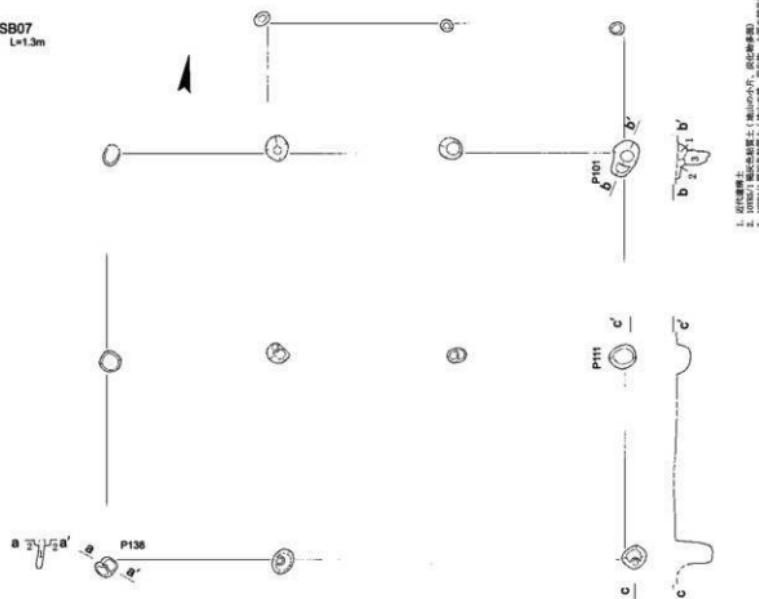
第5図 SB04 [S=1/60]

SB05
L=1.3m

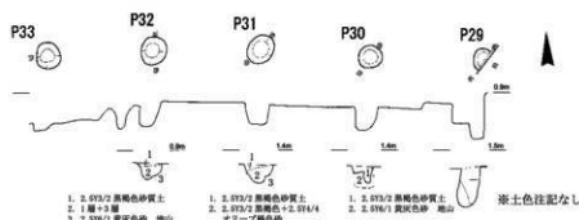


第6図 SB05 [S=1/60]

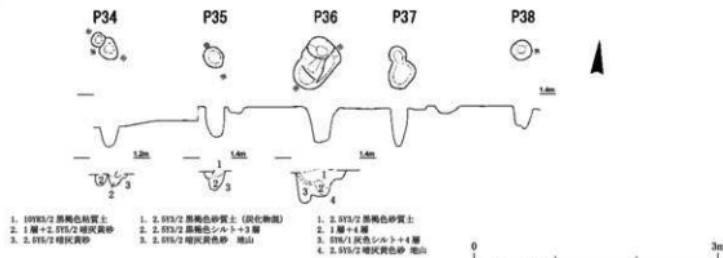
SB07
L=1.3m



SA01

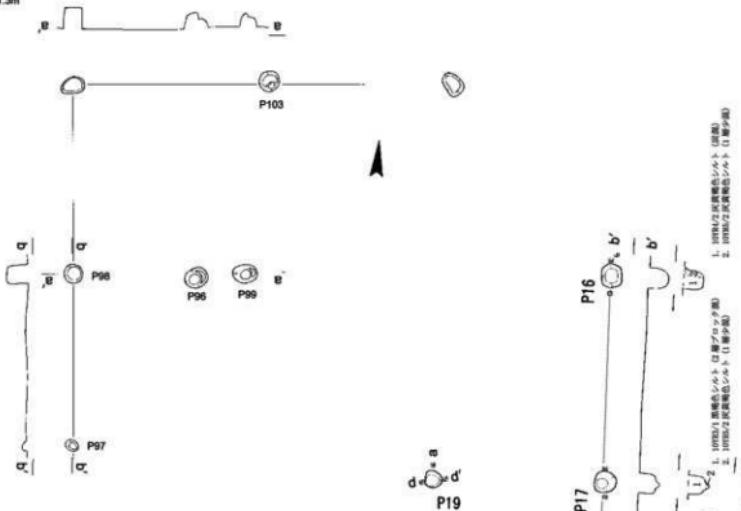


SA02

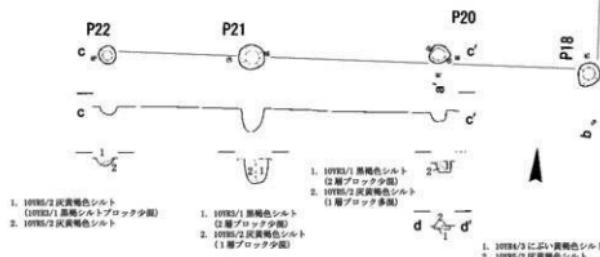


第7図 SB07、SA01、02 [S=1/60]

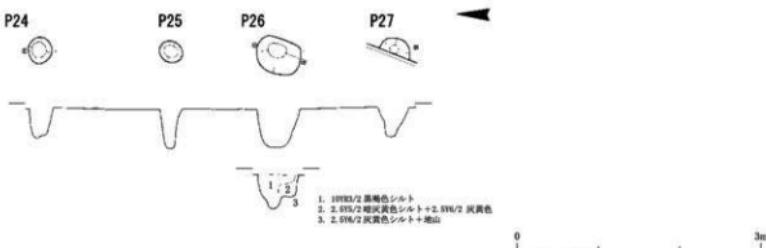
SB06
L=1.3m



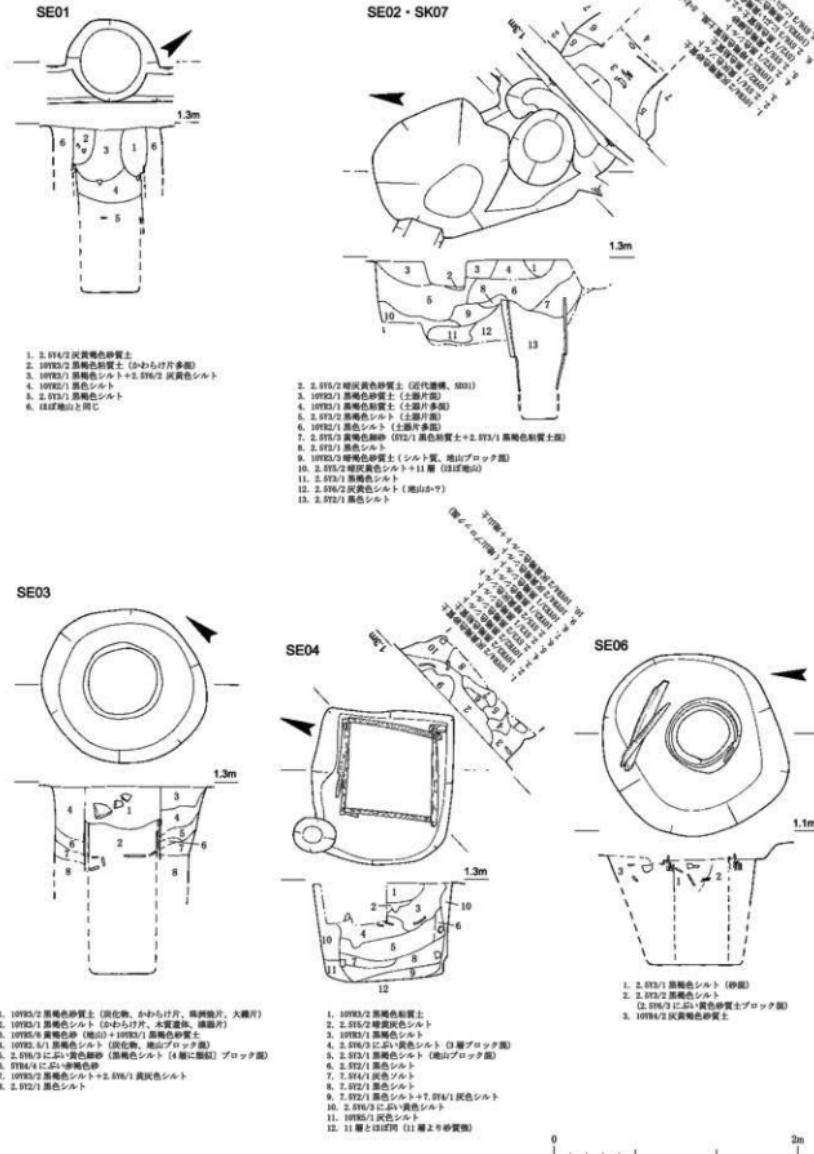
SB02
L=1.4m



SB03
L=1.3m

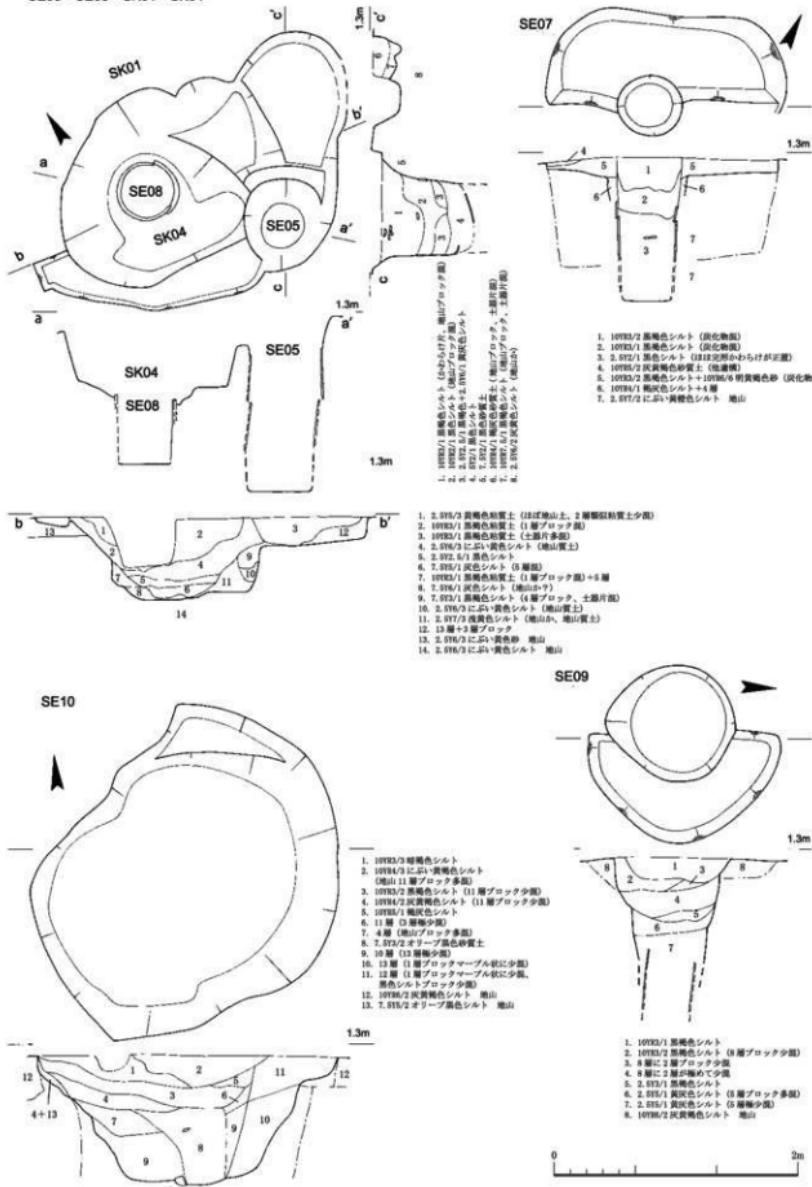


第8図 SB02、03、06 (S=1/60)

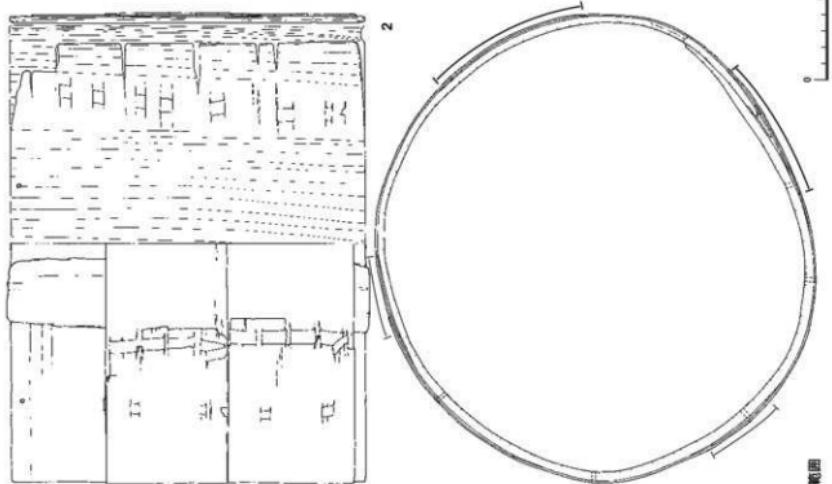
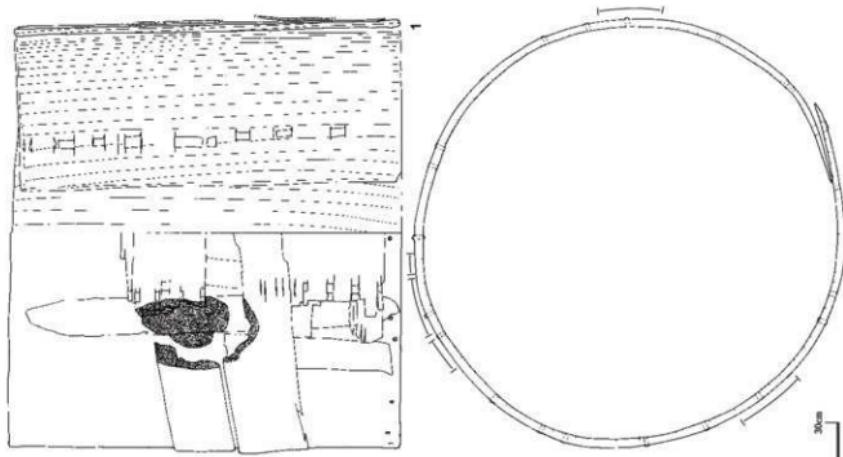


第9図 SE01・04・06、SK07 [S=1/40]

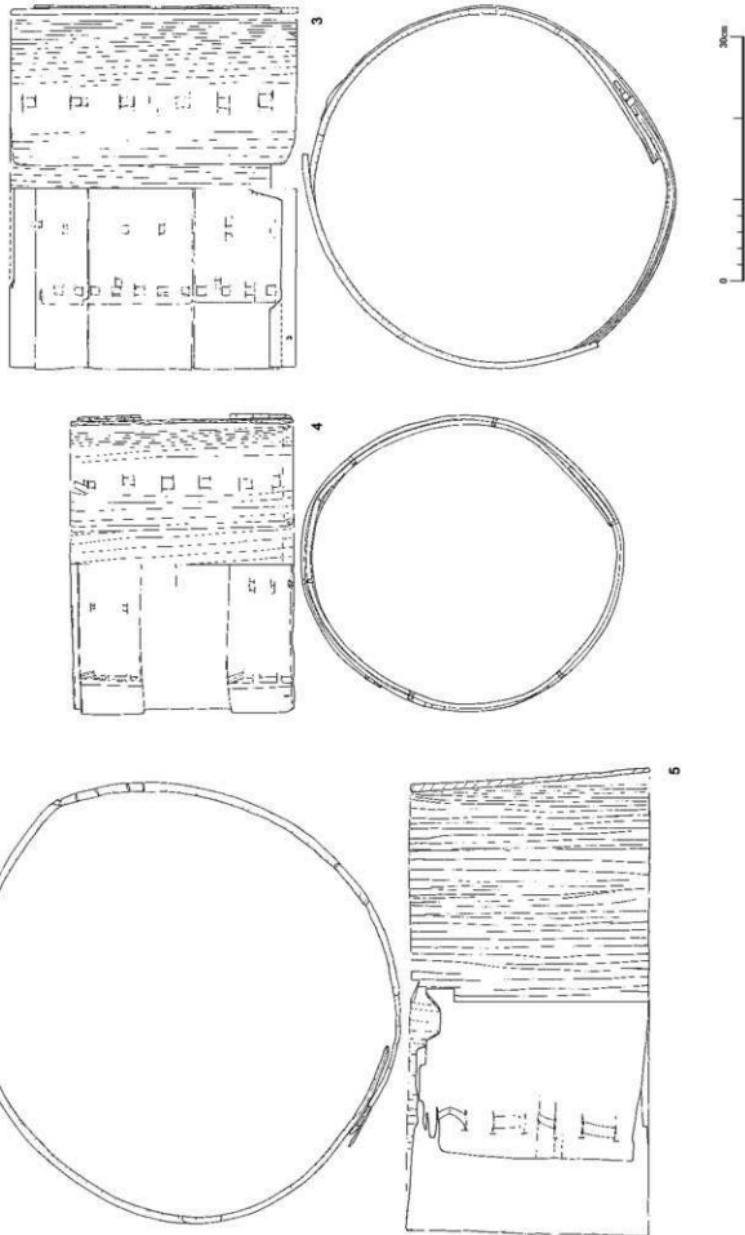
SE05・SE08・SK01・SK04



第10図 SE05、07~10、SK04 [S=1/40]



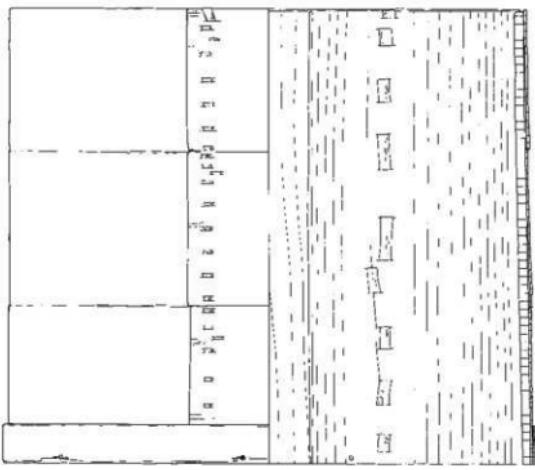
第 11 図 SE01(1)、02(2) 井戸側材 [S=1/6]



第12図 SE03(5), 06(3・4)井戸側材 [S=1/6]



6



7

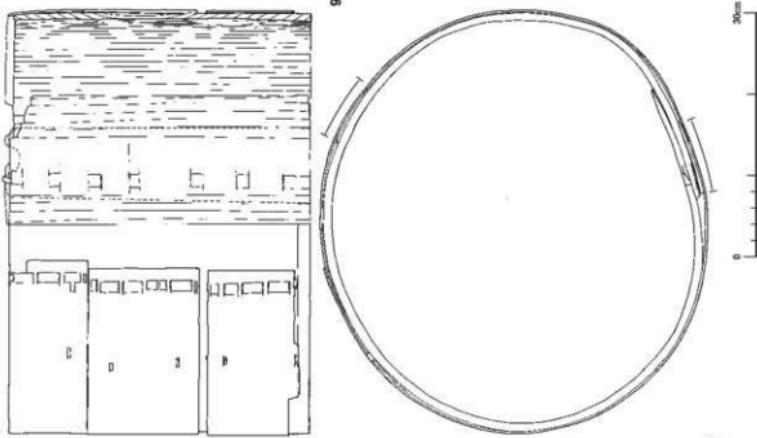


8

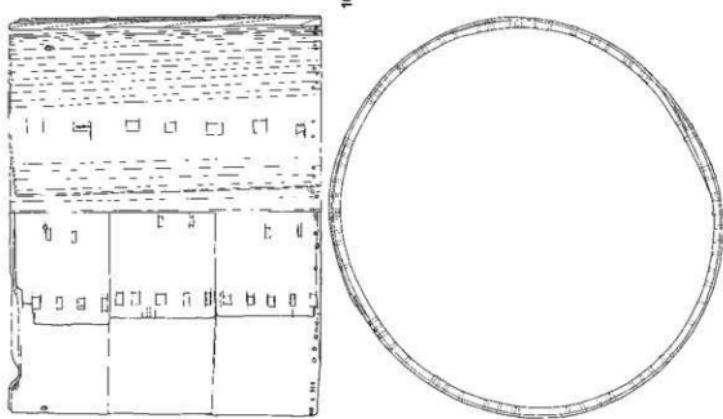


0 30cm

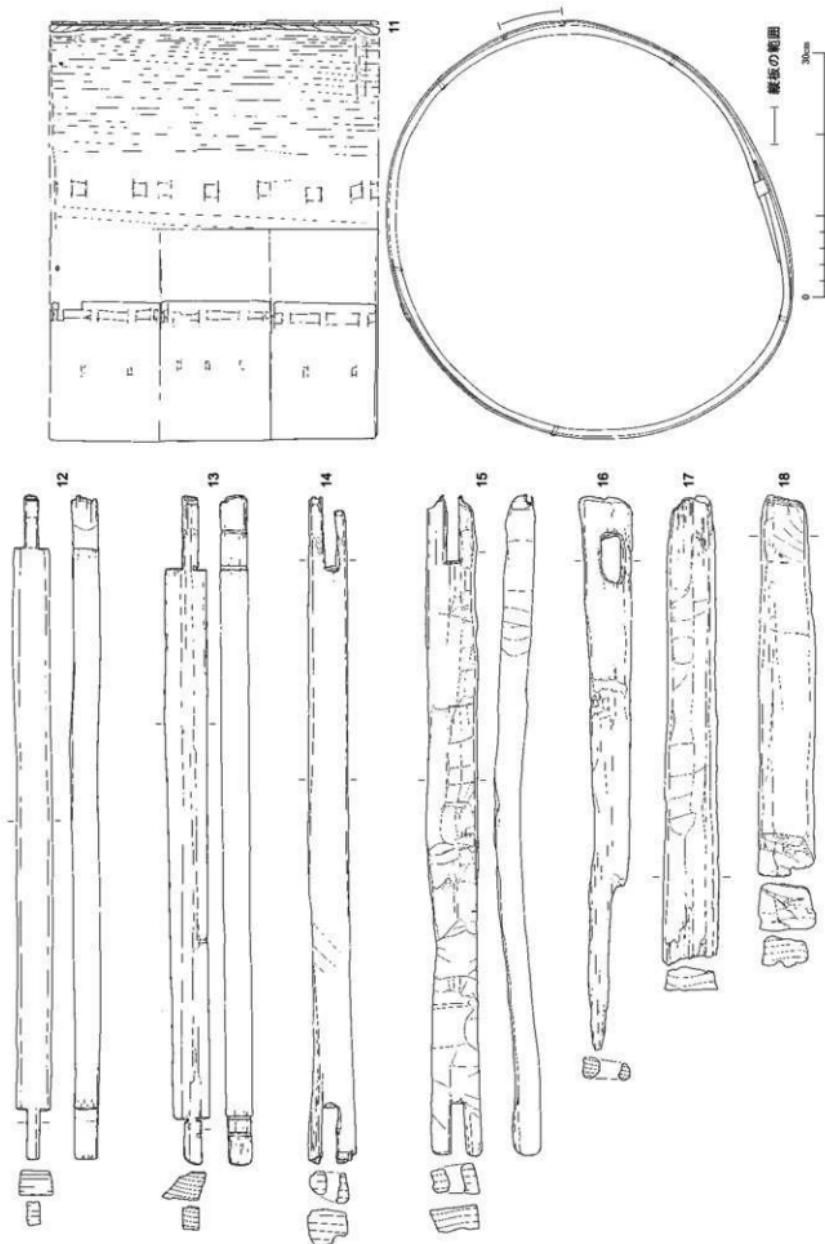
第13図 SE03(6・7)、05(8)井戸側材 [S=1/6]



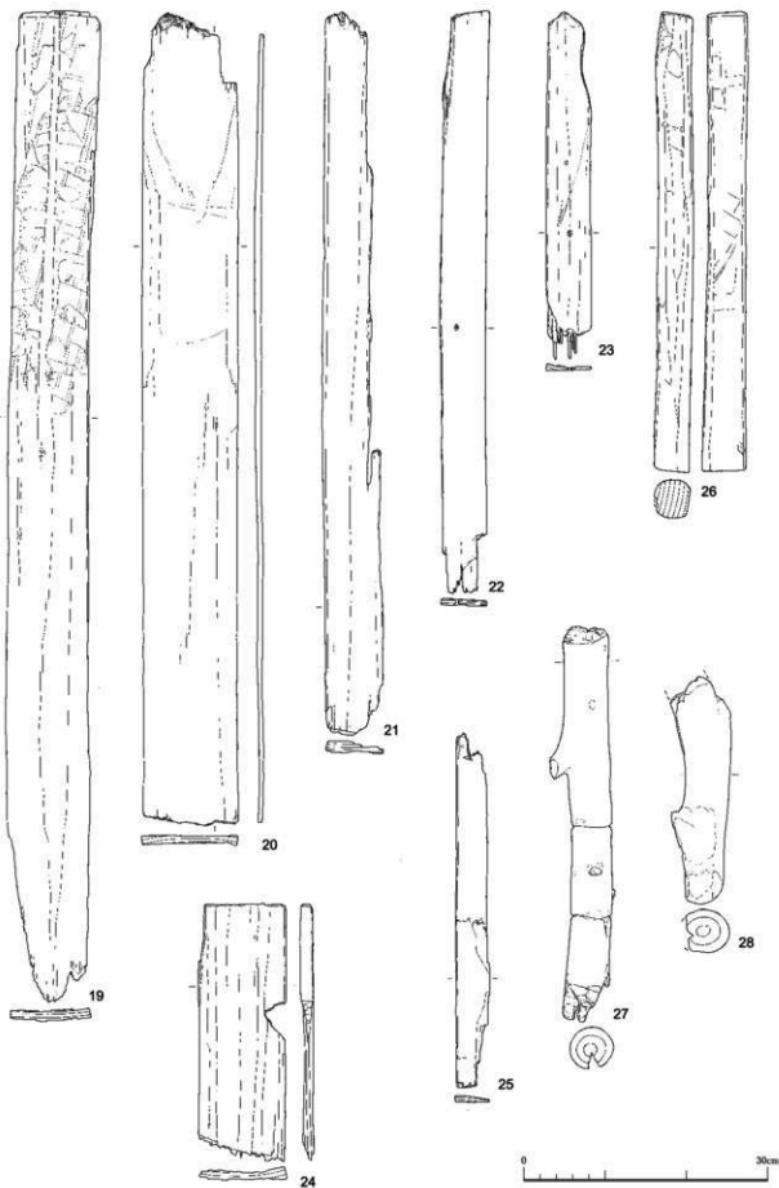
— 軸板の範囲 —



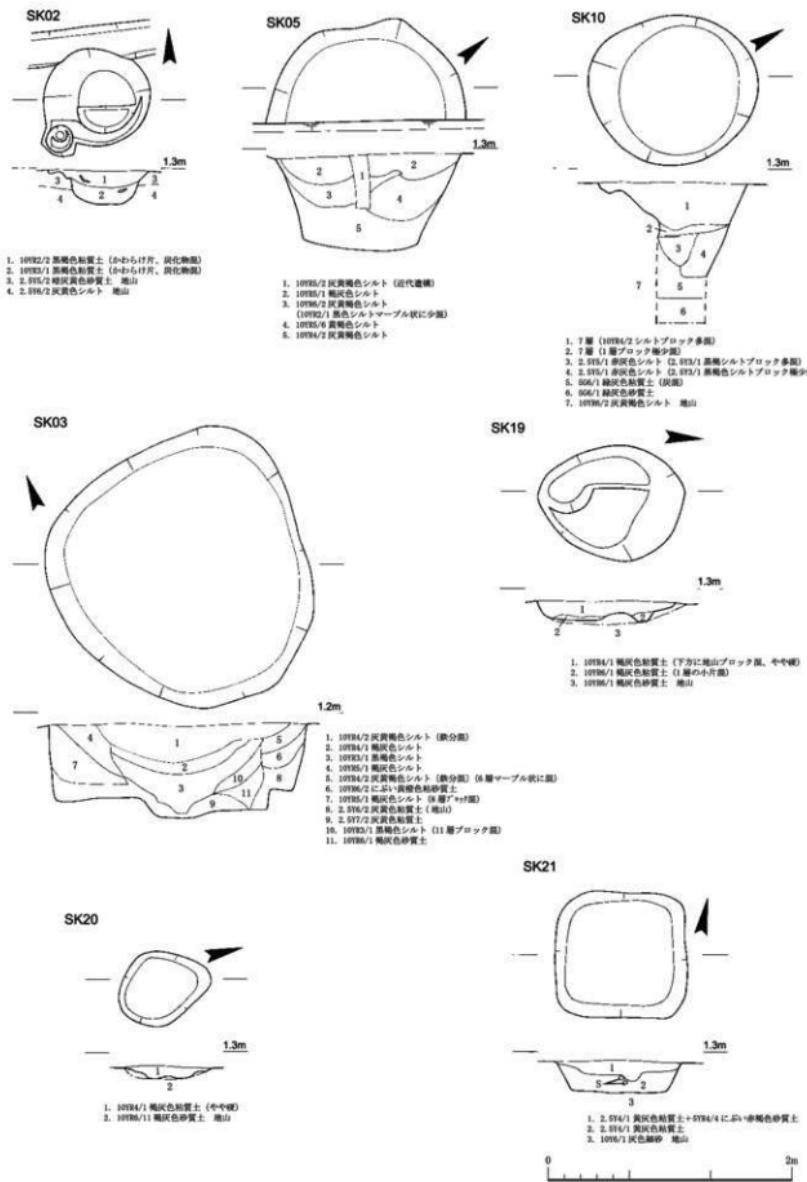
第14図 SE07(9)、08(10)井戸側材 [S=1/6]



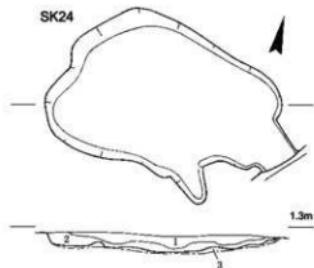
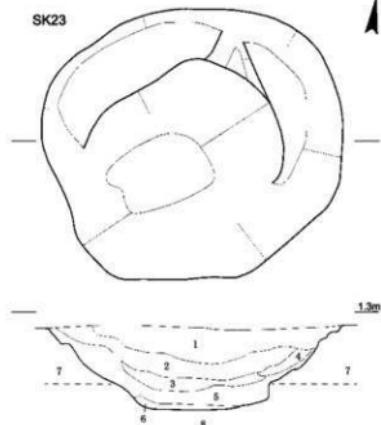
第15図 SE04(12~18)、09(11) 井戸側材 [S=1/6]



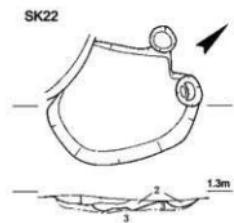
第16図 SE10 井戸側材 [S=1/6]



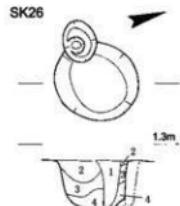
第17図 SK02, 03, 05, 10, 19~21 [S=1/40]



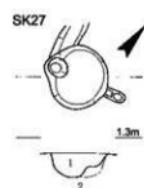
1. 10784/1 黄褐色粘土 (上部の礫片多見、炭化物層)
2. 10784/1 黄褐色粘土 (主部の細かい、炭化物層)
3. 10785/2 黄白色粘土 地山



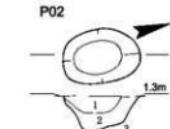
1. 10784/1 黄褐色粘土 (地山ブロック多見、上部の礫片層)
2. 10785/1 黄褐色粘土
3. 10785/2 黄白色粘土 地山



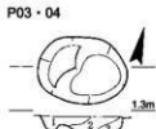
1. 10784/1 黄褐色粘土
2. 10785/1 黄褐色粘土
3. 10785/2 黄白色粘土 (地山の小片層)
4. 10782/1 黑色粘土



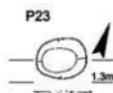
1. 10784/1 黄褐色粘土 (地山ブロック少見)
2. 2. 1077/1 黄白色砂質土 地山



1. 10784/1 黄褐色粘土 (炭化物層)
2. 10785/2 黄白色粘土シルト (炭化物層、地山ブロック層)
3. 2. SY6/3 に赤い黄色シルト 地山



1. 10784/1 黄褐色粘土 (炭化物層)
2. 10785/2 黄白色粘土 (地山ブロック層)
3. 10785/1 黄褐色粘土 (地山ブロック層)
4. 2. SY6/3 に赤い黄色シルト 地山



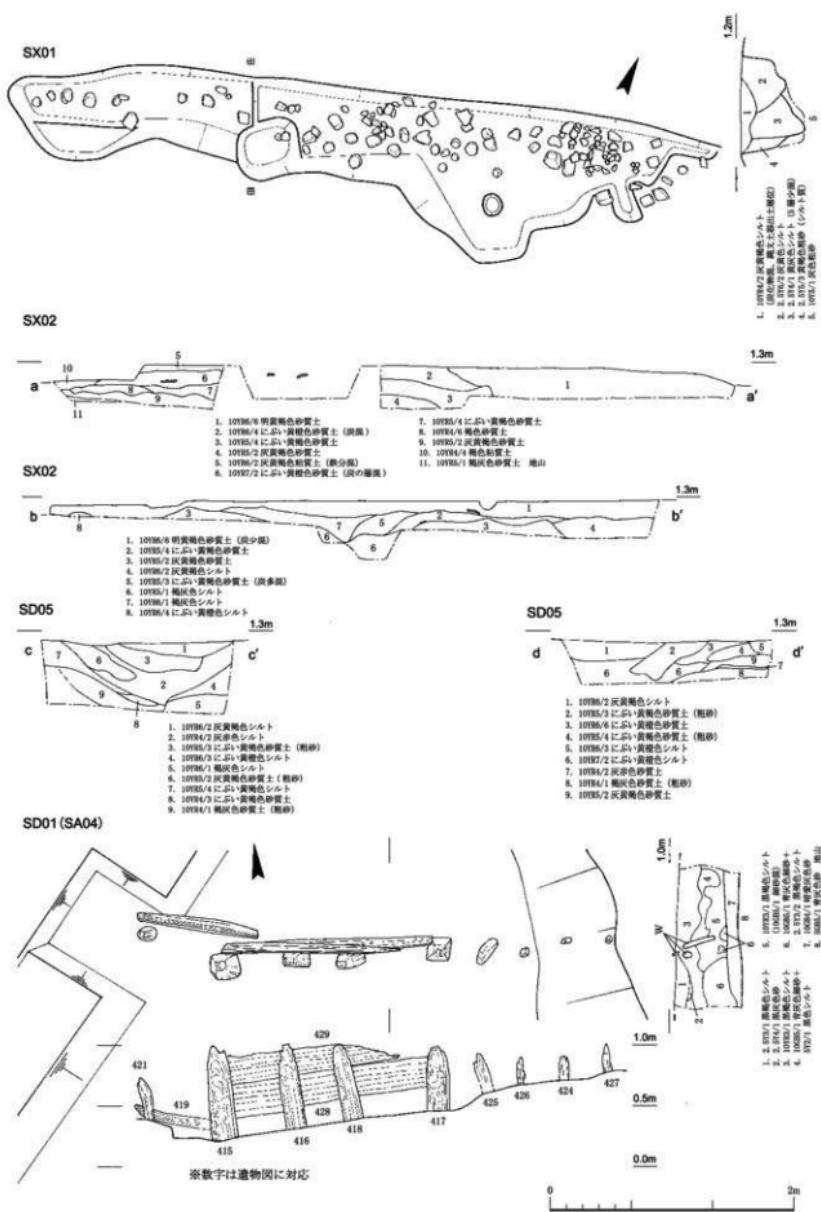
1. 10784/2 黄褐色シルト (炭化物層)
2. 10785/2 黄褐色シルト



1. 10784/2 黄褐色シルト
2. 2. SY7/2 黄褐色シルト 地山

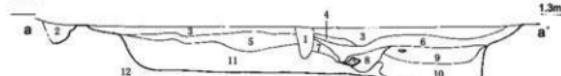
0 2m

第18図 SK22～24、26、27、P02、03・04、23、59 [S=1/40]

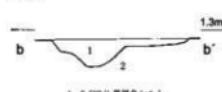


第19図 SX01、02、SD01 (SA04)、05 [S=1/40]

SD03



SD03



SD06



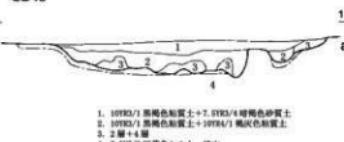
SD01・06



SD42



SD43



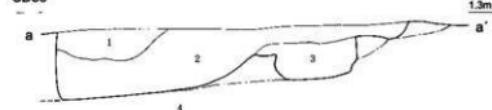
SD45



SD53



SD56



SD55



0 2m

第22図 SD03、06、09、15、16、42、43、45、53、55、56 (S=1/40)

第1表 据立柱建物計測表

SB No.	位置	柱 型式	面積 (m ²)	柱間		桁行長				梁行長				方位 (座標北)
				桁	梁	cm	尺	平均(cm)	平均 (尺)	cm	尺	平均(cm)	平均 (尺)	
1	E5	総	18.4	2	2	480	2.7	240.0	1.3	384	2.1	192.0	1.1	N 5 W
2	I-J6	総	30.0	3	2	600	3.3	200.0	1.1	500	2.8	250.0	1.4	N 89 W
3	K5			3		437	2.4	145.7	0.8					N 2 W
4	E-F6	総	90.2	5	3	1128	6.3	225.6	1.3	800	4.4	266.7	1.5	N 87 E
5	E-F6	総	4.0	4	2	920	5.1	230.0	1.3	480	2.7	240.0	1.3	N 85.5 E
6	I9	総	20.7	2	2	469	2.6	234.5	1.3	442	2.5	221.0	1.2	N 5 W
7	E-F6	総	31.9	3	2	638	3.5	212.7	1.2	500	2.8	250.0	1.4	N 82.5 E

第2表 井戸・土坑計測表

造構No.	位置	長	短	深	枠	枠図	備考
SE01	F5	75	66	137	曲物	1-29	2段
SE02	F6	63	52	130	曲物	2-30	2段
SE03	F5	136	125	153	曲物	5-7-31-32	3段 縦板あり
SE04	E6	126	115	80	縦板	12~18	
SE05	E5.6	75	70	143	曲物	8-33	2段
SE06	H8.9	153	142	100	曲物	3-4-34~38	3段
SE07	F5	52	50	118	曲物	9-39-40	2段
SE08	E5	50	48	110	曲物	10	1段
SE09	F11	107	95	(125)	曲物	11	1段
SE10	F10.11	270	217	105	縦板	19~28	
SK02	E5	88	78	27			
SK03	G4	220	208	77			
SK04	E5	275	175	65			
SK05	I8	155	75	79			

造構No.	位置	長	短	深
SK07	F5	117	100	70
SK10	F10.11	140	122	(115)
SK19	H4	120	94	20
SK20	H4	77	60	10
SK21	I8	112	108	27
SK22	F6	123	97	10
SK23	J5	247	220	57
SK24	F6	194	115	15
SK26	H7	70	64	40
SK27	I6	55	50	20
P02	E6	53		30
P03-04	F5	72		15
P23	J6	42		10
P59	F5	30		35

第3表 井戸枠(曲物)計測表(1)

(単位:mm)

No.	造構No.	位置	最大径	最大高	最大厚	目釘 底	板幅	ケビキ	実測No.
1	SE01	下	528	481	17	20	2~	縦	F97
2	SE02	下	577	437	23	5	2~	縦	T140
3	SE06	中・内	454	352	15	2	3	縦	ET5
4	SE06	下4	395	275	17	6	2力	縦	ET4
5	SE03	下	574	298	10			縦	S89
8	SE05	下	655	577	29	7	3-帯1	縦	T139
9	SE07	上	524	376	21		3	縦	S88
10	SE08		490	383	15	82~4	3	縦	ET3
11	SE09		533	450	18	5	3	縦	F96
29	SE01	上	555	420	17	12	2~	縦	
30	SE02	上	607	430	23	20	2~	縦	
31	SE03	上	585	390	22	10	2~+帯1	縦	
32	SE03	中	598	192	14	11	1	縦	
33	SE05	上	640	372	22		1~	縦	
34	SE06	上	590	154	27	24	1-帯1	縦	
35	SE06	中・外	480	210	18	12	1~	縦	
36	SE06	下1	384	107	18	6	1力	縦	
37	SE06	下2	389	98	10	16		縦	
38	SE06	下3	429	122	13	15	1	縦・斜	
39	SE07	上・上	500	100	8			縦	
40	SE07	下	546	370	9	6	3	縦	

第3表 井戸枠(縦板等)計測表(2)

(単位:mm)

No.	造構	種別	長	幅	厚	樹種	木取	備考	実測No.
6	SE03	縦板	629	146	13.0	針	板	下段縦板	AM6
7	SE03	縦板	389	85	15.5	針	板	上段縦板北3	T152
12	SE04	横枝	815	44	30.0	針	辺	東側・凸部	ET30
13	SE04	横枝	820	53	34.0	針	辺	西側・凸部	AM2
14	SE04	横枝	822	49	44.0	針	辺	南側・凹部	ET32
15	SE04	横枝	810	64	33.0	針	辺	北側・凹部	ET33
16	SE04	横板	680	45	30.0	針	板	北側上段	AM4
17	SE04	棒状	565	66	29.0	針	辺	北西角杭	ET12
18	SE04	棒状	467	69	35.0	針	辺	南東角杭	ET11
19	SE10	縦板	1218	98	12.0	針	板	木①	AM8
20	SE10	縦板	997	117	9.0	針	板	木②	AM7
21	SE10	縦板	887	70	14.0	針	板	木⑩	AM10
22	SE10	横板力	714	56	8.0	針	板	木⑪	AM9
23	SE10	縦板	447	56	8.0	針	板		F107
24	SE10	縦板	316	107	15.0	針	板		F108
25	SE10	縦板	434	41	8.0	針	板	木⑨	AM12
26	SE10	棒状	565	43	53.0	針	辺	木④	AM3
27	SE10	杭	484	74	50.0	広	心	木⑧	F105
28	SE10	杭	278	68	50.0	広	心	木⑪	F106

※29~40は実測図未掲載である。

第4章 出土遺物

第1節 概要

本遺跡から出土した遺物の大半は鎌倉時代や南北朝時代の中世のものであり、井戸や川跡から多く出土している。遺物の年代は縄文時代から近世までみられ、縄文時代晚期、古墳時代前期、平安時代、鎌倉時代、室町時代前半のものが多くみえる。以下に、遺構毎に報告するが、紙幅の都合により、その遺構の年代を示すものや特殊なものなどを主に取り上げる。法量や調整の概略などは遺物観察表を、また文中の分類や年代観については、参考文献に記した各論考をご参照願いたい。

第2節 挖立柱建物・ピット

S B04 (第23図) 1~6、9および本建物の可能性があるピットから7・8が出土している。13世紀頃の土師器皿が大半である。3は口縁端部を面取りするもの、5は底部境に明瞭な稜を持って口縁部が立ち上がるるものである。6の口縁部は外反するが、指痕箇所に該当するためであり、本来は直線的に延びている。図よりも大ぶりな印象を受け、3、5と共に13世紀前半代の所産と考えられる。

S B06 (第23図) 13・14の土師器皿、23の柱根状木製品が出土している。非常に小さく、柱としてよいか不明である。土師器皿は13世紀代の所産であろう。

S B07 (第23図) 10~12の土師器皿が出土している。11は小型ながら深みで肉厚な器形であるため、やや特異な印象を受ける。

P 02 (第23図) 15~17の土師器皿が出土している。17は肉厚で、他の土師器皿とは一線を隔するが、胎土は他の土師器皿と同様に緻密である。碗もしくは鉢であろうか。

P 43 (第23図) 20の土師器小皿が出土している。

P 45 (第23図) 18の土師器皿と19の土器が出土している。19は他の土師器皿と同様に緻密な胎土を持っており、同時期と考えられる。19はP01とP45の接合品である。

P 108 (第23図) 21の口縁部1段ナデを施す小皿が出土している。

P 129 (第23図) 22の土師器皿が出土している。22は器壁は厚めで、2段ナデ状の痕跡が見られる。口径はやや小ぶりであるために、2段ナデであるかは不明である。

P 139 (第23図) 24の断面長方形形状を呈する辺材の木柱が出土している。

第3節 井戸・土坑

S E01 (第23図) 25~31の土師器皿が出土している。口径11cm前後のものが多い。口径が縮小傾向にあることや口縁部が外反する特徴から14世紀代の所産と考えたい。30・31は口径が大きく、口縁端部に面取りが見られるなど、13世紀代の特徴がみられる。

S E02・SK07 (第23~25図) 32~105が出土しているが、内98~105はSK07出土のものである。当初、SE02単独の出土品として取り上げていたが、SE02掘方を掘り込むSK07の土層から出土しているものが多いことが分かったために、両遺構出土品として扱う。SK07はSE02の掘方に関する遺構の可能性も考えられ、出土品にも時期差はほとんどみられない。32~91の土師器皿は口縁端部を面取りするものが多いが、面取りが弱いものや全周しないものが定量認められる。小皿の平均口径は約82mm、大皿は約132mmであり、形態と考え合わせると、13世紀前半から中頃の所産と考えられる。90は浅い器形であるが、歪みが大きく、破片も小さいために全形は不明である。92は台付の小皿である。台部外面には縱方向の指痕、内面には粘土接合痕がみられる。小皿部分の形態は13世紀代のものであ

るが、台を付けるものは類例が少ない。近隣では畠田・寺中遺跡で出土している。93は用途不明品であるが、胎土が類似していることから、土師器皿群と同時期と考えられる。器壁は厚く、外面には指痕が明瞭に残り、上方へ延びる小さな痕跡がみられるが、全形は不明である。94～96も土師器皿と同様の胎土である。破片であるが、ハの字状に開く体部に平底上の底部を伴うと考えられ、粘土接合痕が顕著に認められるものである。煮炊具であろうか。97はメノウ片であり、火打石の細片と考えられる。98～105のSK07出土土師器皿は、口縁端部面取りを施すものが少ない。

S E03 (第 25・26・28 図) 106～122、206・207、211～213 が出土している。107は深みのある器形で、口縁端部を面取りし、口縁部に2段の横ナデを施すものである。ナデは上下で痕跡が異なる。109は直線的に開く口縁部で、断面方形の口縁端部面が外傾するもので、珠洲II期であろう。110は口縁外端部が突出し、端部面は外傾する。卸目原体は粗い。珠洲IV期の製品であろう。119は曲物側板の転用品で、左右端部は削りによって薄く加工されている。用途は不明であり、中央の穿孔は曲物に由来する可能性がある。120は折敷である。包丁痕が多数認められる。

S E04 (第 26 図) 123～146 が出土している。123は短い口縁部が直立的に立ち上がり、面取りした端面が外傾する小皿である。いわゆるコースター型を志向した製品であろうか。土師器皿は口縁部面取りや1段ナデ、口径の大きさから13世紀前半頃の所産と考えられる。144・145は当初鍋などの把手を考えたが、胎土は土師器皿と類似する緻密な胎土であり、土師器皿の台となる脚の可能性も考えたので、図のように掲載した。146は精円形折敷であろう。

S E05・S K04 (第 26 図) 147～159 が出土している。147～152はSE05出土品で、13世紀後半から14世紀前半頃の製品であろう。153～157はSE05もしくはSK04出土のもので、156は用途不明の土製品である。胎土は土師器皿に類似する。158・159はSK04出土品で、159は縄文晩期末の深鉢である。なお、重複するSE08からは井戸杵以外は目立った遺物が出土していない。

S E06 (第 27 図) 160～175 が出土している。土師器皿は13世紀後半から14世紀前半頃のものである。165・166の漆器も同様であろう。

S E07 (第 27 図) 185～188 が出土している。土師器皿は13世紀代のものと考えられる。188は下端部を丁寧に調整する広葉樹の心材で、井戸出土を考慮し、陽物の可能性を考えている。

S E09 (第 27 図) 176～184 が出土している。土師器皿は13世紀代のものと考えられる。

S E10 (第 27 図) 189～194 が出土している。土師器皿は13世紀代か。191の漆器皿も同時期であろう。トチノキの木胎に、炭粉下地、2層の漆塗りが確認され、漆は鉄分を混合した黒色漆である。

S K01 (第 28 図) SE05・SK04の表層であり、195～199が出土している。197・198は土塊あり、甌などの構造物であるか。他の遺構からも定量出土している。

S K02 (第 28 図) 200～205 が出土している。土師器皿は、外反する口縁部の口径が縮小傾向にあり、器形は深めである。14世紀代の製品と考えられる。205は口縁部下方に焼成前穿孔が認められる土師器皿（碗・杯）で、口縁部は外反気味、深めの器形である。孔は横ナデの下に穿っている。

S K23 (第 29 図) 226～234 が出土している。下層からの遺物は少ない。230は外面斜め方向条痕のくの字口縁頭部に列点文を施す深鉢で中屋から下野式の所産であろう。233は墨痕が不明瞭だが、図のような横向きの人形に見える。鳥帽子状の被り物、目周辺、口、鬚髪などが墨書きと加工によって表現されている。細かな時期を特定できる遺物に恵まれないが、概ね13世紀代の遺物群であろう。

S K33 (第 28 図) 225の綠釉陶器碗が出土している。外反する口縁の端部周辺は釉が剥落している。

S X01 (第 29 図) 235～240の外面に横方向もしくは斜め方向の条痕を施す縄文晩期土器が出土している。235・236は面取りした口縁端部に条痕を施す。237は口縁部が端部の押圧によって波状を呈

する。238は口縁端部を細く仕上げている。下野式頃の所産であろう。

S D02 (第30図) 241~247の外面に横方向もしくは斜め方向の条痕を施す縄文晚期土器が出土している。241・243は口縁部が端部の弱い押圧によって緩やかに波状を呈する。242は残りが悪く詳細は不明だが、口縁端部の列点文による押圧によって口縁部が波状を呈する。245は胴部に外面からの焼成後穿孔をもつものである。下野式頃の所産であろう。

第4節 溝・川

S D01 (第31~39図) 255~453が出土している。255~262は表層もしくは上層出土のものである。260は古瀬戸卸皿で口縁端部は面を持ち、中央が凹んでいる。釉は剥落によるのかほとんど認められない。中期の製品と考えられる。261は内外面に鉄釉が施され、内傾する口縁部の端部は玉縁状に肥厚する。古瀬戸後期の祖母懐茶壺の口縁部に類似する。262は内外面に透明釉もしくは青白磁釉を施し、外底は無釉、見込みに切込みによる圈線が入る。青白磁合子か。263~266は川の北岸(北を下流とすれば東岸)付近から出土したものである。266は267~269は中位層の黒褐色粘質土層から出土したものであり、13世紀頃の土師器皿などが出土している。270~297は地山直上の砂層から出土したものである。270はV期の須恵器無台坏で高松產と考えられる。外底部に「殿」墨書が見える。「殿」墨書は近隣に所在する歟田ナベタ遺跡で出土している。275~280は平安時代後半から末の内面黒色土器や土師器碗・皿で柱状高台の製品も見られる。285~293は土師器皿で13世紀代が主体である。294は外底部に墨書が見られる龍泉窯系青磁碗I・II類である。295は珠洲I期の甕である。298~305はSD03合流付近の砂層から出土したものである。11世紀頃の内面黒色土器が多い。304は内面が薄く施釉されているように見え、外面の素地よりも平滑である。貼付高台で、高台内部の付根が沈線状に回む。11世紀頃の灰釉陶器か。305は白磁IV類である。306~326は須恵器である。308は高台内に墨書が見えるが、判読できない。309は高台内に漆膜が見える。パレットのような利用であろうか。327は凸帶付瓶類である。329~348は平安時代頃の土師器である。碗・皿類は11~12世紀頃のものが主体である。349は綠釉陶器である。内外面ともに淡緑色を呈する釉が施され、外底部も施釉の痕跡がうかがえる。350~368は土師器皿である。口縁部に面取りするものが多くみられ、13世紀代を主体とする。362は見込み近くに焼成前穿孔とみられる孔が認められる。369~373は白磁である。II類とIV類がある。374は外面に鎬蓮弁文を持つ龍泉窯系青磁碗II b類である。375は内面に櫛点描文がみられる同安窯系青磁碗I 2 b類である。376~383は珠洲焼、越前焼、加賀焼などの国産陶器である。379は外面に「大ヶ」が刻まれる珠洲焼の壺と考えられる。381は珠洲I・II期の片口鉢である。383は珠洲焼の焼成不良品もしくは瓦質土器の底部と考えられるが、器種は不明である。388は刀子である。389・390は外面黒色塗りの漆器碗である。別個体として提示しているが、同一個体の可能性がある。391~414は木製品である。393は上端部両側面にV字の切欠きを持つ付札状の木製品であるが、墨痕はない。394は図右側の表面を平滑に仕上げ、図左側の面は削りによって凹ませている。穿孔を伴い、刀子などの柄と考えられる。395は棒両端の角を削ったものであるが、用途は不明である。399は複雑な形状に加工したものである。

S D01・02 (第41図) 中世のSD01と近世のSD02が重複する地点周辺からの出土品で、502~516が出土している。508~510・512は珠洲焼で、508はI・II期の製品である。511は加賀焼でIV期頃の製品であろう。515は漆器碗で内面には赤色漆、外面には黒色漆を施している。

S D02 (第42~45図) 517~586が出土している。518は高台内に墨書痕が見えるが判読不能である。519は高台内に墨痕が見え、転用硯の可能性がある。528は直口縁の白磁碗である。II類か。529は釉

調から龍泉窯系青磁坯皿類と考えているが、口縁部の屈折がやや小さい。530は口縁端部が小さく外反する青磁碗である。531・532は灰釉製品で古瀬戸折縁小皿や平碗などであろう。533～545は国産陶器で、13～14世紀頃の珠洲焼や16世紀後半頃の越前焼などがある。546～554は肥前産の近世陶磁器である。546は陶胎染付碗、547・548は鉄絵のある碗で18世紀中頃から後半、549・553は波佐見系磁器で18世紀代、550・552は胎土目を伴う灰釉皿で16世紀末から17世紀初頭頃、551は外面青磁釉を施す染付の鉢で18世紀後半から19世紀初頭頃、554は小型の碗で17世紀前葉である。他にも明治期の製品が出土している。558は土人形のふくら雀である。背中には梅鉢文が施される。561～563は漆器椀である。561はケヤキの木胎に下地層、黒色の漆膜層、透明褐色の漆膜層が認められる。内外面黒色漆塗りであるが、見込み中央には赤色漆で円形を描いている。564は用途不明品であるが、内面には赤色漆が施され、側壁の端部には黒色漆が一部残存している。外面にもうつすらと黒色漆を塗布していたような痕跡が残っている。565～568は円形版で桶や曲物などの蓋板もしくは底板であろう。565・566は焼印が押されており、「三津屋」、「諸江やか」と読める。565は木取りの異なる別材を木釘で接合している。569～572は桶の側板である。焼印は、各「中嶋カ」、「中嶋屋」、「中」と判読できるが、572は不明である。577は木簡であるが判読不明であり、習書木簡と考えている。578は前面に赤色漆が塗布された楕円形版であり、中央に穿孔、周囲には断面レ字状の溝が巡る。

S D03 (第40図) 462～481が出土している。467～477は土師器皿だが、13世紀代の製品が主体である。471は内底面に塗膜もしくはタール状の光沢をもった黒色付着物が確認できる。

S D04 (第39図) 454～460が出土している。456は同案窯系青磁皿I 2 b類である。458は肥前産で波佐見系の染付皿である。459は内外面鉄釉を施す碗で、外面には長石釉もみられる。美濃の拳骨碗であろう。460は肥前産で嬉野系の灰釉皿である。17世紀後半頃の所産であろう。

S D15 (第40図) 485・486が出土している。486は貼付高台の有台碗で、内外面ともに底部付近まで灰釉が施される。胎土は緻密で灰白色を呈する。灰釉陶器か。

S D16・17 (第40図) 487・488が出土している。488は13世紀代の土師器皿である。

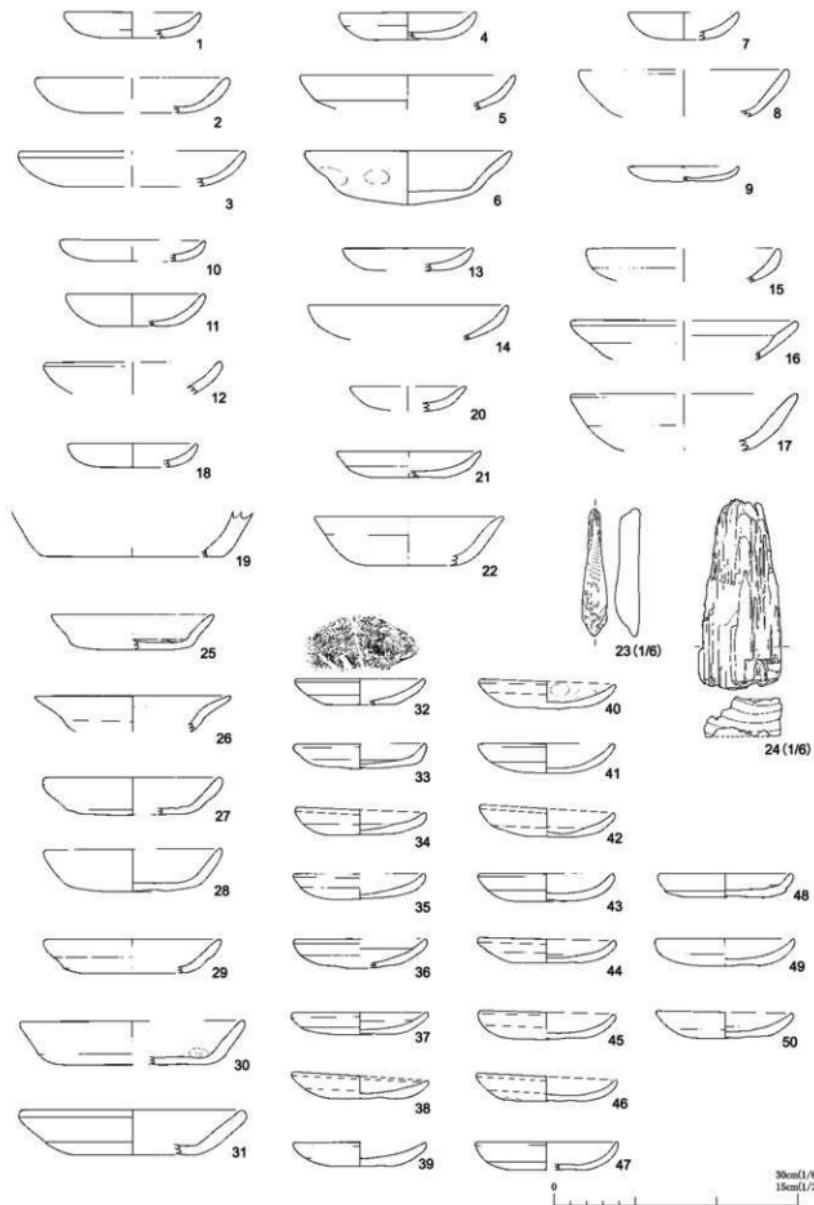
S D31 (第40図) 489・490が出土している。近代の溝であるが、両遺物はSE02・SK07もしくはSK01・04に由来する13世紀代の遺物であろう。

S D43 (第40図) 491～495が出土している。493は高台であるが、厚みがあり、てづくね風の造りであるため、土師器皿の有台部と考えている。494は口縁端部の強い面取りによって端部が内部に突き出すものである。コースター型を志向したのであろうか。ともに13世紀代の所産であろう。

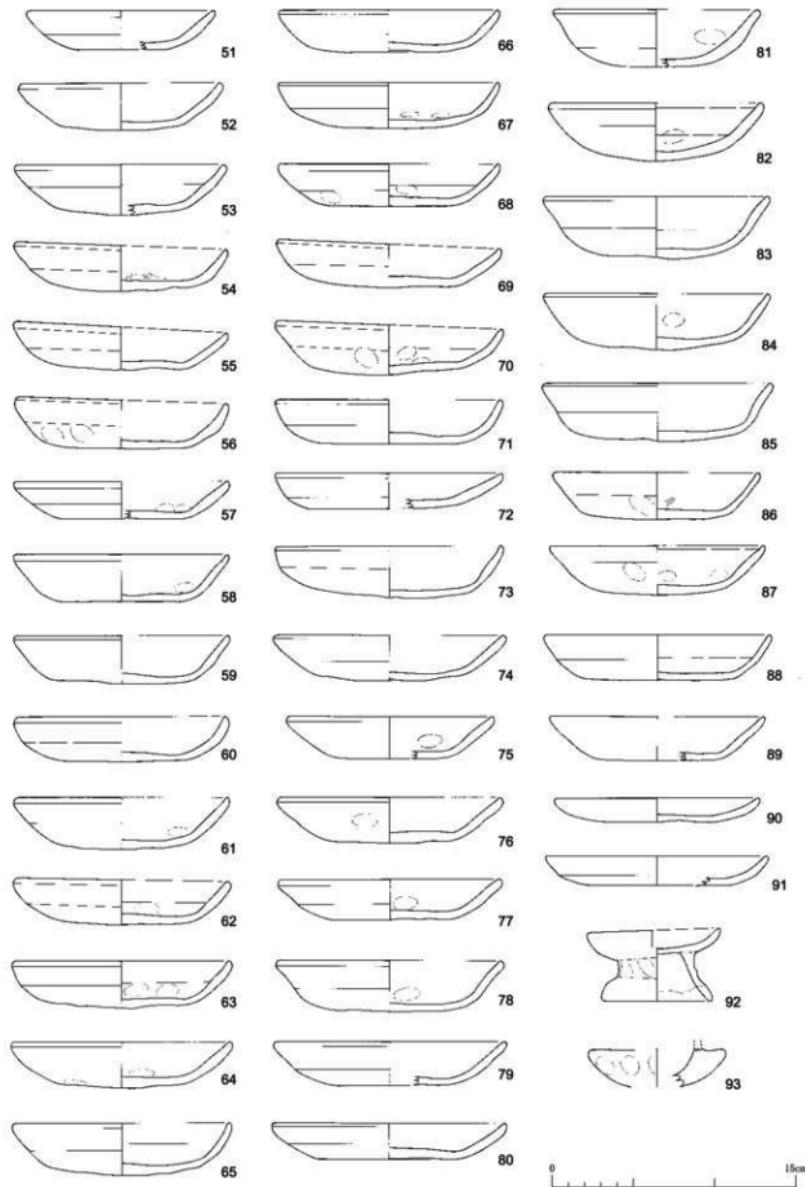
S D45 (第40図) 496・497が出土している。496は外面が黒っぽく発色し、胎土は灰色を呈する瓦質土器のようであるが、造りは珠洲焼の甕である。

【参考文献】

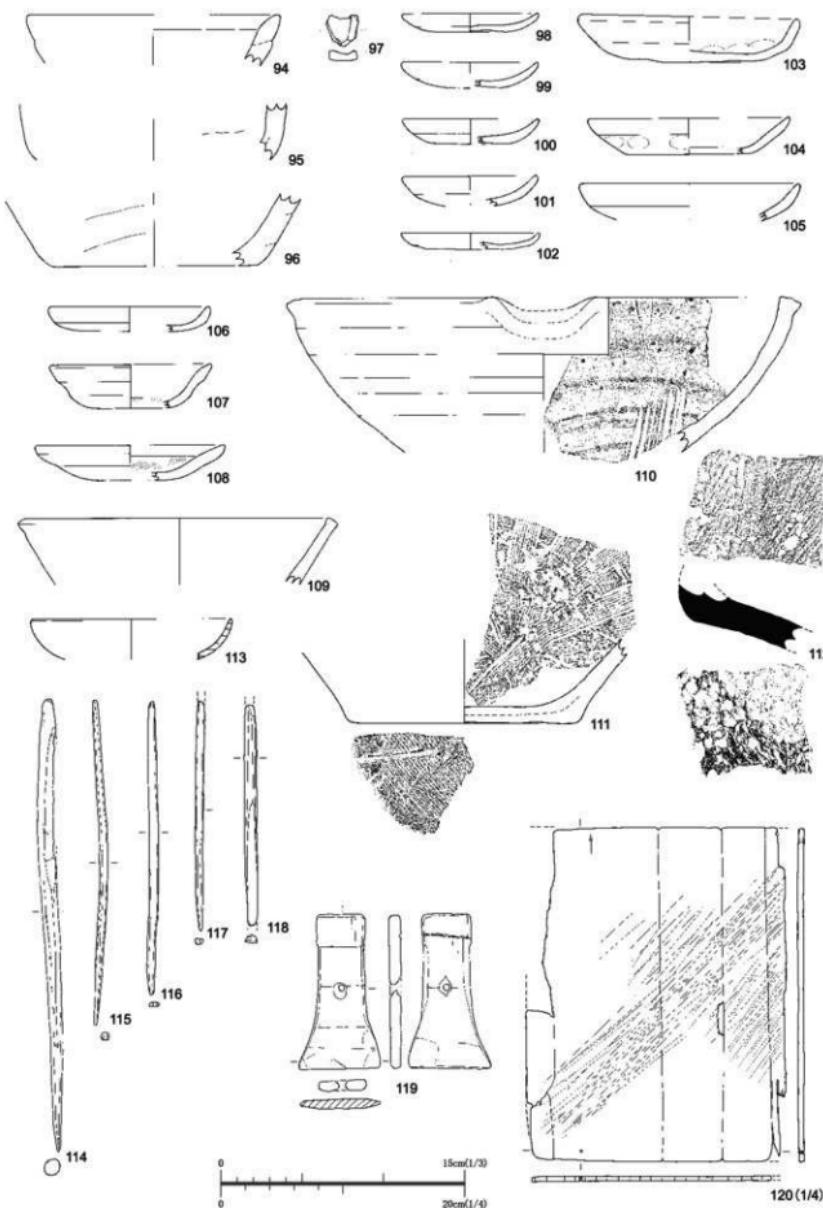
- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会
垣内光次郎 2001 「中世の焼物生産」『新修小松市史資料編3 九谷焼と小松瓦』小松市
九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』
古代の土器研究会 1994 『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東3 施釉陶器－』
太宰府市教育委員会 2000 『大宰府条坊跡XV－陶器分類編－』
田中照久・木村宏一郎 2005 「越前」『中世窯業の諸相 資料集』
藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』高志書院
森田勉 1982 「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会
山下峰司 1995 「灰釉陶器・山茶碗」『概説 中世の土器・陶器』真陽社
吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館



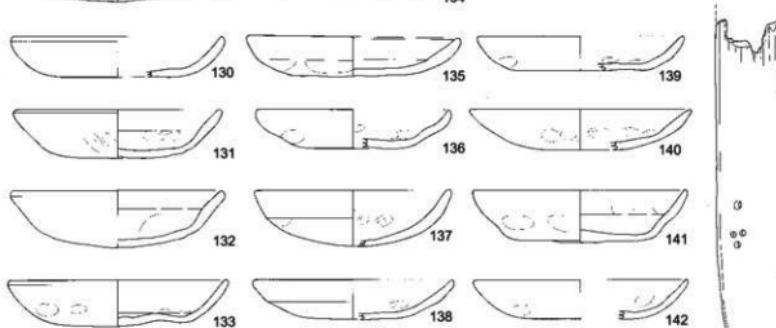
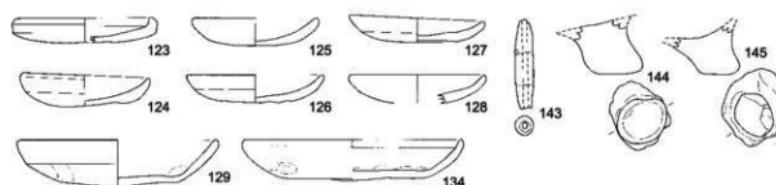
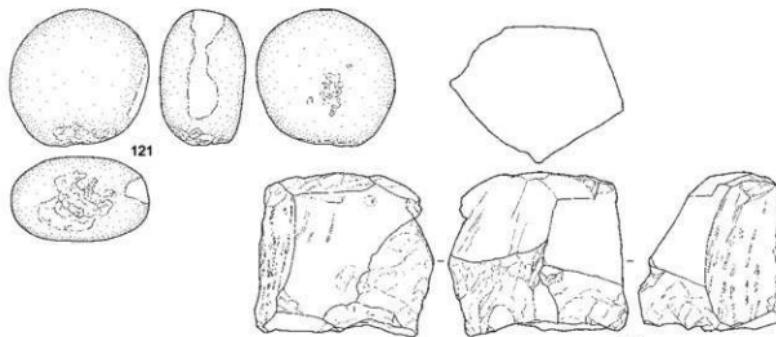
第23図 SB04(1~9)、07(10~12)、06(13~14・23)、ピット(15~22・24)、
SE01(25~31)、SE02・SK07(32~50)出土遺物 [S=1/3・6]



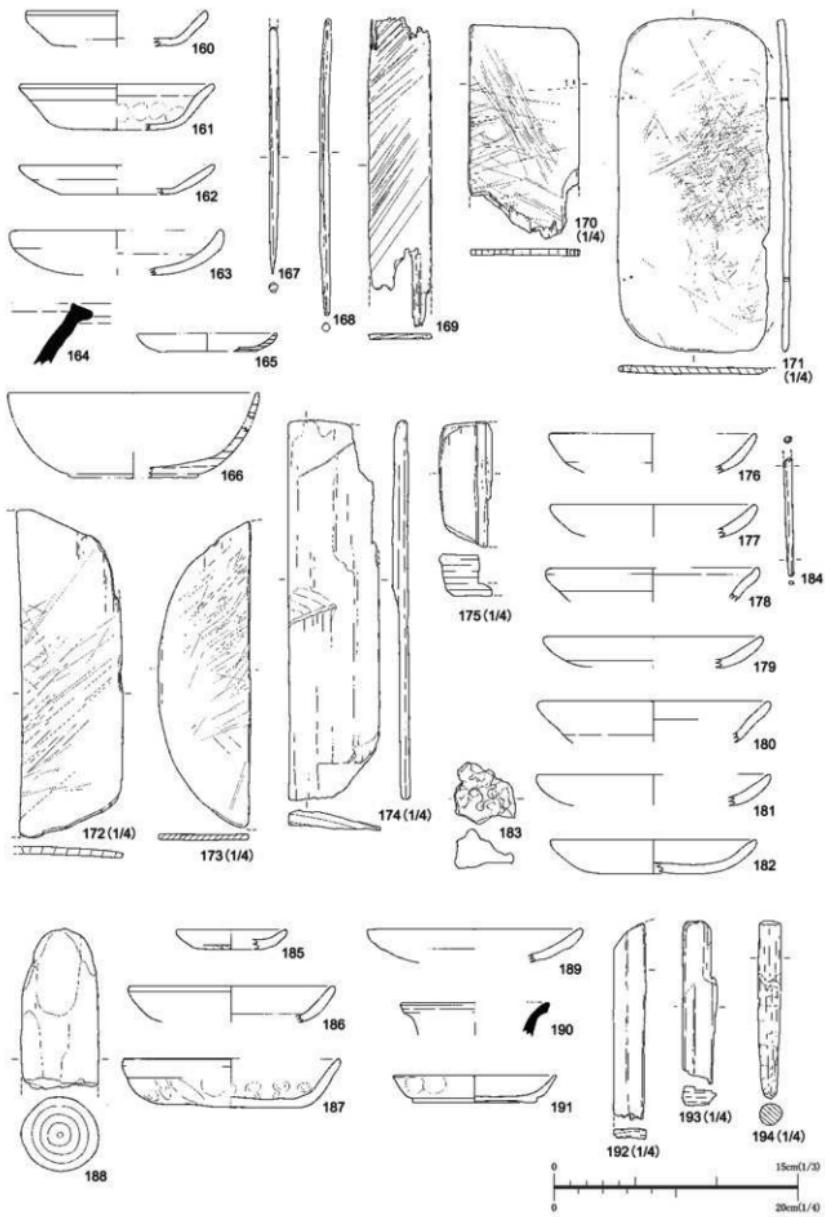
第24図 SE02・SK07出土遺物 [S=1/3]



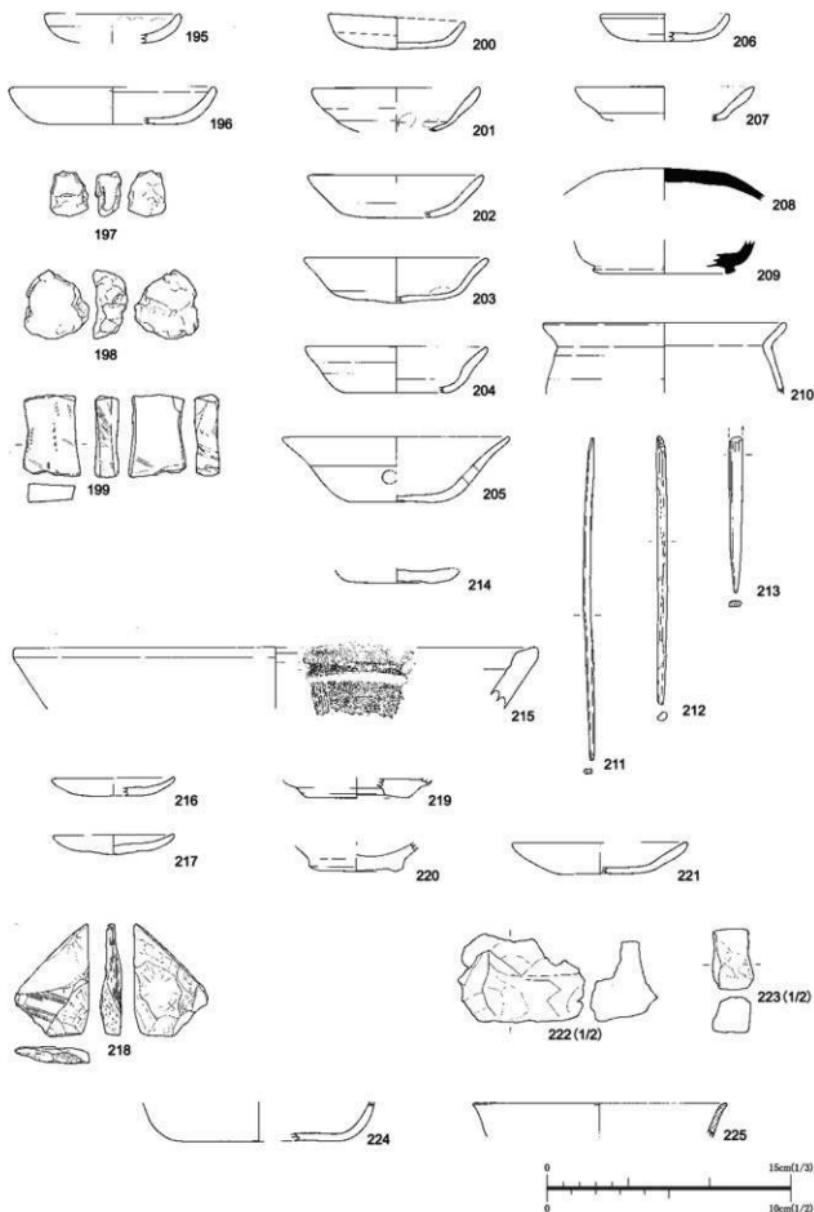
第25図 SE02・SK07 (94~97)、SK07 (98~105)、SE03 (106~120) 出土遺物 [S=1/3・4]



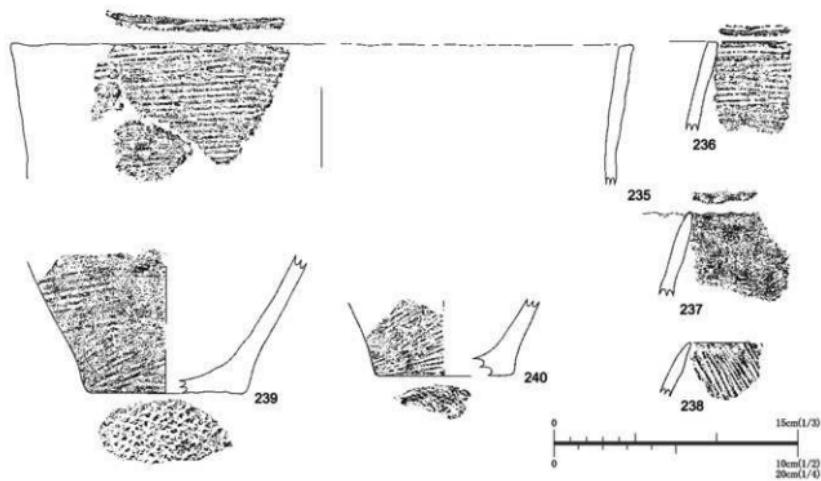
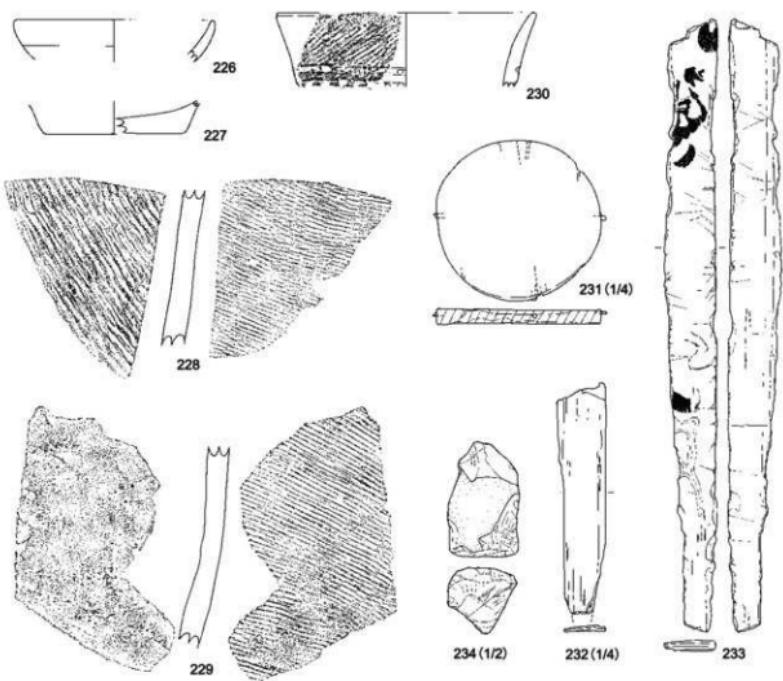
第26図 SE03 (121・122)、SE04 (123～146)、SE05 (147～152)、
SE05・SK04 (153～157)、SK04 (158・159) 出土遺物 (S=1/3・4)



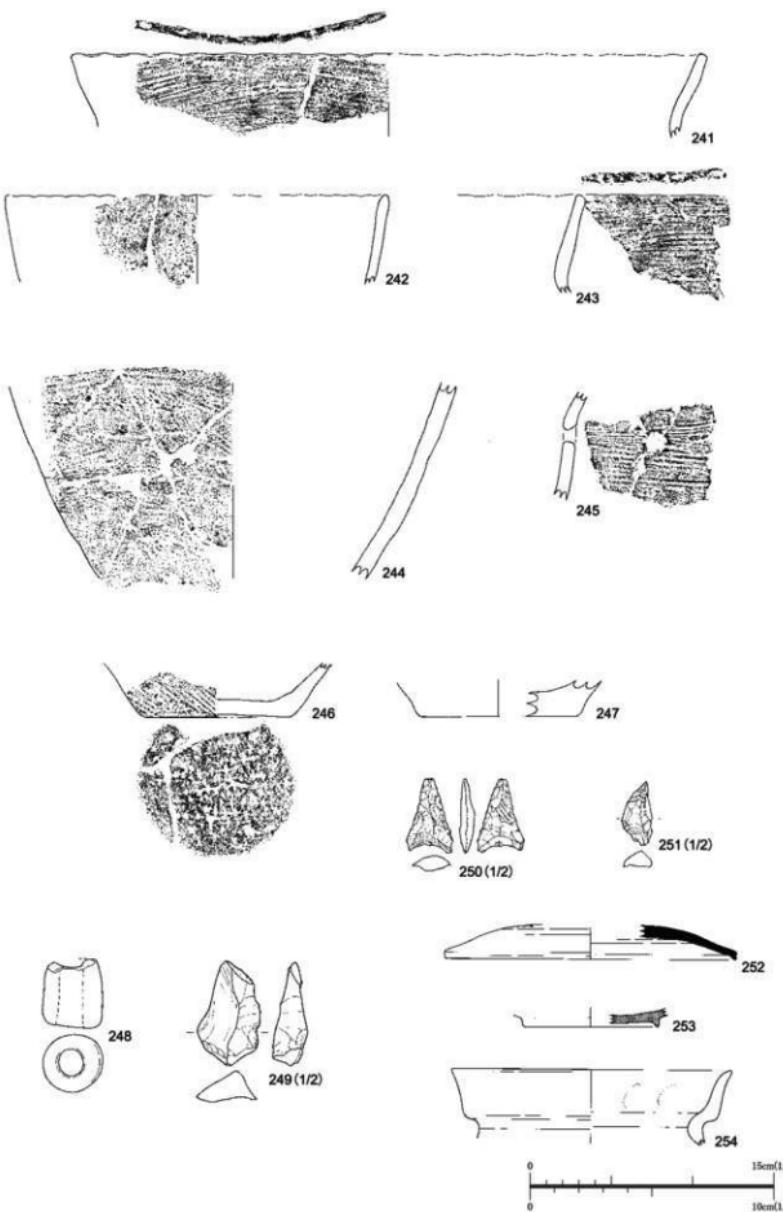
第27図 SE06 (160~175)、09 (176~184)、07 (185~188)、10 (189~194) 出土遺物 (S=1/3・4)



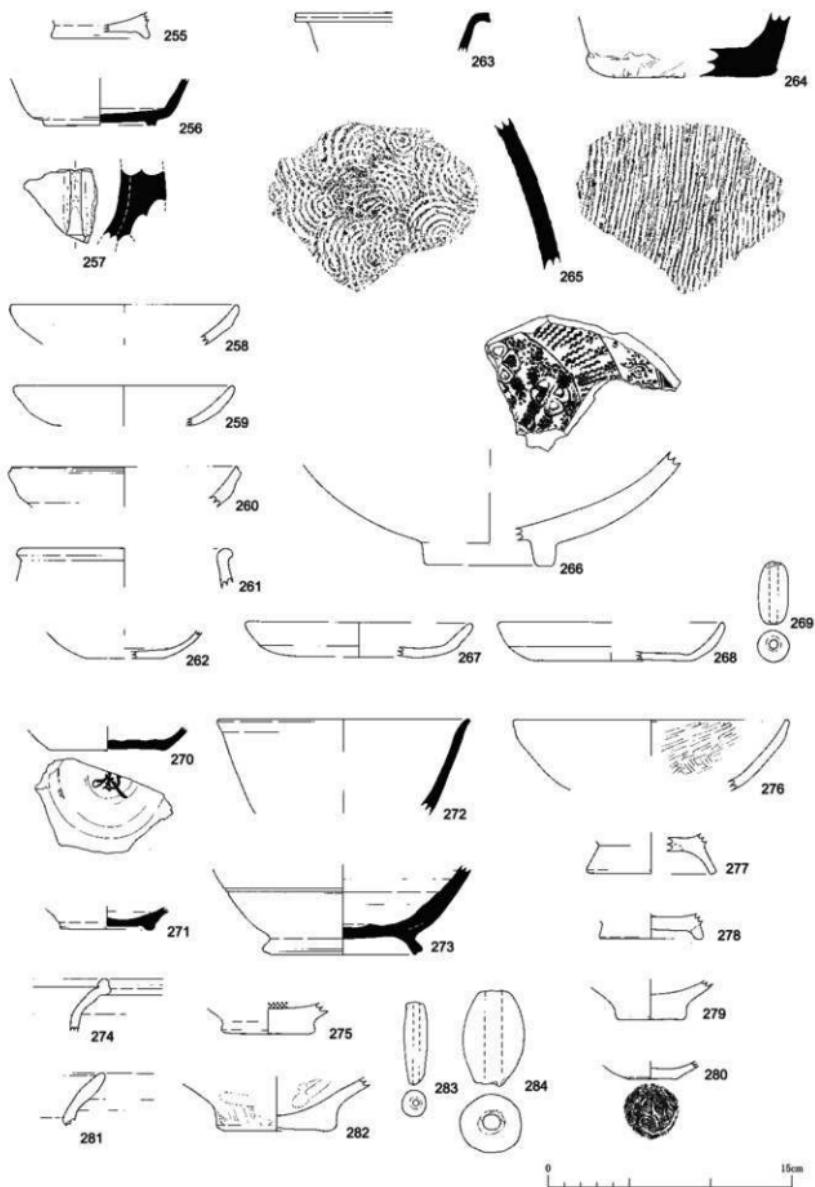
第28図 SE03 (206・207,211～213), SK01 (195～199), 02 (200～205), 03 (208～210), 08 (214), 09 (215), 10 (216・217), 13 (218), 22 (219・220), 24 (221～223), 26 (224), 33 (225) 出土遺物 [S=1/2・3]



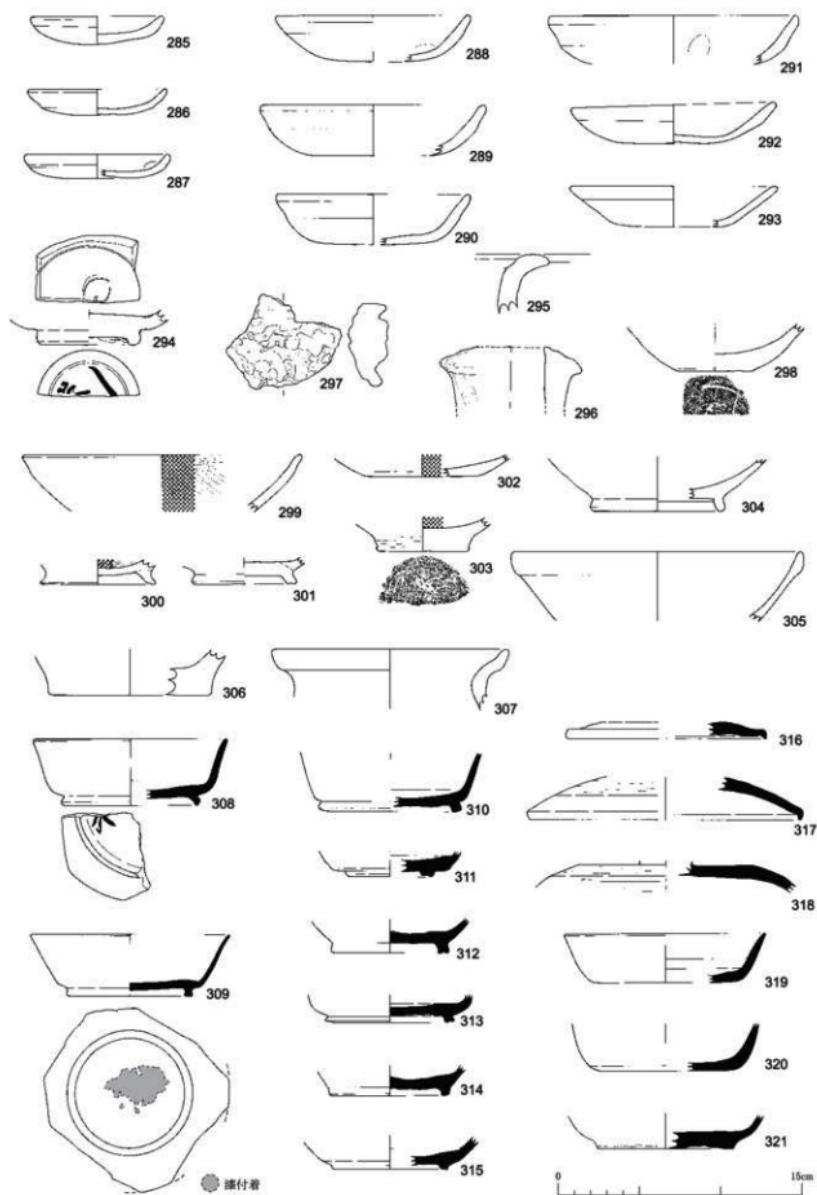
第29図 SK23 (226~234)、SX01 (235~240) 出土遺物 [S=1/2・3・4]



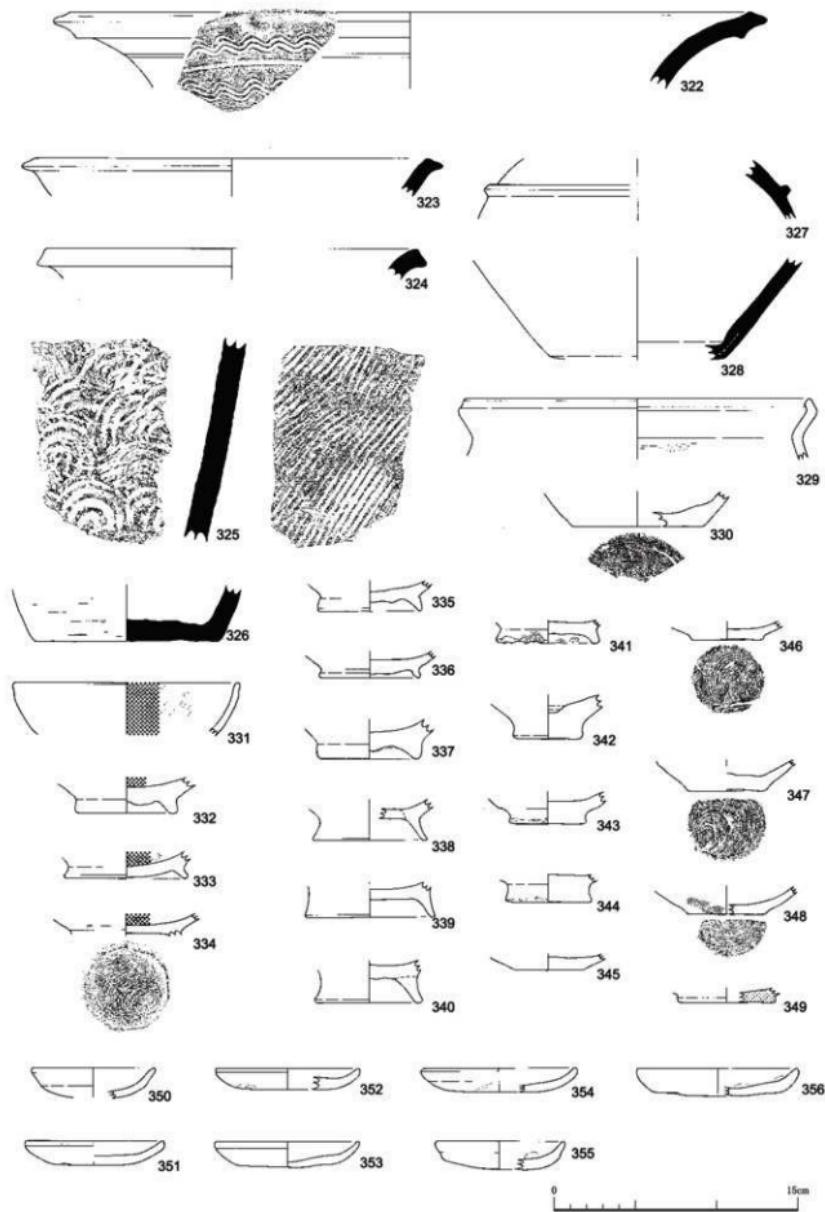
第30図 SX02 (241～247)、04 (248)、05 (249)、遺構外 (250～254) 出土遺物 [S=1/2・3]



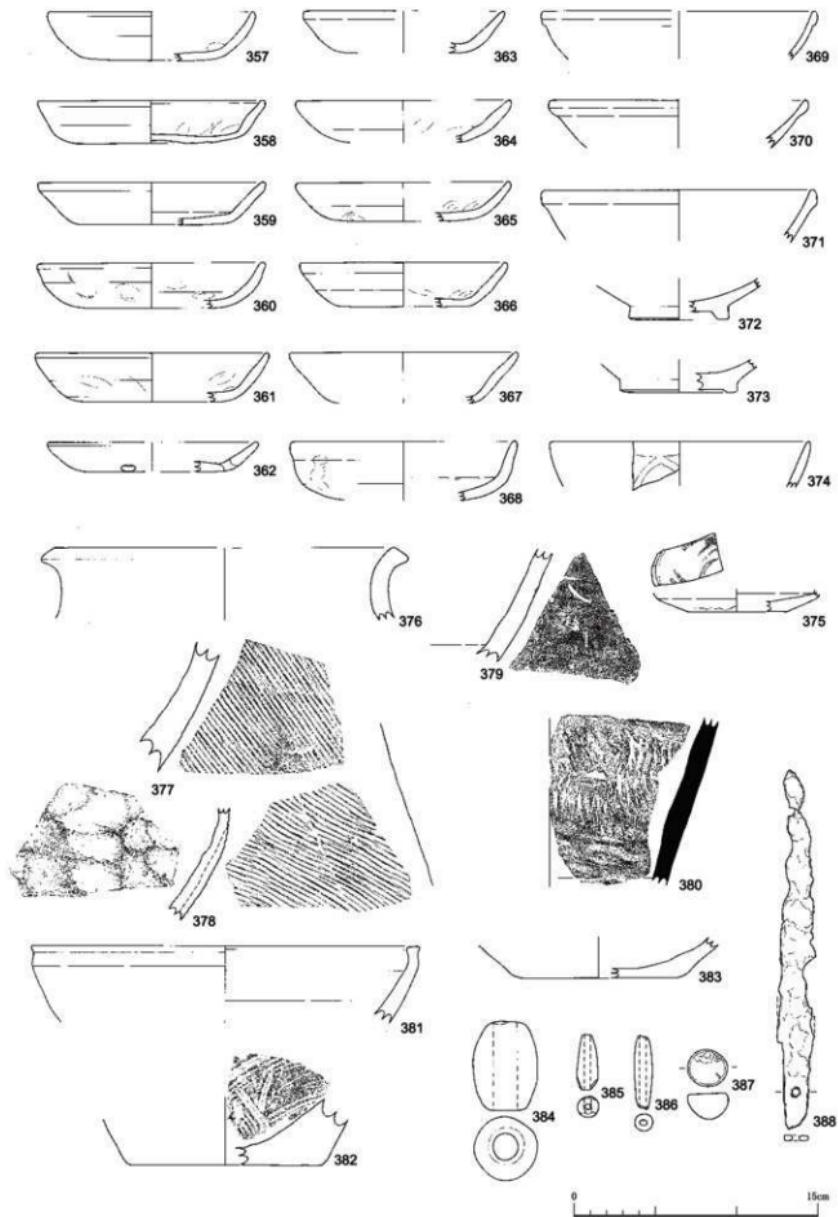
第31図 SD01出土遺物(1) [S=1/3]



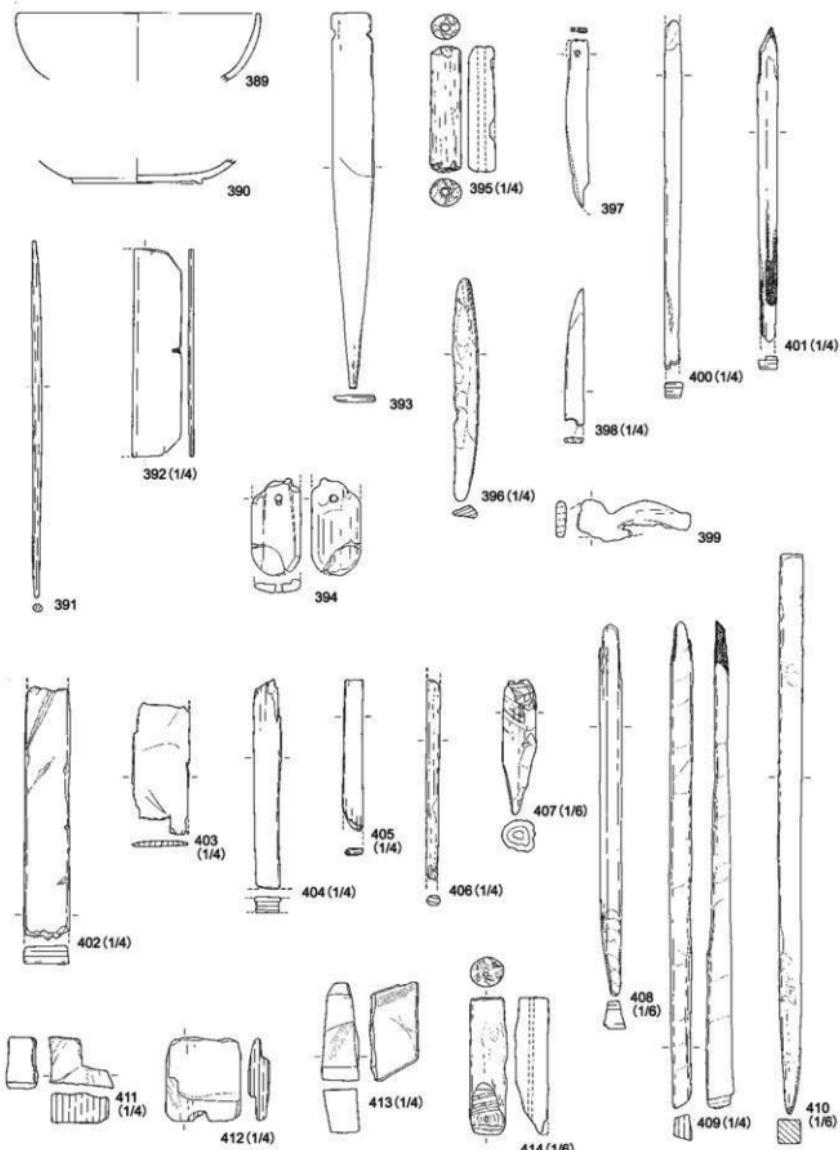
第32図 SD01出土遺物(2) [S=1/3]



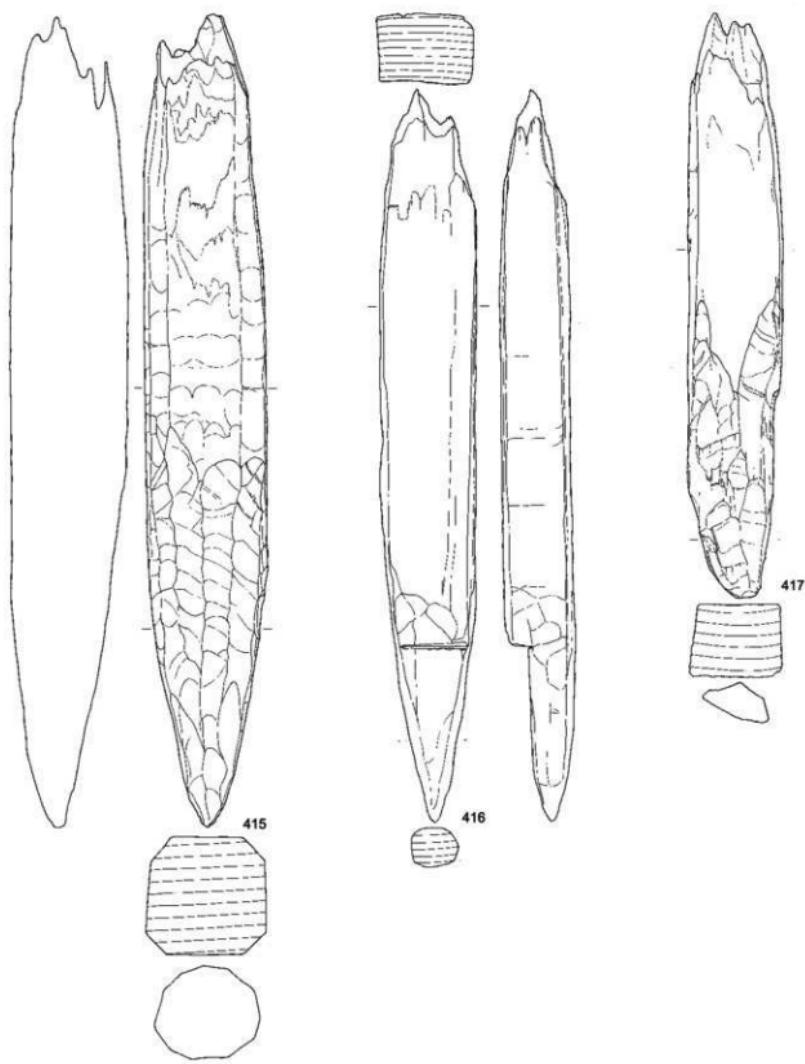
第33図 SD01出土遺物(3) [S=1/3]



第34図 SD01出土遺物(4) [S=1/3]

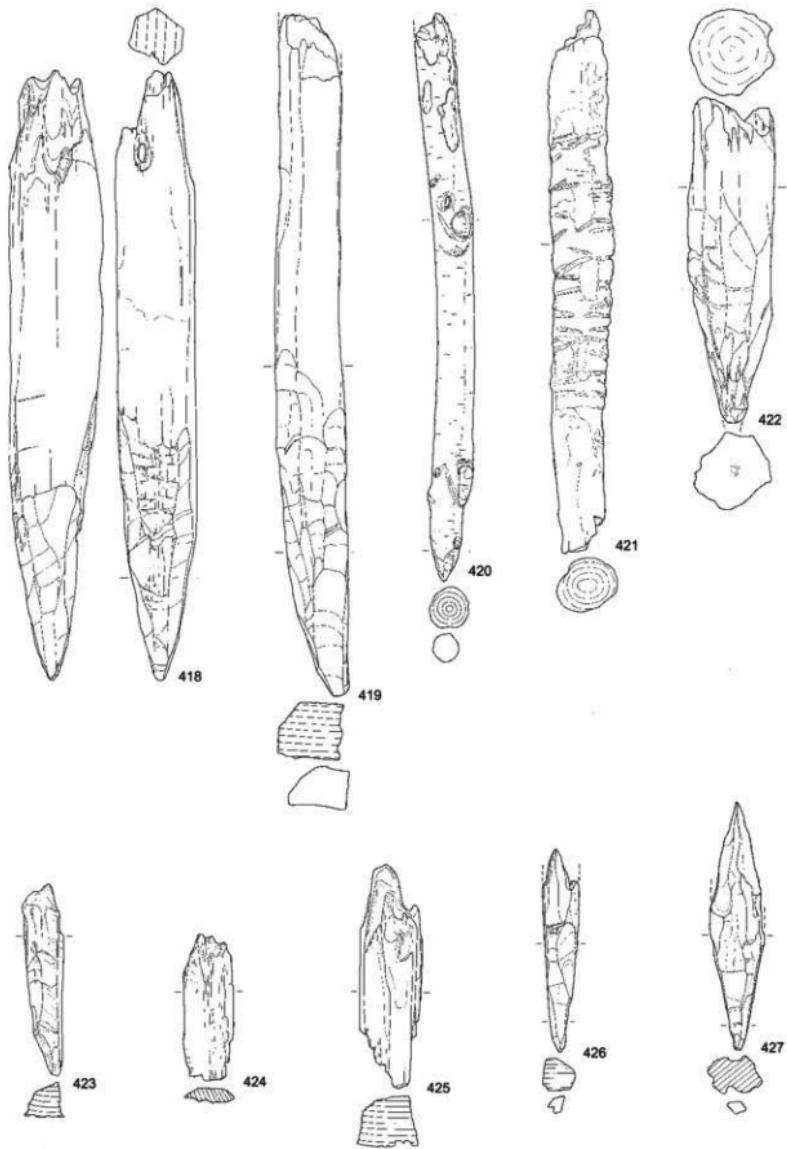


第35図 SD01出土遺物(5) (S=1/3・4・6)



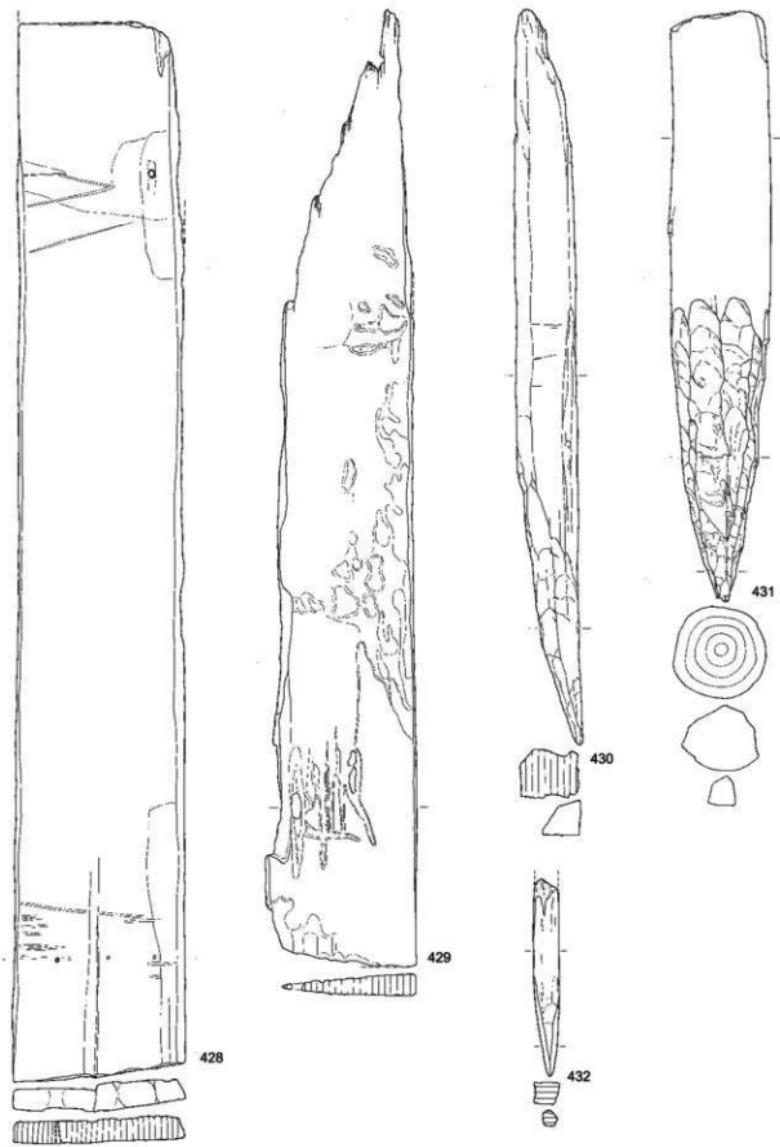
0 40cm

第36図 SD01出土遺物(6) [S=1/8]

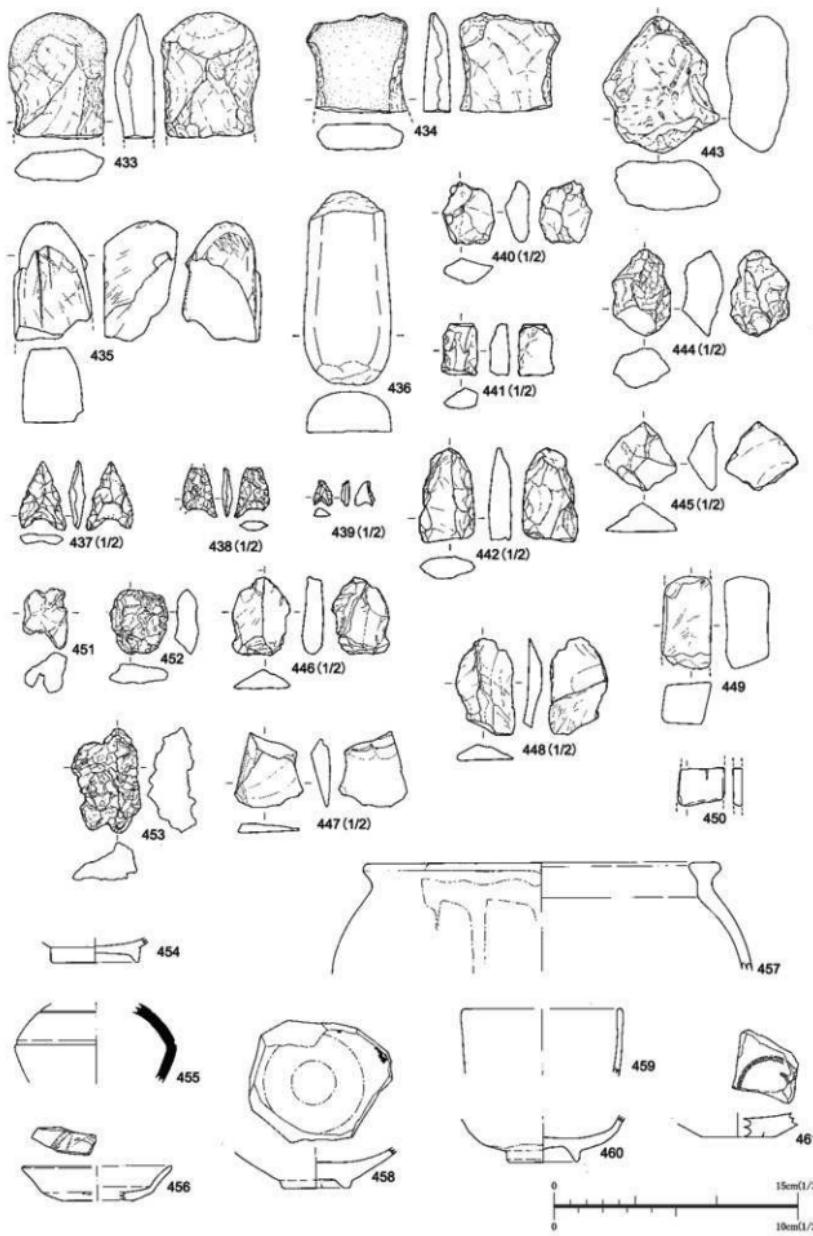


0 40cm

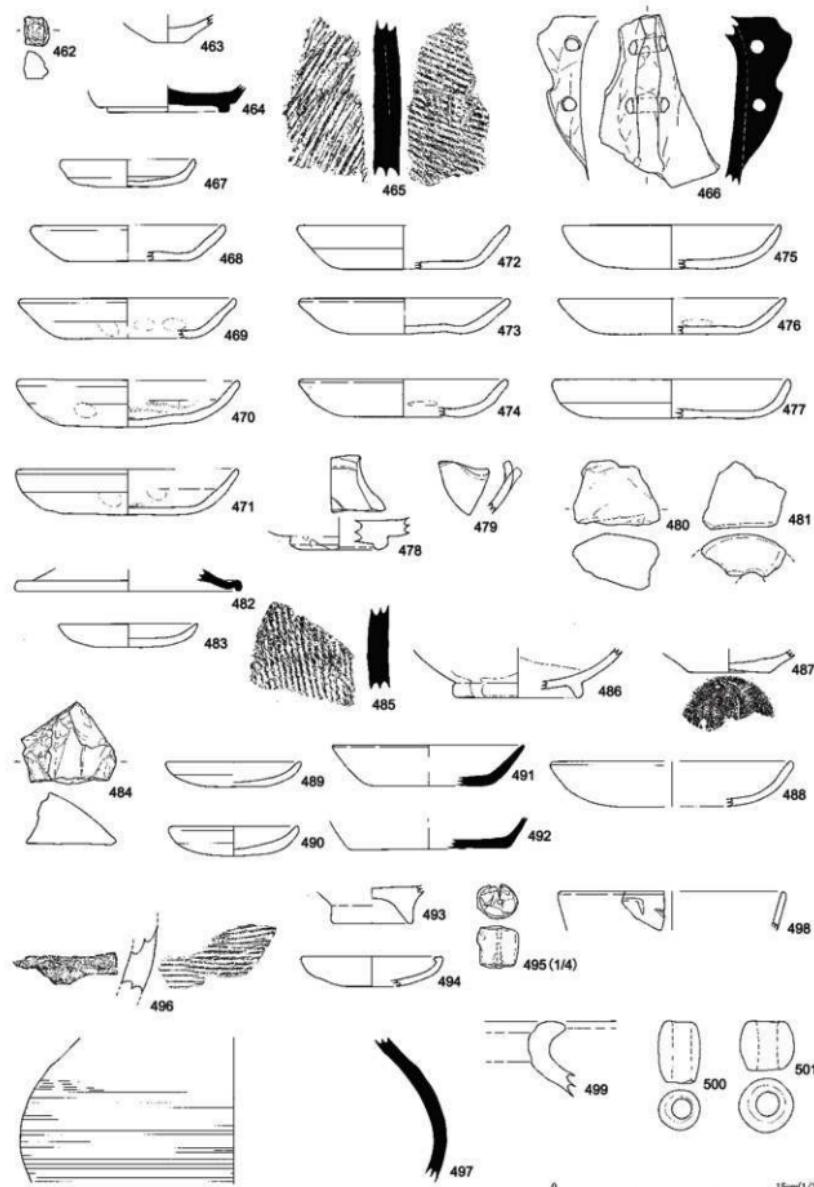
第37図 SD01出土遺物(7) [S=1/8]



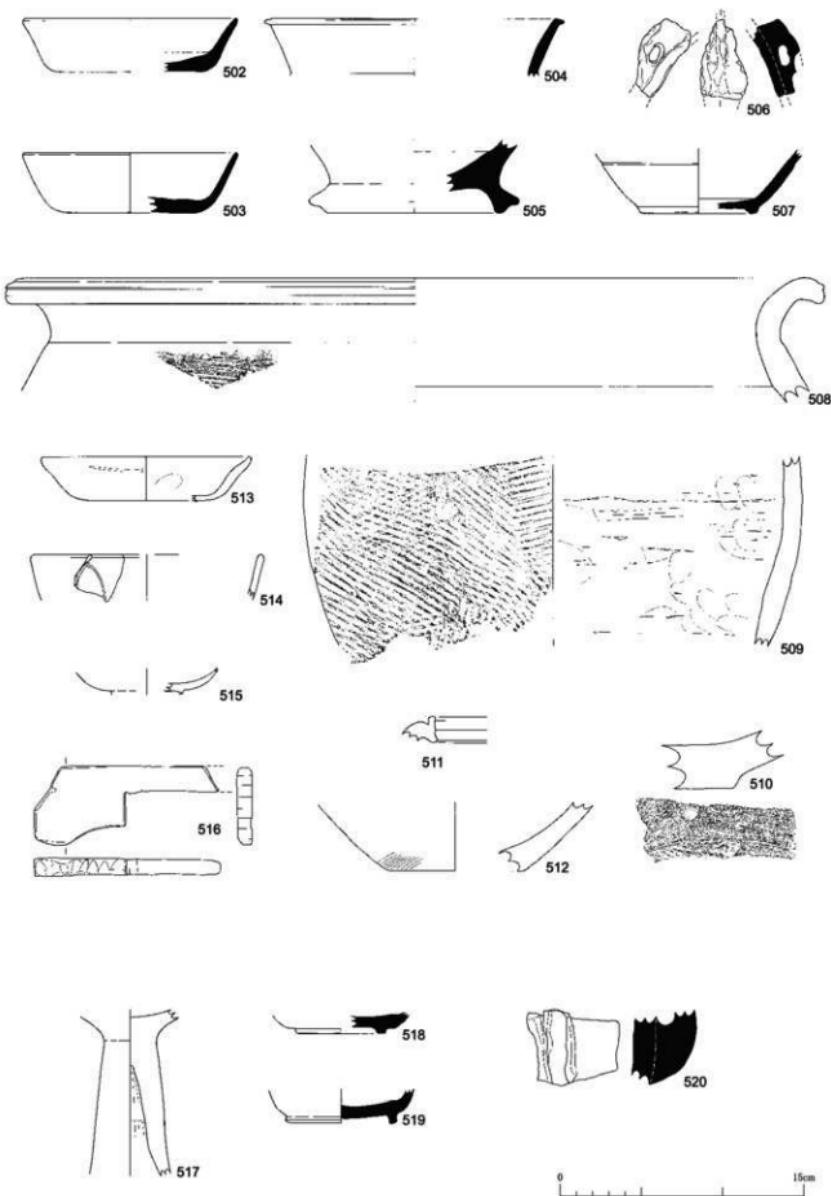
第38図 SD01出土遺物(8) [S=1/8]



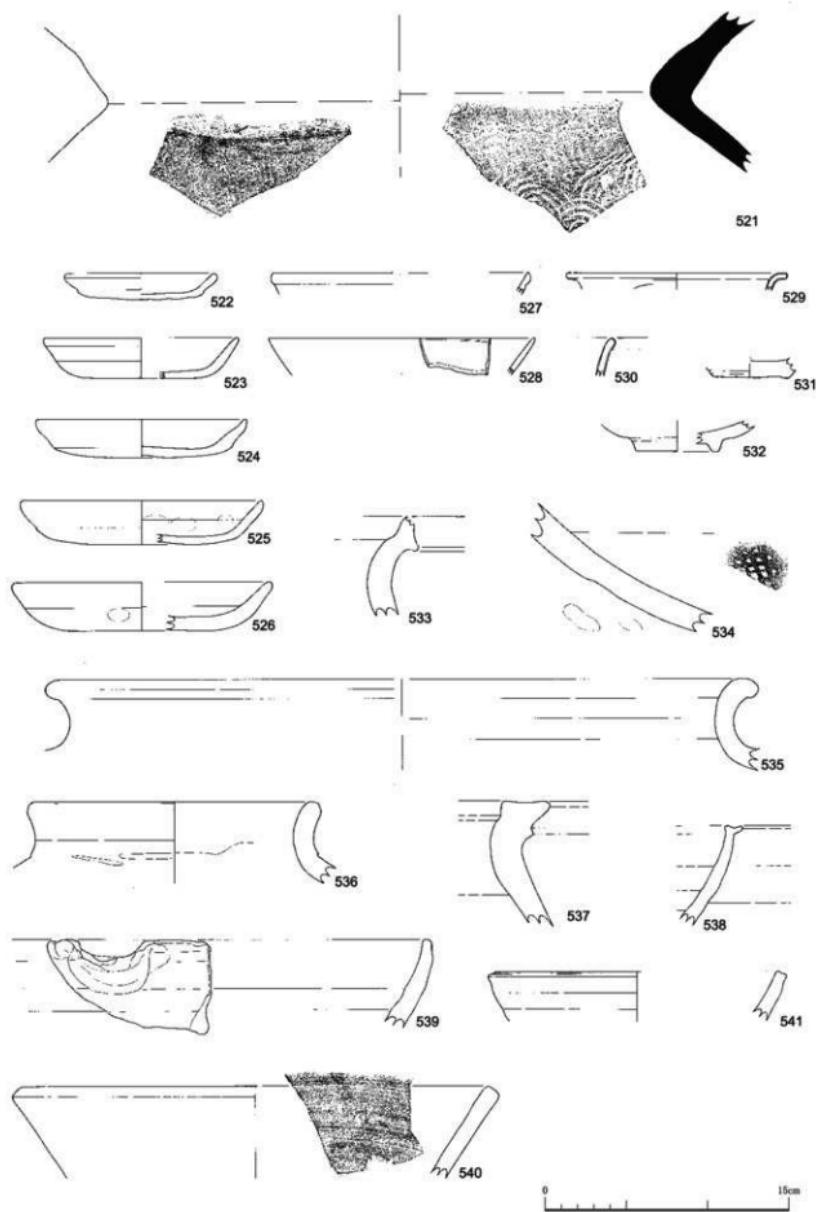
第39図 SD01 (433~453)、04 (454~460)、38 (461) 出土遺物 [S=1/2・3]



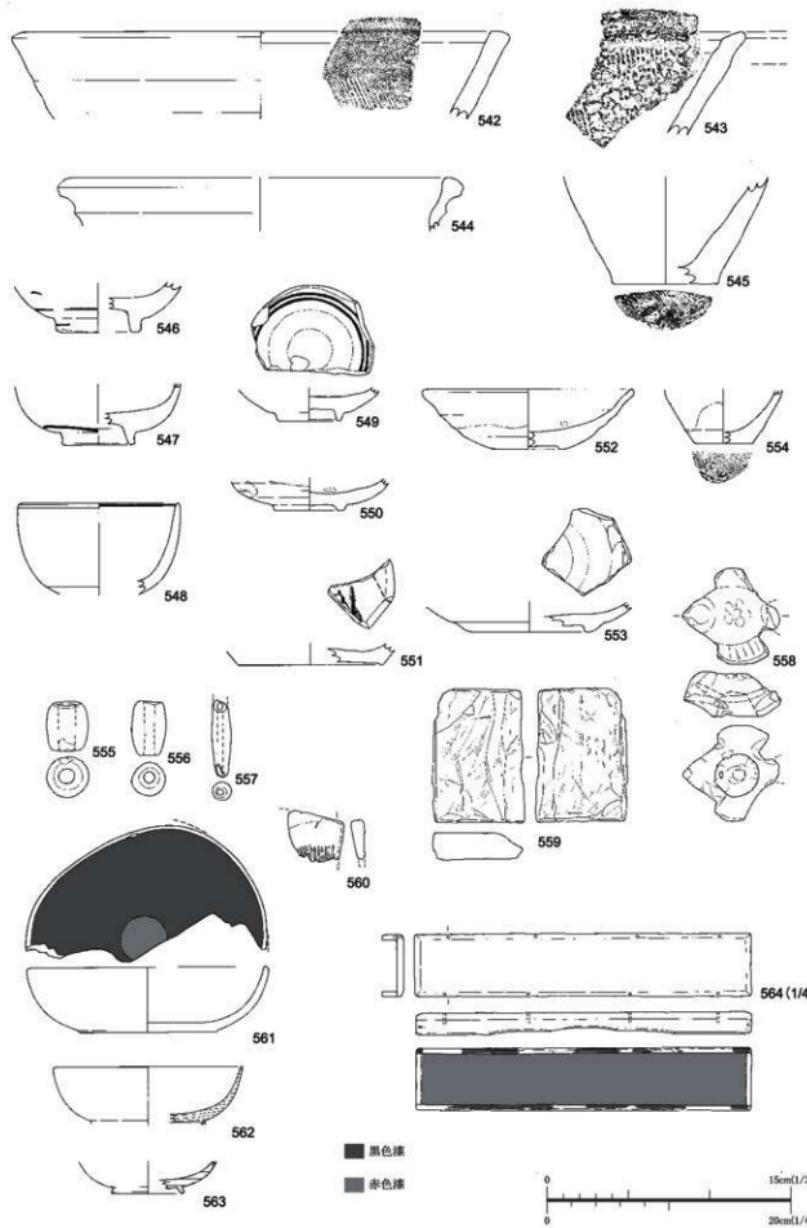
第40図 SD03(462~481)、05(482~483)、06(484)、15(485~486)、16・17(487~488)、31(489~490)、
43(491~495)、45(496~497)、49(498)、48(499)、56(500)、59(501)出土遺物 [S=1/3・4]



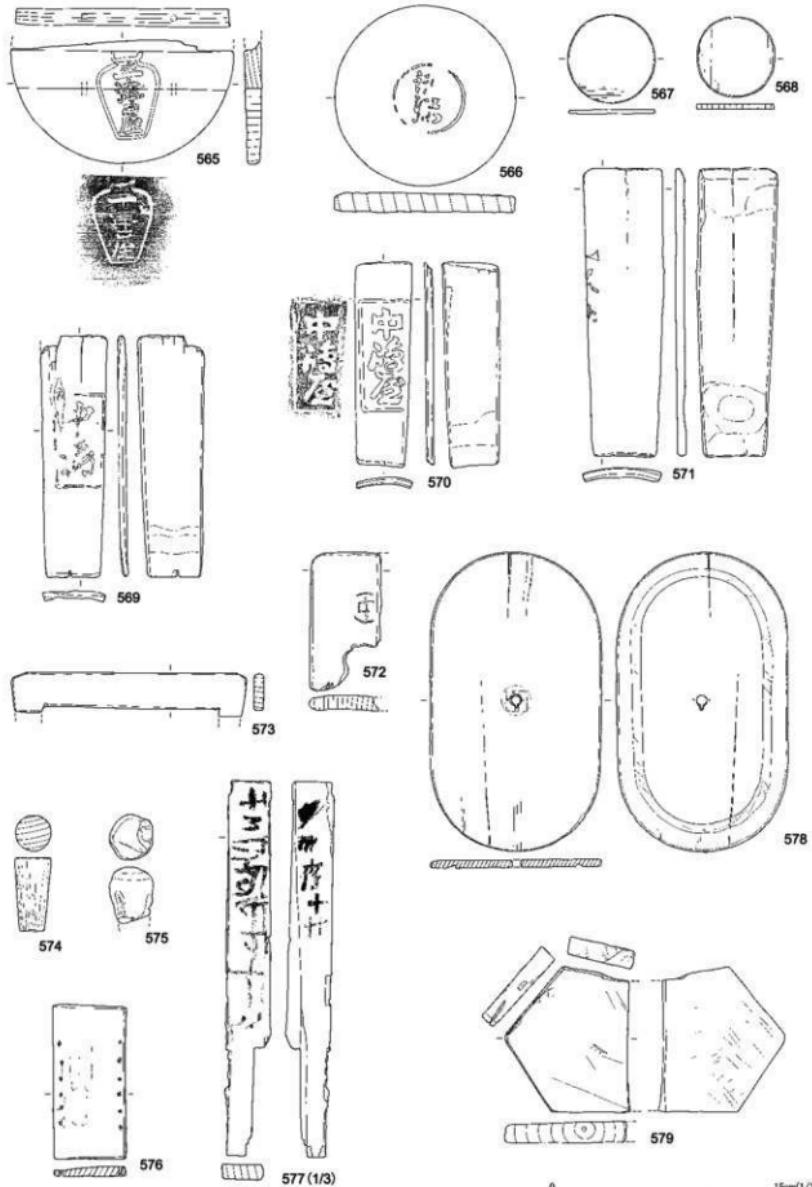
第41図 SD01・02 (502~516)、02 (517~520) 出土遺物 [S=1/3]



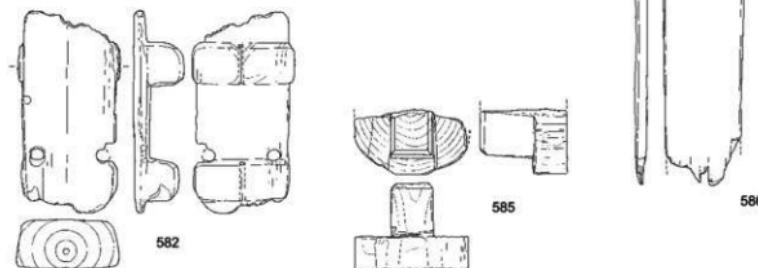
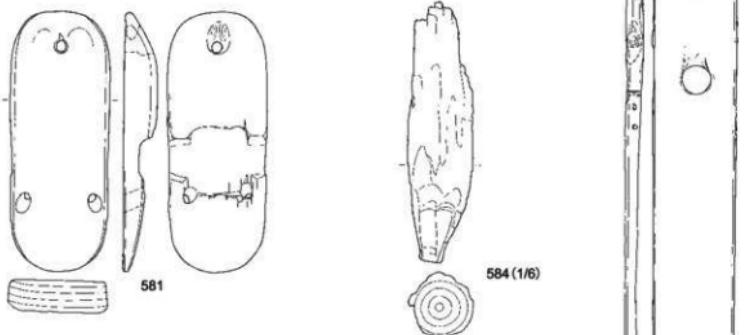
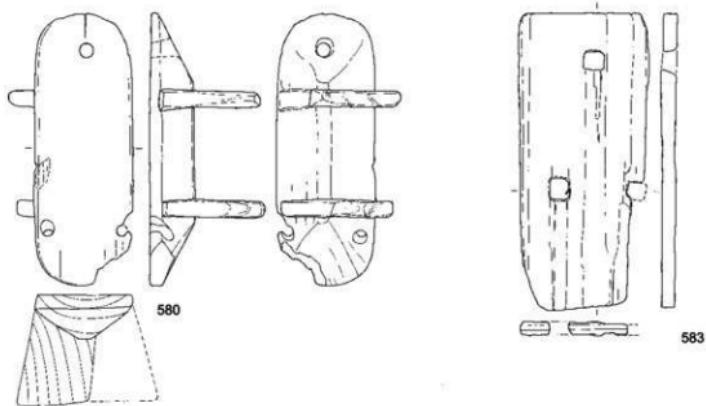
第42図 SD02出土遺物(1) [S=1/3]



第43図 SD02出土遺物(2) [S=1/3・4]



第44図 SD02出土遺物(3) [S=1/3・4]



第45図 SD02出土遺物(4) [S=1/4・6]

第4表 土器・陶磁器・土製品観察表(1)

No.	種類	地区	種類	器種	口 (径) (mm)	底 (径) (mm)	高 (厚) (mm)	外側調整	内側調整	底部調整	外側色調 (純色調)	内側色調 (美色地調)	錆	砂	青	赤	造成	備考	資源No.	
1	S804	E8	土器器	皿	82	55	16	31丁 ⁺	ナシ	漫灰褐色	漫灰褐色	少	少	少	少	少	P87	F145		
2	S804	E8	土器器	皿				ナシ	ナシ	漫灰褐色	漫灰褐色	少	少	少	少	少	P87	F143		
3	S804	E8	土器器	皿				ナシ ⁺ 31丁 ⁺	ナシ	漫灰褐色	漫灰褐色	少	少	少	少	少	P87	F144		
4	S804	F8	土器器	皿	84	48	16	ナシ ⁺	マフ	漫黄褐色	漫黄褐色	少	少	少	少	少	P106	E265		
5	S804	F8	土器器	皿	130			マフ	マフ	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	P106	E267		
6	S804	E8	土器器	皿	126	80	33	マフ ⁺ 31 ⁺	マフ	漫橙黃	漫橙黃	少	少	少	少	少	P90	E261		
7	(S804)	E8	土器器	碗・鉢	66	42	17	3コナ丁 ⁺	ナシ	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	P89	F154		
8	(S804)	E8	土器器	皿				ナシ ⁺ 31丁 ⁺	ナシ	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	P89	F153		
9	S804	E8	土器器	皿	68	40	19	ナシ ⁺	マフ	漫黄褐色	漫黄褐色	少	少	少	少	少	P87	E262		
10	S807	E8	土器器	皿	84	70	13	ナシ ⁺	ナシ ⁺	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	P72	F156		
11	S807	E8	土器器	皿	84	52	20	ナシ ⁺	ナシ ⁺	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	P72	F155		
12	S807	E8	土器器	皿				ナシ ⁺ ナシ ⁺	ナシ ⁺	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	P41	F150		
13	S806	I9	土器器	皿	70			マフ	マフ	漫黄灰	漫黄灰	少	少	少	少	少	P99	E264		
14	S806	I9	土器器	皿	122			マフ	マフ	漫橙黃	漫橙黃	少	少	少	少	少	P99	E263		
15	P62	E8	土器器	皿				31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙灰褐	漫橙灰褐	少	少	少	少	少	P148			
16	P62	E8	土器器	皿				ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙灰褐	漫橙灰褐	少	少	少	少	少	P147			
17	P62	E8	土器器	皿				ナシ ⁺ 31丁 ⁺	ナシ ⁺	漫灰褐	漫灰褐	少	少	少	少	少	P146			
18	P45	E8	土器器	皿	78	50	15	マフ	マフ	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	P152			
19	P45	E8	土器器	不明		112		ナシ ⁺	ナシ ⁺	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	P149			
20	P43	E8	土器器	皿				ナシ ⁺	ナシ ⁺	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	P151			
21	P108	F8	土器器	皿	88	40	16	31丁 ⁺	ナシ ⁺	漫橙灰	漫橙灰	少	少	少	少	少	P28	E268		
22	P129	F7	土器器	皿	116	80	30	31丁 ⁺	工具痕?	31丁 ⁺	工具痕?	漫黄褐	漫黄褐	少	少	少	少	少	P266	
25	SE01	F5	土器器	皿	100	72	22	31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	T180			
26	SE01	F5	土器器	皿	118			31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫黄褐	漫黄褐	少	少	少	少	少	T178			
27	SE01	F5	土器器	皿	106	70	23	31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	T177			
28	SE01	F5	土器器	皿	108	74	26	マフ	マフ	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	T184			
29	SE01	F5	土器器	皿	107	64	21	31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	T188			
30	SE01	F5	土器器	皿	136	90	27	31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	T179			
31	SE01	F5	土器器	皿	134	76	28	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	マフ	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	T183			
32	SK07	F8	土器器	皿	78	42	18	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	明橙黃	明橙黃	少	少	少	少	少	内面に工具痕?	E138		
33	SE02	F8	土器器	皿	79	55	15	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙灰褐	漫橙灰褐	少	少	少	少	少	P137			
34	SK07	F8	土器器	皿	79	55	16	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙灰褐	漫橙灰褐	少	少	少	少	少	P138			
35	SE02	F8	土器器	皿	80	50	16	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙灰褐	漫橙灰褐	少	少	少	少	少	P134			
36	SK07	F8	土器器	皿	80	50	18	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙灰褐	漫橙灰褐	少	少	少	少	少	P133			
37	SE02	F8	土器器	皿	82	50	14	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫灰褐	漫灰褐	少	少	少	少	少	P135			
38	SE02	F8	土器器	皿	84	40	21	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫黄褐	漫黄褐	少	少	少	少	少	P132			
39	SK07	F8	土器器	皿	80	50	15	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙灰褐	漫橙灰褐	少	少	少	少	少	P139			
40	SE02	F8	土器器	皿	82	42	17	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	マフ	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	P148			
41	SK07	F8	土器器	皿	80	48	18	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫黄灰	漫黄灰	少	少	少	少	少	P133			
42	SE02	F8	土器器	皿	81	55	18	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙灰褐	漫橙灰褐	少	少	少	少	少	P138			
43	SE02	F8	土器器	皿	81	50	17	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫灰褐	漫灰褐	少	少	少	少	少	P132			
44	SE02	F8	土器器	皿	82	50	15	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙灰褐	漫橙灰褐	少	少	少	少	少	P140			
45	SE02	F8	土器器	皿	82	50	18	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙黃	漫橙黃	少	少	少	少	少	P144			
46	SE02	F8	土器器	皿	85	55	15	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙灰褐	漫橙灰褐	少	少	少	少	少	P141			
47	SE02	F8	土器器	皿	88	52	17	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫灰褐	漫灰褐	少	少	少	少	少	P137			
48	SE02	F8	土器器	皿	81	60	15	ナシ ⁺	31丁 ⁺	漫灰褐	漫灰褐	少	少	少	少	少	P142			
49	SE02	F8	土器器	皿	84	40	16	31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	E143			
50	SE02	F8	土器器	皿	82	50	16	31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙灰褐	漫橙灰褐	少	少	少	少	少	F131			
51	SK07	F8	土器器	皿	114	56	24	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	E147			
52	SE02	F8	土器器	皿	122	81	29	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	マフ	漫橙灰褐	漫橙灰褐	少	少	少	少	少	F124			
53	SK07	F8	土器器	皿	128	90	31	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙灰褐	漫橙灰褐	少	少	少	少	少	F111			
54	SE02	F8	土器器	皿	129	90	28	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫灰褐	漫灰褐	少	少	少	少	少	F117			
55	SE02	F8	土器器	皿	130	90	26	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	F121			
56	SE02	F8	土器器	皿	128	74	31	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙黃	漫橙黃	少	少	少	少	少	E140			
57	SE02	F8	土器器	皿	130	78	23	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙黃	漫橙黃	少	少	少	少	少	E138			
58	SK07	F8	土器器	皿	132	78	29	ナシ ⁺ マフ	マフ	漫黄褐	漫黄褐	少	少	少	少	少	E124			
59	SE02	F8	土器器	皿	130	90	29	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙灰褐	漫橙灰褐	少	少	少	少	少	F116			
60	SK07	F8	土器器	皿	128	80	26	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	マフ	漫灰褐	漫灰褐	少	少	少	少	少	F120			
61	SE02	F8	土器器	皿	132	62	68	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	E128			
62	SE02	F8	土器器	皿	130	65	28	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	F114			
63	SK07	F8	土器器	皿	132	95	29	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙灰褐	漫橙灰褐	少	少	少	少	少	F115			
64	SE02	F8	土器器	皿	134	80	26	ナシ ⁺ マフ	マフ	漫灰褐	漫灰褐	少	少	少	少	少	F127			
65	SK07	F8	土器器	皿	123	96	42	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫橙灰褐	漫橙灰褐	少	少	少	少	少	F110			
66	SE02	F8	土器器	皿	134	92	26	ナシ ⁺ 31丁 ⁺	31丁 ⁺	漫褐	漫褐	少	少	少	少	少	E130			

第4表 土器・陶磁器・土製品観察表(2)

No.	遺構	地層	器種	口 (底) 径 (高) 厚	外表面型	内面摸様	底部摸様	外色調 (鉢色調)	内色調 (美色地調)	縁	砂	青	造	備考	測定No.
67	SE02	F6	土師器	皿 136 68	28 ルサ平-33丁+	33丁+	漫縁灰	漫縁灰	少	少	無				E123
68	SK07	F6	土師器	皿 134 70	28 ルサ平-33丁+	33丁+	漫縁灰	漫縁灰	少	少	無				E127
69	SE02	F6	土師器	皿 135 85	27 ルサ平-33丁+	ナ-	漫灰褐	漫縁灰褐	少	少	無				F113
70	SK07	F6	土師器	皿 138 98	31 ルサ平-33丁+	33丁+	漫縁灰褐	漫灰灰褐	少	少	無				F109
71	SE02	F6	土師器	皿 137 88	27 ルサ平-33丁+	33丁+	漫縁灰	漫縁灰	少	少	無				E125
72	SK07	F6	土師器	皿 138 92	22 ルサ平-33丁+	33丁+	漫灰褐	漫灰褐	少	少	無				E139
73	SE02	F6	土師器	皿 136 98	32 ルサ平-33丁+	33丁+	漫灰褐	漫灰褐	少	少	無				E131
74	SE02	F6	土師器	皿 140 90	28 ルサ平-33丁+	33丁+	漫縁灰	漫縁灰	少	少	無				E146
75	SK07	F6	土師器	皿 125 76	28 ルサ平-7丁	7丁	漫縁灰褐	漫灰灰褐	少	少	無				F128
76	SE02	F6	土師器	皿 135 80	28 ルサ平-33丁+	7丁	漫灰褐	漫縁灰褐	少	無					F119
77	SK07	F6	土師器	皿 136 84	25 ルサ平-33丁+	7丁	漫縁灰褐	漫灰灰褐	少	少	無				F130
78	SE02	F6	土師器	皿 136 94	31 ルサ平-33丁+	7丁	漫縁灰褐	漫縁灰褐	少	少	無				F123
79	SE02	F6	土師器	皿 140 95	27 ルサ平-33丁+	33丁+	漫縁灰	漫縁灰	少	少	無				E142
80	SE02	F6	土師器	皿 141 80	22 ルサ平-33丁+	ナ-	漫灰黃	漫灰黃	少	無					E166
81	SE02	F6	土師器	皿 122 76	38 ルサ平-33丁+	33丁+	漫縁灰	漫縁灰	少	無					E145
82	SK07	F6	土師器	皿 130 86	36 ナ-	ナ-	灰	灰	多	並	並				E149
83	SE02	F6	土師器	皿 136 96	138 ルサ平-33丁+	33丁+	漫灰褐	漫灰褐	少	少	無				F126
84	SK07	F6	土師器	皿 136 94	35 ルサ平-33丁+	33丁+	漫灰褐	漫灰褐	少	少	無				F122
85	SE02	F6	土師器	皿 138 100	35 ルサ平-33丁+	7丁	漫灰褐	漫灰褐	少	無					F118
86	SK07	F6	土師器	皿 125 90	29 ルサ平-7丁	7丁	漫灰褐	漫灰褐	少	少	無				F112
87	SE02	F6	土師器	皿 122 80	30 ルサ平-33丁+	33丁+	明暗	明暗	少	並	並				E122
88	SE02	F6	土師器	皿 126 94	28 ルサ平-7丁	33丁+	漫縁灰	漫縁灰	少	少	無				E128
89	SK07	F6	土師器	皿 130 84	27 ルサ平-7丁	7丁	漫灰褐	漫灰褐	少	少	無				F129
90	SE02	F6	土師器	皿 124 80	15 ルサ平-7丁	7丁	漫縁灰褐	漫縁灰褐	少	無					F125
91	SK07	F6	土師器	皿 136 70	18 ルサ平-7丁	7丁	漫灰黃	漫灰黃	少	無					E129
92	SE02	F6	土師器	腹付皿 83 66	45 33丁-33丁	33丁+	漫灰黃	漫灰黃	少	無					E141
93	SK07	F6	土師器	不規	22丁+	ナ-	漫黃	漫黃	少	少	並				E134
94	SK07	F6	土師器	不規	152	ナ-	漫黃	漫黃	少	少	並				E150
95	SE02	F6	土師器	不規	ナ-	ナ-	漫縁灰	漫縁灰	少	無					E167
96	SK07	F6	土師器	不規	ナ-	ナ-	漫縁灰	漫縁灰	少	無					F287
98	SK07	F5	土師器	皿 82 50	11 33丁+	33丁+	漫灰黃	漫灰黃	少	無					E163
99	SK07	F5	土師器	皿 82 36	16 33丁+	33丁+	漫灰褐	漫灰褐	少	無					E160
100	SK07	F5	土師器	皿 81 48	15 33丁+	33丁+	漫灰黃	漫灰黃	少	無					E162
101	SK07	F5	土師器	皿 81	33丁+	33丁+	漫灰褐	漫灰褐	少	少	並				E159
102	SK07	F5	土師器	皿 85 49	10 33丁+	33丁+	漫灰黃	漫灰黃	少	無					E161
103	SK07	F5	土師器	皿 133 84	30 ルサ平-33丁+	33丁+	明暗	明暗	並	並	並				E168
104	SK07	F5	土師器	皿 122 74	22 33丁+	33丁+	明暗	明暗	少	少	並				E164
105	SK07	F5	土師器	皿 136	33丁+	33丁+	漫縁灰	漫縁灰	少	無					E165
106	SE03	F5	土師器	皿 96 60	15 33丁+	33丁+	漫灰褐	漫灰褐	少	無					T185
107	SE03	F5	土師器	皿 98 50	27 2ルサ平-33丁+	33丁-33丁	漫縁灰	漫縁灰	少	無					T182
108	SE03	F5	土師器	皿 114 62	22 ルサ平-7丁-15丁	33丁-33丁	漫灰褐	漫灰褐	少	無					T181
109	SE03	F5	土陶	鉢 182	ナ-	ナ-	灰	灰	並	少	並				T187
110	SE03	F5	土陶	すり鉢 294	ナ-	ナ-節目	漫灰	漫灰	少	無					T175
111	SE03	F5	土陶	すり鉢 140	ナ-	節目	漫灰	漫灰	並	多	並				T258
112	SE03	F5	土陶	便 99	99	当て具	漫灰	漫灰	少	無					T188
123	SE04	E8	土師器	皿 82 68	15 ルサ平-33丁+	33丁+	漫灰褐	横縁	少	無					S116
124	SE04	E8	土師器	皿 78 70	31 ルサ平-7丁	7丁	漫縁灰褐	漫縁灰褐	少	無					S132
125	SE04	E8	土師器	皿 78 48	17 33丁+	7丁	漫縁灰褐	漫縁灰褐	少	無					S110
126	SE04	E8	土師器	皿 64 62	17 ルサ	ナ-	漫縁灰	漫縁灰	少	少	並				S134
127	SE04	E8	土師器	皿 82 50	17 ルサ平-7丁	7丁	漫縁灰	漫縁灰	並	並	並				S133
128	SE04	E8	土師器	皿 82 56	ルサ	ナ-	漫縁灰褐	漫縁灰褐	少	並	並				S111
129	SE04	E8	土師器	皿 122 74	29 ルサ平-33丁+	ナ-	漫縁灰	漫縁灰	並	並	並				S114
130	SE04	E8	土師器	皿 130 100	25 ルサ平-7丁	7丁	漫縁灰褐	漫縁灰褐	少	並	並				S109
131	SE04	E8	土師器	皿 128 85	30 ルサ平-7丁	7丁	漫縁灰褐	漫縁灰褐	少	並	並				S107
132	SE04	E8	土師器	皿 130 92	35 ルサ平-7丁	7丁	漫縁灰褐	漫縁灰褐	少	並	並				S136
133	SE04	E8	土師器	皿 134 92	28 ルサ平-33丁+	7丁	漫縁灰褐	漫縁灰褐	少	並	並				S113
134	SE04	E8	土師器	皿 134 100	29 ルサ平-7丁	7丁	漫縁灰	漫縁灰	並	並	並				S108
135	SE04	E8	土師器	皿 130 76	28 ルサ平-7丁	7丁	漫縁灰褐	漫灰灰褐	並	並	並				S105
136	SE04	E8	土師器	皿 118 70	24 ルサ	ナ-	漫縁灰	漫縁灰	並	並	並				S135
137	SE04	E8	土師器	皿 130 80	30 33丁+	33丁+	漫縁灰褐	漫縁灰褐	少	並	並				S106
138	SE04	E8	土師器	皿 122 66	25 ルサ	ナ-	漫灰褐	漫灰褐	少	並	並				S115
139	SE04	E8	土師器	皿 126 88	21 ルサ	ナ-	漫白褐	漫白褐	少	無	無				S137
140	SE04	E8	土師器	皿 134 80	25 ルサ	ナ-	漫縁灰褐	漫縁灰褐	少	並	並				S112
141	SE04	E8	土師器	皿 122 88	32 ルサ	ナ-	漫縁灰褐	漫縁灰褐	少	少	並				S139

第4表 土器・陶磁器・土製品観察表(3)

No.	遺構	地区	種類	器種	口 (径) (高)	底 (厚)	外腹調整	内腹調整	底部調整	外側色調 (総色調)	内側色調 (裏色調)	縁	砂	青	赤	造成	備考	測定数	
142	SE04	E8	土師器	皿	130	90	24	ナラ	ナラ	淡褐色	淡褐色	少	少	少	少	少	S138		
143	SE04	E8	土製品	土盤	55	11	4			淡褐色	淡褐色	少	少	少	少	少	S117		
144	SE04	E8	土師器	圓か			ナラ			淡褐色	淡褐色	少	少	少	少	少	S119		
145	SE04	E8	土師器	圓か			ナラ			淡褐色	淡褐色	少	少	少	少	少	S140		
147	SE05	E5	土師器	皿	78	48	16	メタリナラ	ナラ	淡褐色	淡褐色	少	少	少	少	少	S126		
148	SE05	E5	土師器	皿	74	48	15	メタリナラ	ナラ	淡褐色	淡褐色	基	少	基	少	少	S125		
149	SE05	E5	土師器	皿	110	68	28	メタリナラ	ナラ	淡黃	淡黃	基	少	基	少	少	S173		
150	SE05	E5	土師器	皿	112	78	31	メタリナラ	ナラ	淡褐色	淡褐色	少	少	少	少	少	S122		
151	SE05	E5	土師器	皿	108	70		メタリナラ	ナラ	淡褐色	淡褐色	基	少	基	少	少	S124		
152	SE05	E5	土師器	皿	118			メタリナラ	ナラ	淡褐色	淡褐色	少	少	少	少	少	S123		
153	SK04	E5	土師器	皿	74	64	16	メタリナラ	ナラ	褐	褐	基	少	基	少	少	S128		
154	SK05	E5	土師器	皿	86	44		ナラ	ナラ	褐	褐	少	少	少	少	少	S129		
155	SK04	E5	土師器	高坪		98		ナラ	ナラ	淡褐色	淡褐色	少	少	少	少	少	S127		
156	SE05	E5	土製品	不明	24	24	12			淡灰褐	淡灰褐	少	少	少	少	少	S131		
158	SK04	E5	土師器	皿	90	50	13	メタリナラ	ナラ	明褐	明褐	少	少	少	少	少	E151		
159	SK04	E5	繪文	深鉢				ナラ	ナラ	暗黃灰	暗黃灰	多	多	多	多	多	E152		
160	SE06	H8	土師器	皿	108	80		メタリナラ	メタリナラ	淡灰褐	淡灰褐	少	基	少	少	少	E180		
161	SE06	H8	土師器	皿	116	80	28	メタリナラ	メタリナラ	淡黃褐	淡黃褐	少	少	少	少	少	E182		
162	SE06	H8	土師器	皿	116	70	18	メタリナラ	ナラ	淡黃灰	淡黃灰	少	少	少	少	少	E183		
163	SE06	H8	土師器	皿	128			メタリナラ	ナラ	淡褐色	淡褐色	少	少	少	少	少	E181		
164	SE06	H8	漆器器	瓶				ナラ	ナラ	灰	灰	少	基	少	少	少	E278		
176	SE09	E12	土師器	皿	128			メタリナラ	ナラ	淡黃灰	淡黃灰	少	少	少	少	少	E186		
177	SE09	E12	土師器	皿	124			ナラ	ナラ	明褐黃	明褐黃	量	量	量	量	量	E191		
178	SE09	E12	土師器	皿	130			メタリナラ	ナラ	淡黃灰	淡黃灰	少	少	少	少	少	E187		
179	SE09	E12	土師器	皿	132			メタリナラ	ナラ	明褐	明褐	少	少	少	少	少	E185		
180	SE09	E12	土師器	皿	140			ナラ	ナラ	淡褐色	淡褐色	量	量	量	量	量	E192		
181	SE09	E12	土師器	皿	142			メタリナラ	ナラ	淡灰褐	淡灰褐	少	少	少	少	少	E184		
182	SE09	E12	土師器	皿	125	61	21	ナラ	ナラ	淡褐色	淡褐色	少	少	少	少	少	E193		
185	SE07	F5	土師器	皿	90	58	12	メタリナラ	ナラ	淡灰褐	淡灰褐	少	少	少	少	少	S120		
186	SE07	F3	土師器	皿	126			メタリナラ	ナラ	灰褐	灰褐	少	少	少	少	少	S121		
187	SE07	F3	土師器	皿	132	100	30	メタリナラ	ナラ	淡灰褐	淡灰褐	少	少	少	少	少	S118		
188	SE09	E12	土師器	皿	130			メタリナラ	ナラ	淡褐色	淡褐色	多	多	多	多	多	E190		
190	SE10	E12	漆器器	漆・瓶	90			ナラ	ナラ	灰褐	灰褐	基	基	基	基	基	E169		
195	SK01	E5	土師器	皿	80			メタリナラ	ナラ	淡褐色	淡褐色	少	少	少	少	少	E171		
196	SK01	E5	土師器	皿	122	80	23	メタリナラ	ナラ	淡褐色	淡褐色	多	多	多	多	多	E172		
197	SK01	E3	土塊	甕か	28	23	15									6.4kg	E170		
198	SK01	E3	土塊	甕か	42	39	18									19.3kg	E169		
200	SK02	E5	土師器	皿	82	56	22	ナラ	ナラ	明褐	明褐	少	少	少	少	少	E157		
201	SK02	E5	土師器	皿	104			メタリナラ	ナラ	淡黃灰	淡黃灰	少	少	少	少	少	E153		
202	SK02	E5	土師器	皿	106	70	26	メタリナラ	ナラ	淡褐色	淡褐色	少	少	少	少	少	E154		
203	SK02	E5	土師器	皿	110	80	28	ナラ	ナラ	明褐	明褐	少	少	少	少	少	E156		
204	SK02	E5	土師器	皿	110	62	29	メタリナラ	ナラ	黃褐	黃褐	多	少	少	少	少	E158		
205	SK02	E5	土師器	皿	138	60	40	ナラ	ナラ	明褐	明褐	少	少	少	少	少	E155		
206	SE03	F5	土師器	皿	77	60	17	メタリナラ	ナラ	淡灰褐	淡灰褐	少	少	少	少	少	F180		
207	SE03	F5	土師器	皿	108			メタリナラ	メタリナラ	灰褐	灰褐	少	少	少	少	少	F161		
208	SK03	F5	漆器器	盤				ナラ	ナラ	淡灰褐	淡灰褐	少	少	少	少	少	F163		
209	SK03	F5	漆器器	有合环				ナラ	ナラ	灰	灰	少	少	少	少	少	F162		
210	SK03	F5	土師器	甕	147			ナラ	ナラ	暗灰褐	暗灰褐	基	少	基	基	JJ付着	F164		
214	SK08	E5	土師器	皿か	46			ナラ	ナラ	淡褐色	淡褐色	少	少	少	少	少	E174		
215	SK09	F11	諫前	すり鉢	320			ナラ	ナラ	增褐	增褐	多	多	多	多	多	E176		
216	SK10	F11	土師器	皿	74	32	11	ナラ	ナラ	淡黃灰	淡黃灰	基	基	基	基	基	E177		
217	SK10	F11	土師器	皿	74	10	12	ナラ	ナラ	明褐	明褐	基	基	基	基	基	E178		
219	SK22	F6	繪文	皿	86			青磁胎	無胎	淡褐色	淡褐色	少	少	少	少	少	近の日輪剥が波足見	E252	
220	SK22	F6	白磁	碗	56			無胎	透明胎	乳白	乳白	少	少	少	少	少	E253		
221	SK24	F6	土師器	皿	106	48	19	ナラ	ナラ	淡黃灰	淡黃灰	基	基	基	基	基	E255		
224	SK25	H7	土師器	皿	100			ナラ	ナラ	淡黃灰	淡黃灰	基	少	基	基	基	E254		
225	SK33	C8	絹胎	碗	156			絹胎	絹胎	明黃灰	明黃灰	少	少	少	少	少	E279		
226	SK23	J8	土師器	皿	120			メタリナラ	ナラ	淡茶褐	淡茶褐	基	基	基	基	1層	E250		
227	SK23	J8	土師器	甕か	88			ナラ	ナラ	淡褐色	淡褐色	多	多	多	多	1層	E251		
228	SK23	J8	諫前	甕				ナラ	ナラ	灰	灰	少	基	少	少	1層	E249		
229	SK23	J8	諫前	甕				ナラ	ナラ	灰白	灰白	少	基	少	少	1層	E248		
230	SK23	J8	繪文	甕か	158			冬楓・刺突	ナラ	淡褐色	淡褐色	多	多	多	多	2層	E247		
235	SK01	J7	繪文	深鉢	382			冬楓	ナラ	暗茶褐	暗茶褐	多	多	多	多	5	E197		
236	SK01	J7	繪文	深鉢				冬楓	ナラ	暗茶褐	暗茶褐	少	多	多	多	2	E195		
237	SK01	J7	繪文	深鉢				冬楓	ナラ	暗茶褐	暗茶褐	多	多	多	多	2	E199		
238	SK01	J7	繪文	鉢	242			冬楓	ナラ	暗茶褐	暗茶褐	少	少	少	少	5	E196		

第4表 土器・陶磁器・土製品観察表(4)

No.	遺構	地区	種類	器種	口 (径)	底 (径)	高 (厚)	外面調査	内部調査	外側色調 (鉛色調)	内側色調 (鉛色調)	縦 横	砂 青	赤 成	備考	測定No.		
239	SX01	J7	縄文	深鉢	96			朱張	ナフ	網代縞	網代縞	明褐色	多	多	多	7 内面付付層	E200	
240	SX01	J7	縄文	深鉢	84			朱張	ナフ	網代縞	網代縞	黒褐色	多	多	多		E198	
241	SX02	I8	縄文	深鉢	384			朱張	ナフ			深黄灰	多	多	多	14	E203	
242	SX02	I8	縄文	深鉢				朱張	ナフ			暗茶褐	多	少	少		E207	
243	SX02	I8	縄文	深鉢				朱張	ナフ			茶褐	少	多	多	11	E204	
244	SX02	I8	縄文	深鉢				朱張	ナフ			深黄灰	少	多	多	3,5,8,14	E206	
245	SX02	I8	縄文	深鉢				朱張	ナフ			淡茶褐	多	少	少	8 孔1土所	E205	
246	SX02	I8	縄文	深鉢	90			朱張	ナフ	網代縞	網代縞	暗黃褐色	少	多	多	1	E202	
247	SX02	I8	縄文	深鉢	100			朱張	ナフ			暗茶褐	多	多	多	2	E201	
248	SX04	I9	土製品	土盤	42	36	18	朱張	ナフ			淡灰褐	少	多	多		E258	
252	遺構外		道器類	盤	178			ナフリナフ	ナフ			灰	灰	灰	灰		E229	
253	遺構外		灰點	有合跡	84			ナフ	ナフ	ヘラキリ後ナフ		灰白	灰白	灰	灰		T194	
254	遺構外		古墳	甕	170			ナフ	ナフ			赤褐褐	多	多	多	外側人付層	E230	
255	S001	HB/9	土師器	有合跡	90			ナフ	ナフ	ナフ	ナフ	淡褐	多	少	少	表層	S220	
256	S001	HB/9	須恵器	有合跡	68			ナフ	ナフ	ヘラキリ後ナフ		灰灰	少	多	多	表層	S218	
257	S001	HB/9	須恵器	双耳瓶				ナフ	ナフ			深灰	少	多	多	表層	S221	
258	S001	HB/9	土師器	盆	138			ナシナフナフ	ナフ			淡褐灰	多	少	少	上層	S191	
259	S001	HB/9	土師器	盤	134	84		ナフ	ナフ			淡褐灰	少	多	多	上層	S190	
260	S001	HB/9	古窯戸	鉢	140			ナフ	ナフ			淡褐灰	少	多	多	上層	S193	
261	S001	HB/9	古窯戸	壺	128			ナフ	ナフ			淡褐	少	多	多	表層	S194	
262	S001	HB/9	青白磁	合子か	44			青白磁胎	青白磁胎	無輪		深灰白	少	多	多	上層	S195	
263	S001	HB/9	須恵器	瓶	118			ナフ	ナフ			灰	灰	少	多	北岸	S145	
264	S001	HB/9	須恵器	壺・瓶	114			ナフ	ナフ			禮茶褐	少	少	少	北岸	S149	
265	S001	HB/9	須恵器	壺・垂				ナフ	ナフ			深灰白	少	多	多	北岸	S167	
266	S001	HB/9	須恵器	更前	78			ナフ	ナフ			透明階	透明階	少	少	少	北岸 三島手	T206
267	S001	HB/9	土師器	皿	138	72	21	3ナフ	ナフ			淡褐	少	少	少	裏面粘層	M142	
268	S001	HB/9	土師器	皿	138	100	24	3ナフ	3ナフ			淡褐	少	少	少	裏面粘層	M143	
269	S001	HB/9	土器類	土器	39	19	5	ナフ	ナフ			淡灰褐	多	少	少	裏面粘層 13g	T301	
270	S001	HB/9	須恵器	無合跡	72			ナフ	ナフ	ヘラキリ後ナフ		淡灰	少	多	多	底上沙層 売臺Ⅱ段	S217	
271	S001	HB/9	須恵器	有合跡	58			ナフ	ナフ	ヘラキリ後ナフ		淡灰	少	多	多	底上沙層	S214	
272	S001	HB/9	須恵器	壺	154			ナフ	ナフ			淡灰	少	多	多	底上沙層	S213	
273	S001	HB/9	須恵器	壺・瓶	100			ナフ	ナフ			灰白	少	多	多	底上沙層	S215	
274	S001	HB/9	土師器	壺	(295)			ナフ	ナフ			淡褐	少	少	少	底上沙層	M125	
275	S001	HB/9	内裏	碗	58			ナフ	ナフ	マフ	ナフ	黒灰	少	少	少	底上沙層	M177	
276	S001	HB/9	土師器	碗	166			ナフ	ナフ	ナフ	ナフ	淡褐	少	少	少	底上沙層	T297	
277	S001	HB/9	土師器	碗	80			ナフマフ	マフ	ナフマフ	ナフマフ	淡褐	少	少	少	底上沙層	M138	
278	S001	HB/9	土師器	碗	64			ナフ	ナフ	マフ	マフ	淡褐	多	少	少	底上沙層	M135	
279	S001	HB/9	土師器	碗・皿	43			ナフ	ナフ	田舎糸引	田舎糸引	淡褐	多	少	少	底上沙層	M137	
280	S001	HB/9	土師器	皿	34			ナフ	ナフ	田舎糸引	田舎糸引	禮	少	多	多	底上沙層	M140	
281	S001	HB/9	土器類	壺・垂	(240)			ナフ	ナフ			淡褐	少	多	多	底上沙層	M126	
282	S001	HB/9	土師器	壺	74			ナフナフマフ	ナフマフ	マフ	マフ	暗褐	少	少	少	底上沙層	M138	
283	S001	HB/9	土器類	土器	51	16	4					淡褐	少	多	多	底上沙層 87g	S223	
284	S001	HB/9	土器類	土器	58	38	11					淡褐	少	多	多	底上沙層	S222	
285	S001	HB/9	土師器	皿	80	40	17	3ナフ	3ナフ			淡褐	少	少	少	底上沙層	M132	
286	S001	HB/9	土師器	皿	94	32	16	ナフ	ナフ			淡褐	少	少	少	底上沙層	M133	
287	S001	HB/9	土師器	皿	88	40	16	ナフ	ナフ			淡褐	少	少	少	底上沙層	M134	
288	S001	HB/9	土師器	皿	118	60	29	ナフナフ	ナフ			淡褐	少	少	少	底上沙層	M130	
289	S001	HB/9	土師器	皿	136	65		ナフナフ	ナフ			淡灰褐	少	少	少	底上沙層	T295	
290	S001	HB/9	土師器	皿	118	70	31	3ナフ	3ナフ			淡褐	少	少	少	底上沙層	T296	
291	S001	HB/9	土師器	皿	150			ナフ	ナフ			淡白褐	少	少	少	底上沙層	T298	
292	S001	HB/9	土師器	皿	124	68	25	3ナフ	3ナフ			淡褐	少	少	少	底上沙層	M131	
293	S001	HB/9	土師器	皿	126	68		ナフ	ナフ			淡白褐	少	少	少	底上沙層	T294	
294	S001	HB/9	青磁	碗	63			ナフ	ナフ			青磁胎	無輪		灰	底上沙層 暈墨	M124	
295	S001	HB/9	須恵器	壺				ナフ	ナフ			淡褐	少	多	多	底上沙層	S216	
296	S001	HB/9	土器類	福羽口		42						禮	少	多	多	底上沙層	M129	
298	S001	HB/9	土師器	鉢	44			ナフ	ナフ	田舎糸引	田舎糸引	淡褐	少	多	多	ナフナフ 表剥離	T223	
299	S001	HB/9	内裏	碗	170			ナフ	ナフ	ナフ	ナフ	淡褐	少	多	多	ナフナフ	T243	
300	S001	HB/9	内裏	有合縫・皿	62			ナフ	ナフ	ナフ	ナフ	淡褐	少	多	多	ナフナフ	T241	
302	S001	HB/9	内裏	碗	70			ナフ	ナフ	ナフ	ナフ	淡褐	少	多	多	ナフナフ	T239	
303	S001	HB/9	内裏	碗	54			ナフ	ナフ	ナフ	ナフ	淡褐	少	多	多	ナフナフ	T237	
304	S001	HB/9	灰灰陶	碗	78			ナフ	ナフ			淡灰白	少	多	多	ナフナフ	T197	
305	S001	HB/9	白磁	碗	178			ナフ	ナフ			淡灰白	少	多	多	ナフナフ	T203	
306	S001	HB/9	縄文	深鉢	100			ナフ	ナフ	ナフ	ナフ	淡褐	少	多	多	ナフナフ	S192	
307	S001	HB/9	土師器	壺	144			ナフ	ナフ	ナフ	ナフ	淡褐	少	多	多	ナフナフ	T244	
308	S001	HB/9	須恵器	有合跡	118	86	41	ナフ	ナフ	ナフ	ナフ	淡褐	少	多	多	外壁に剥離	S186	

第4表 土器・陶磁器・土製品観察表(5)

No.	遺構	地質	器種	口 (底)	高 (厚)	外側調整	内面調整	底部調整	外側色調 (純色調)	内面色調 (美色地調)	縁	砂	青	赤	備考	資源	
309	S001	HB/9	陶器器	有台脚	123	77	38	ナシ	ナシ	灰	灰	少	無	無	外底に漆付層	F103	
310	S001	HB/9	陶器器	有台脚	88		ナシ	ナシ	ナシ	灰	無	無	無	無		S155	
311	S001	HB/9	陶器器	有台脚	52		ナシ	ナシ	ナシ	灰	少	無	無	無		S156	
312	S001	HB/9	陶器器	有台脚	72		ナシ	ナシ	ナシ	灰	少	無	無	無		S153	
313	S001	HB/9	陶器器	有台脚	78		ナシ	ナシ	ナシ	灰	無	少	無	無		S151	
314	S001	HB/9	陶器器	有台脚	74		ナシ	ナシ	ナシ	灰	灰	少	無	無		S152	
315	S001	HB/9	陶器器	有台脚	72		ナシ	ナシ	ナシ	灰	無	少	無	無		S157	
316	S001	HB/9	陶器器	蓋			ナシ	ナシ	ナシ	灰	無	少	無	無		S164	
317	S001	HB/9	陶器器	蓋			ナシ	ナシ	ナシ	灰	無	無	無	無		S163	
318	S001	HB/9	陶器器	蓋			ナシ	ナシ	ナシ	灰	無	少	無	無		S162	
319	S001	HB/9	陶器器	無台脚	124	82	30	ナシ	ナシ	灰	灰	無	無	無	無	紙判斷	S161
320	S001	HB/9	陶器器	無台脚	92		ナシ	ナシ	ナシ	灰	無	少	無	無		S159	
321	S001	HB/9	陶器器	無台脚	94		ナシ	ナシ	ナシ	灰	無	少	無	無		S154	
322	S001	HB/9	陶器器	蓋	420		ナシ	ナシ	ナシ	灰	無	少	無	無		S141	
323	S001	HB/9	陶器器	蓋	258		ナシ	ナシ	ナシ	灰	無	無	無	無		S142	
324	S001	HB/9	陶器器	蓋・底	230		ナシ	ナシ	ナシ	灰	無	少	無	少	2号北	S143	
325	S001	HB/9	陶器器	蓋			ナシ	ナシ	ナシ	灰	無	無	無	無	2号北	S166	
326	S001	HB/9	陶器器	蓋・底	138		ナシ	ナシ	ナシ	灰	無	無	無	無		S148	
327	S001	HB/9	陶器器	底			ナシ	ナシ	ナシ	灰	無	無	無	無	凸唇付深耳瓶	S146	
328	S001	HB/9	陶器器	蓋・底	110		ナシ	ナシ	ナシ	灰白	灰	少	無	無		S147	
329	S001	HB/9	土師器	蓋	212		ナシ	ナシ	ナシ	灰	無	無	無	無		T266	
330	S001	HB/9	土師器	蓋	82		ナシ	ナシ	ナシ	圓軸条付	無	無	無	無	外底入・内底2寸付層	T222	
331	S001	HB/9	内裏	碗	138		ナシ	18	ナシ	無	無	少	無	少		S245	
332	S001	HB/9	内裏	有台脚	60		マダ	マダ	ナシ	灰	無	無	無	無		T240	
333	S001	HB/9	内裏	有台脚	72		ナシ	18	ナシ	灰	無	無	無	無	外底に墨塗跡	T242	
334	S001	HB/9	内裏	有台脚			ナシ	18	ナシ	圓軸条付	無	無	無	無		T238	
335	S001	HB/9	土師器	碗	62		ナシ	マダ	マダ	ナシ	無	無	無	無		T234	
336	S001	HB/9	土師器	碗	60		ナシ	マダ	マダ	無	無	少	無	無		T232	
337	S001	HB/9	土師器	有台脚	60		ナシ	マダ	マダ	菊花状模	無	無	無	無		T229	
338	S001	HB/9	土師器	有台脚	70		マダ	マダ	マダ	無	無	少	無	少		T236	
339	S001	HB/9	土師器	碗	78		マダ	マダ	ナシ	無	無	少	無	少		T233	
340	S001	HB/9	土師器	碗	62		マダ	マダ	マダ	無	無	少	無	無	標例付近	T235	
341	S001	HB/9	土師器	有台脚	62		ナシ	マダ	マダ	ナシ	無	少	無	無	高台に工具痕	T230	
342	S001	HB/9	土師器	碗	40		マダ	マダ	マダ	無	無	少	無	無		T228	
343	S001	HB/9	土師器	碗	46		マダ	マダ	マダ	ナシ	無	少	多	無		T227	
344	S001	HB/9	土師器	碗	52		ナシ	ナシ	ナシ	無	無	少	無	無		T226	
345	S001	HB/9	土師器	碗	42		ナシ	マダ	マダ	無	無	少	無	無		T225	
346	S001	HB/9	土師器	碗・底	44		ナシ	ナシ	ナシ	圓軸条付	無	無	無	無		T224	
347	S001	HB/9	土師器	碗	48		ナシ	ナシ	ナシ	圓軸条付	無	無	無	無		F236	
348	S001	HB/9	土師器	碗・底	48		ナシ	マダ	マダ	無	無	無	無	無		T299	
349	S001	HB/9	縫隙	碗・底	80		ナシ	ナシ	ナシ	縫隙模	無	無	無	無		T200	
350	S001	HB/9	土師器	碗	78	64	ナシ	マダ	マダ	無	無	無	無	無		S188	
351	S001	HB/9	土師器	碗	86	54	15	ナシ	ナシ	無	無	少	無	無		S171	
352	S001	HB/9	土師器	碗	88	62	13	ナシ	ナシ	無	無	少	無	無		S185	
353	S001	HB/9	土師器	碗	88	64	16	マダ	マダ	無	無	少	無	無		S183	
354	S001	HB/9	土師器	碗	94	64	20	マダ	マダ	ナシ	無	無	少	無		S184	
355	S001	HB/9	土師器	碗	78	72	18	ナシ	ナシ	無	無	無	無	無		S182	
356	S001	HB/9	土師器	碗	98	78	17	ナシ	ナシ	無	無	無	少	無	紙判斷	S187	
357	S001	HB/9	土師器	碗	126	92	30	ナシ	ナシ	無	無	無	少	無	2号北	S180	
358	S001	HB/9	土師器	碗	138	116	26	ナシ	ナシ	無	無	無	少	無		S173	
359	S001	HB/9	土師器	碗	138	98	26	ナシ	ナシ	無	無	無	少	無		S172	
360	S001	HB/9	土師器	碗	138	100	28	ナシ	ナシ	無	無	無	少	無		S186	
361	S001	HB/9	土師器	碗	142	106	30	ナシ	ナシ	無	無	無	少	無		S175	
362	S001	HB/9	土師器	碗			ナシ	ナシ	ナシ	無	無	少	少	無	楔形削穿孔	S189	
363	S001	HB/9	土師器	碗			ヨナシ	マダ	ナシ	無	無	無	少	無	標例付近	S178	
364	S001	HB/9	土師器	碗	130	84	マダ	ナシ	ナシ	無	無	少	少	無	2号北	S177	
365	S001	HB/9	土師器	碗	130	100	24	ナシ	ナシ	無	無	少	少	無		S174	
366	S001	HB/9	土師器	碗	128	84	27	ヨナシ	ヨナシ	無	無	無	少	無		S179	
367	S001	HB/9	土師器	碗	138	90	マダ	ナシ	ナシ	無	無	無	無	無		S181	
368	S001	HB/9	土師器	碗	138	122	37	ナシ	ナシ	無	無	無	少	無		S176	
369	S001	HB/9	白磁	碗	(168)		透明釉	透明釉	透明釉	無	無	無	無	無		T205	
370	S001	HB/9	白磁	碗	156		透明釉	透明釉	透明釉	無	無	無	無	無		T202	
371	S001	HB/9	白磁	碗	164		透明釉	透明釉	透明釉	無	無	無	無	無		T204	
372	S001	HB/9	白磁	碗	62		透明釉	透明釉	透明釉	無	無	無	無	無		T198	
373	S001	HB/9	白磁	碗	72		透明釉	透明釉	透明釉	無	無	少	無	更込みに目盛	T196		
374	S001	HB/9	青磁	碗	158		青磁釉	青磁釉	青磁釉	無	無	無	無	無	複数系	T201	

第4表 土器・陶磁器・土製品観察表(6)

No.	遺構	地質	器種	口 (底) 直 (高) 底 (厚)	外表面型	内面調査	底部調査	外表面色 (鉛色調)	内面色調 (鉛色調)	縁	砂	青	造	備考	資源		
375	S001	HB/9	青磁	皿	60	青磁胎	青磁胎	灰白	灰白	直	少	少	少	同系系	T199		
376	S001	HB/9	陶器	壺		ナ"	ナ"	暗灰	暗灰	直	多	少	少		T247		
377	S001	HB/9	陶器	壺		99%	当て具	灰	灰	直	多	少	少		S166		
378	S001	HB/9	陶器	壺		99%	当て具	灰	灰	少	少	少	少	杭州北	S165		
379	S001	HB/9	陶器	壺		ナ"	ナ"	淡灰	淡灰	少	多	少	少	縦刻文字	S169		
380	S001	HB/9	陶器	壺		ナ"	当て具	灰	灰	直	多	少	少		S170		
381	S001	HB/9	陶器	片口壺	238	ナ"	ナ"	灰	灰	直	少	少	少	北岸	S144		
382	S001	HB/9	陶器	すり鉢	120	ナ"	跡目	マダ	淡灰	淡灰	少	少	少	少	杭州北	S150	
383	S001	HB/9	陶器	不明	100	ナ"	マダ	白灰	白灰	少	少	少	少	不瓦土器等	S160		
384	S001	HB/9	土製品	土器	50	38	18			淡褐褐		少	少	少	8.8g	T207	
385	S001	HB/9	土製品	土器	34	13	4			淡褐褐		少	少	少	4.8g	T209	
386	S001	HB/9	土製品	土器	45	11	4			淡灰褐		少	少	少	3.8g	T208	
387	S001	HB/9	土製品	不明	22	24	19			淡褐褐		少	少	少	高坪の一部 7.71g	T248	
443	S001	HB/9	土製品	壺か	84	64	37			淡褐褐		少	少	少	杭州北 111g	T220	
454	S004	G3/4	土器	背台碗・皿	54	マダ	マダ			淡褐褐	淡褐褐		少	少		F159	
455	S004	G3/4	陶器	壺・瓶		ナ"	ナ"			淡灰	淡灰		少	少		F158	
456	S004	G3/4	青磁	皿		青磁胎	青磁胎			淡褐褐	淡褐褐		少	少		F170	
457	S004	G3/4	陶器	壺	21	灰胎	灰胎			淡褐褐	淡褐褐		少	少		F157	
458	S004	G3/4	肥前磁	皿	42	透明釉貼				透明	灰白				近日點測定	F166	
459	S004	G3/4	美濃陶	碗		執胎				黑褐	灰白褐				奉書板	F169	
460	S004	G3/4	肥前陶	皿	44	灰胎	灰胎			淡灰褐	淡灰褐		少	少		F165	
461	S006	F4	青磁	皿か	44	青磁胎	青磁胎			淡褐褐	淡褐褐		少	少		T359	
463	S003	HB	土器	小盤か	21	ナ"	ナ"			淡褐褐	淡褐褐		少	少		F225	
464	S003	HB	陶器	有台环	75	ナ"	ナ"	ヘラキリ	暗灰	灰	少	少	少			F222	
465	S003	HB	陶器	壺		99%	当て具			暗灰褐	暗灰褐		多	多		F177	
466	S003	HB	陶器	双耳瓶		ナ"	ナ"			暗灰褐	暗灰褐		少	少		F221	
467	S003	HB	土器	皿	81	68	17	33ナ"	33ナ"	淡灰褐	淡灰褐		少	少		F179	
468	S003	HB	土器	皿	117	90	22	メタリックナ"	マダ	淡褐褐	淡褐褐		少	少		F226	
469	S003	HB	土器	皿	131	90	25	メタリックナ"	33ナ"	淡褐褐	淡褐褐		少	少		F176	
470	S003	HB	土器	皿	134	98	29	メタリックナ"	33ナ"	淡灰褐	淡灰褐		少	少		F178	
471	S003	HB	土器	皿	134	95	28	メタリックナ"	33ナ"	淡褐褐	淡褐褐		少	少		内面付着物(漆跡)	F175
472	S003	HB	土器	皿	128	94	27	マダ	マダ	淡褐褐	淡褐褐		少	少		F227	
473	S003	HB	土器	皿	126	70	22	マダ	マダ	淡褐褐	淡褐褐		少	少		F230	
474	S003	HB	土器	皿	126	80	23	33ナ"	33ナ"	淡褐褐	淡褐褐		少	少		F229	
475	S003	HB	土器	皿	122	89	27	マダ	マダ	淡褐褐	淡褐褐		少	少		F223	
476	S003	HB	土器	皿	138	90	22	マダ	マダ	淡褐褐	淡褐褐		少	少		F228	
477	S003	HB	土器	皿	143	110	24	マダ	マダ	淡褐褐	淡褐褐		少	少		F224	
478	S003	HB	青磁	碗	60	青磁胎	青磁胎			薄青磁	灰白		少	少		F181	
479	S003	HB	陶器	片口盆		ナ"	ナ"			暗灰褐	暗灰褐		少	少		F180	
480	S003	HB	土製品	笠・壺	39	52	30			淡褐褐	淡褐褐		少	少		F233	
481	S003	HB	土製品	桶	41	46	25			淡褐褐	淡褐褐		少	少		F232	
482	S005	LJ7	道楽器	壺	128	14	14	ナ"	ナ"	淡灰褐	淡灰褐		少	少		F186	
483	S005	LJ7	土器	皿	84	60	14	ナ"	ナ"	淡灰褐	淡灰褐		少	少		F185	
485	S015	DG/6	道楽器	壺		99%	ナ"			暗灰	暗灰		少	少		F168	
486	S015	DG/6	灰胎	碗		90	民物	执胎		淡灰褐	淡灰褐		少	少		F167	
487	S016/17	E8	土器	碗		58	ナ"	ナ"		灰褐	灰褐		少	少		F171	
488	S016/17	E8	土器	碗		ナ"	ナ"			淡褐褐	淡褐褐		少	少		F172	
489	S01	ESF6	土器	皿	92	50	16	33ナ"	ナ"	淡褐褐	淡褐褐		少	少		F174	
490	S031	ESF6	土器	皿	78	60	18	メタリックナ"	ナ"	淡褐褐	淡褐褐		少	少		F173	
491	S043	GB/8	道楽器	無合环	117	78	25	ナ"	ナ"	淡灰褐	淡灰褐		少	少		F188	
492	S043	GB/8	道楽器	無合环	98	ナ"	ナ"	ヘラキリ	淡灰褐	淡灰褐	少	少	少	不	F187		
493	S043	GB/8	土器	台付圓口	51	ナ"	ナ"			淡褐褐	淡褐褐		少	少		F218	
494	S043	GB/8	土器	皿	85	40	19	ナ"	ナ"	淡褐褐	淡褐褐		少	少		口縁部面部取り	F221
496	S045	C08	陶器	壺		99%	ナ"			暗灰	淡褐		少	多	瓦質	T193	
497	S045	C08	道楽器	壺											T192		
498	S049	C08	青磁	碗		青磁胎	青磁胎			淡褐褐	灰白		少	少		T195	
499	S048	E12	陶器	壺		ナ"	ナ"			淡褐褐	淡褐褐		少	少		F189	
500	S056	KB/7	土製品	土器	38	25	12			赤褐	赤褐		多	多	20.88g	F219	
501	S056	F12	土製品	土器	30	33	14			淡褐褐	淡褐褐		多	多	26.52g	F220	
502	S001/02	GB/9	道楽器	無合环	130	90	33	ナ"	ナ"	灰	灰	少	少	少		E210	
503	S001/02	GB/9	道楽器	無合环	130	80	37	ナ"	ナ"	灰	灰	少	少	少		E209	
504	S001/02	GB/9	道楽器	壺	184	ナ"	ナ"			灰	灰	少	少	少	2.4g	E226	
505	S001/02	GB/9	道楽器	壺	130	ナ"	ナ"			灰	灰	少	少	少		E214	
506	S001/02	GB/9	道楽器	壺		ナ"	ナ"			灰	灰	少	少	少		E227	
507	S001/02	GB/9	道楽器	壺	62	ナ"	ナ"	ヘラキリ後打	灰	灰	少	少	少		E208		
508	S001/02	GB/9	陶器	壺	482	ナ"	ナ"			灰白	灰白	少	多	多		E211	

第4表 土器・陶磁器・土製品観察表(7)

No.	遺構	地区	器種	口(底) 高(幅)	厚(径)	外面調整	内部調整	外部色調 (純色調)	内部色調 (美色地調)	緑	砂	青	赤	造成	備考	実測No.
509	SD01/02	GH#9	洼溝	便		99+	ナシ	灰	灰	少	多	少	不	2号	E228	
510	SD01/02	GH#9	洼溝	便		ナシ	ナシ	暗灰	暗灰	無	無	無	無	無	F234	
511	SD01/02	GH#9	加賀	便		ナシ	ナシ	深灰	深灰	無	無	無	無	無	E215	
512	SD01/02	GH#9	洼溝	鉢	84	ナシ	ナシ	灰灰	灰灰	無	少	無	無	無	E213	
513	SD01/02	GH#9	土師器	皿	127	80	27	ナシ	ナシ	淡灰褐	淡灰褐	少	多	無	無	F235
514	SD01/02	GH#9	青磁	碗				青磁跡	青磁跡	灰	無	無	無	無	無	E212
517	SD02	GH#9	土師器	高杯				マグ	シルバ	淡灰褐	淡灰褐	多	少	無	無	F195
518	SD02	GH#9	漆器器	有合杯	56	ナシ	ナシ	ヘリコリ後ナシ	ヘリコリ後ナシ	灰	灰	少	無	無	無	E221
519	SD02	GH#9	漆器器	有合杯	78	ナシ	ナシ	ヘリコリ後ナシ	ヘリコリ後ナシ	灰	灰	無	無	無	無	E222
520	SD02	GH#9	漆器器	盆				ナシ	ナシ	灰白	灰白	少	無	無	無	T289
521	SD02	GH#9	漆器器	便				99後ナシ	当て具						無	E220
522	SD02	GH#9	土師器	皿	90	64	16	ナシ-33ナシ	ナシ	淡棕褐	淡棕褐	無	無	無	無	T287
523	SD02	GH#9	土師器	皿	118	66	29	ナシ-33ナシ	ナシ	淡褐	淡褐	少	無	無	無	T288
524	SD02	GH#9	土師器	皿	128	92	24	33ナシ	ナシ	淡棕褐	淡棕褐	少	無	無	無	T288
525	SD02	GH#9	土師器	皿	147	100	27	ナシ	ナシ			少	少	無	無	F197
526	SD02	GH#9	土師器	皿	156	105	30	ナシ	ナシ	淡灰褐	淡灰褐	少	少	無	無	F196
527	SD02	GH#9	白磁	碗	(160)			透明釉	透明釉	白灰	白灰	無	無	無	無	T292
528	SD02	GH#9	白磁	碗	164			透明釉	透明釉	灰	灰白	無	無	無	無	E245
529	SD02	GH#9	青磁	环-钵	100			青磁迹	青磁迹	暗褐	白	無	無	無	無	E243
530	SD02	GH#9	青磁	碗				青磁迹	青磁迹	淡褐	灰白	無	無	無	無	E244
531	SD02	GH#9	古窯戸内	碗	■■■	47		灰白	灰白	淡黄褐	淡黄褐	無	無	無	無	E234
532	SD02	GH#9	古窯戸内	平碗	52			灰白	灰白	黄绿灰	黄绿灰	無	無	無	無	E238
533	SD02	GH#9	麦器系	便				ナシ	ナシ	暗茶褐	暗茶褐	少	多	無	無	E219
534	SD02	GH#9	加賀	便				ナシ-押印	ナシ	茶灰	茶灰	少	無	無	無	E223
535	SD02	GH#9	洼溝	便	(440)			ナシ	ナシ	暗灰	暗灰	少	無	無	無	T281
536	SD02	GH#9	洼溝	盤	174			ナシ	ナシ	灰白	灰白	少	少	無	無	T280
537	SD02	GH#9	越前	便	(666)			ナシ	ナシ	灰白	暗灰	無	無	無	無	T284
538	SD02	GH#9	洼溝	钵	(320)			ナシ	ナシ	灰	灰	少	無	無	無	T283
539	SD02	GH#9	洼溝	寸引鉢	(400)			ナシ	ナシ	灰白	暗灰	無	無	無	無	T282
540	SD02	GH#9	洼溝	寸引鉢	300			ナシ-脚目	ナシ-脚目	灰	灰	少	少	無	無	E218
541	SD02	GH#9	洼溝	钵	174			ナシ	ナシ	灰	灰	少	無	無	無	E216
542	SD02	GH#9	洼溝	寸引鉢	308			ナシ	ナシ	灰	灰	少	無	無	無	E217
543	SD02	GH#9	越前	寸引鉢	(340)			ナシ	ナシ	淡白褐	淡白褐	少	少	無	無	T290
544	SD02	GH#9	陶器	寸引鉢	(234)			ナシ	ナシ	暗赤褐	暗赤褐	少	無	無	無	T281
545	SD02	GH#9	洼溝	便	84			ナシ	ナシ	碧止糸引	碧止糸引	灰	少	無	無	T279
546	SD02	GH#9	肥前陶	便	52			透明釉?	透明釉?	灰	灰	無	無	無	無	E235
547	SD02	GH#9	肥前陶	碗	45			透明釉?	透明釉?	透明釉	透明釉	無	無	無	無	E238
548	SD02	GH#9	肥前陶	碗	98			透明釉	透明釉	淡灰褐	淡灰褐	無	無	無	無	E246
549	SD02	GH#9	肥前陶	皿	40			透明釉	透明釉	灰	灰	無	無	無	無	E239
550	SD02	GH#9	肥前陶	皿	44			灰白	灰白	暗灰	暗灰	無	無	無	無	E237
551	SD02	GH#9	肥前陶	钵	90			青磁迹	青磁迹	淡灰褐	淡灰褐	白	良	蛇	日彌高台 滅體	E241
552	SD02	GH#9	肥前陶	皿	127	44	37	灰白	灰白	灰白	灰白	無	無	無	無	E242
553	SD02	GH#9	肥前陶	皿	76			透明釉	透明釉	透明釉	透明釉	無	無	無	無	E240
554	SD02	GH#9	肥前陶	碗	37			灰白	灰白	圆柱糸引	圆柱糸引	暗灰褐	無	無	無	E233
555	SD02	GH#9	土製品	土拂	30	27	10			淡棕灰褐	淡棕灰褐	無	少	無	15.5g	T285
556	SD02	GH#9	陶製品	陶拂	33	21	7			森茶灰	森茶灰	無	無	無	16.51g	F199
557	SD02	GH#9	土製品	土拂	47	12	4			淡灰褐	淡灰褐	少	無	無	毛用 4.8g	T293
558	SD02	GH#9	土製品	土拂	80	59	27			淡灰褐	淡灰褐	少	少	少	ふくら省中に施跡 40.32g	F198

第5表 漆製品観察表

No.	遺構	地区	器種	口(底) 高(幅)	厚(径)	内面漆	外面漆	柄裡	木取	備考	実測No.
113	SE03	F5	瓶			124					E79
165	SE06	H8	皿	86	60	11	黑色漆	黑色漆	植木		ET10
166	SE06	H8	碗	(154)	80		黑色漆	黑色漆	植木	待内 固上復元	T149
191	SE10	E12	皿	100	76	16.6	黑色漆	黑色漆	ナナキ		E72
389	SD01	HB/9	碗	148			黑色漆	黑色漆	植木	390回粘	T190
390	SD01	HB/9	碗			80	黑色漆	黑色漆	植木	399回粘	T151
515	SD01/02	GH#9	瓶				赤色漆	赤色漆		底上切層	F289
561	SD02	GH#9	瓶	148	84	40	黑色漆	黑色漆	植木	砂輪(SD01 瓶)	T137
562	SD02	H10	碗	115			黑色漆	黑色漆	植木		F288
563	SD02	GH#9	瓶			44	赤色漆	赤色漆	植木		E782
564	SD02	GH#9	漆器品A	285	51	17	赤色漆	赤色漆b			F290
578	SD02	GH#9	台合	368	210	10	赤色漆	赤色漆	絞目		S198

第6表 木製品観察表

No.	種類	地区	種別	D(直) (厚)	高さ (厚)	幅	木取	備考	実測No.
23	SE06	IH	柱	156	31	30	釘	P103	E167
24	P139	H7	柱	232	101	47	釘	T158	E178
114	SE03	F5	棒状	276	10	10	釘	T154	
115	SE03	F5	棒状	200	5	5	釘	T158	
116	SE03	F5	棒状	180	6	3	釘	T158	
117	SE03	F5	棒状	141	5	4	釘	T157	
118	SE03	F5	棒状	135	6	5.5	釘	T155	
119	SE03	F5	板状	96	50	7	釘	T170	
120	SE05	F5	折曲	274	213	5	釘	絵 逆張り	AM5
146	SE04	E6	折曲	301	59	8.5	釘	絵 逆張り(井戸材軸用)	T153
167	SE06	H8	棒状	153	10	6	釘	角丸	ET13
168	SE06	H8	棒状	182	5	5	釘	角	ET14
169	SE06	H8	木部	190	39	3	X板	T175	
170	SE06	H8	折曲	174	50	9	釘	絵 折曲	ET35
171	SE06	H8	折曲	273	123	6	釘	絵 折曲、折曲用品	ET34
172	SE06	H8	折曲	268	82	6	釘	絵 折曲	ET17
173	SE06	H8	内彎版	249	75	5	釘	絵 鋼板	ET18
174	SE06	H8	板状	280	75	11	釘	T178	
175	SE06	H8	棒状	102	43	33	釘	T171	
184	SE09	E12	棒状	73	5	3	釘	E194	
188	SE07	F5	隔壁物	87	47	47	底	心 下層枠内	T138
192	SE10	E12	板状	161	26	8	釘	板	S102
193	SE10	E12	棒状	133	26	15	釘	板	S103
194	SE10	E12	棒状	148	19	17	釘	心 下方底化	S104
211	SE03	F5	棒状	188	5	3	釘	鉛外 角	T158
212	SE03	F5	棒状	165	6	5	釘	鉛外 角	T160
213	SE03	F5	棒状	96	6	3.5	釘	鉛外 平	T161
231	SK23	J6	円筒板	134	134	13	釘	絵 3層板	ET94
232	SK23	J6	板状	338	40	5	釘	板 1層	ET88
233	SK23	J6	人形	377	31	7	2.5	板 2層	T300
391	S001	H8/9	棒状	219	5.5	4.5	釘	角	T160
392	S001	H8/9	折曲	170	40	4	釘	板 底上砂層	ET78
393	S001	H8/9	付柱状	231	25	4	X板	T148	
394	S001	H8/9	柄状	57	30	7	底	T172	
395	S001	H8/9	棒状	103	25	25	底	心	T163
396	S001	H8/9	棒状	182	20	9	底	絵	T167
397	S001	H8/9	板状	103	13	2	釘	板	ET26
398	S001	H8/9	板状	112	18	4	釘	絵	599
399	S001	H8/9	板状	93	30	8	釘	絵	ET23
400	S001	H8/9	棒状	286	15	13	釘	底	598
401	S001	H8/9	棒状	257	16	11	釘	心 一部底化	S87
402	S001	H8/9	板状	206	37	14	釘	板	T164
403	S001	H8/9	板状	108	48	40	釘	板	S100
404	S001	H8/9	板状	172	23	12.5	釘	板	T165
405	S001	H8/9	板状	123	15	5	釘	底	T171
406	S001	H8/9	棒状	164	11	8	釘	T178	
407	S001	H8/9	杭	165	41	38	釘	心 木③	ET24
408	S001	H8/9	杭	457	27	24	釘	絵	S197
409	S001	H8/9	棒状	398	15	21	釘	底	T169
410	S001	H8/9	杭	687	28	29	釘	底	S196
411	S001	H8/9	角状	37	50	24	釘	絵	T122
412	S001	H8/9	板状	68	61	19	底	板	S101
413	S001	H8/9	棒状	80	40	35	釘	底	T166
414	S001	H8/9	杭	167	48	40	底	心	T162
415	S001	H8/9	杭	1349	203	195	釘	心 四隅面取り柱軸用	T141
416	S001	H8/9	杭	1218	161	117	釘	心 木④	T140
417	S001	H8/9	杭	949	151	119	釘	心 木⑤	F99
418	S001	H8/9	杭	1011	131	141	釘	心 木⑥	T176
419	S001	H8/9	杭	1137	118	94	釘	心 木⑦	T144
420	S001	H8/9	杭	944	89	67	釘	心 木⑧	T145
421	S001	H8/9	杭	882	100	80	釘	心 木⑨	S91
422	S001	H8/9	杭	541	142	42	釘	心 木⑩	S94
423	S001	H8/9	杭	317	67	53	釘	心 木⑪	S96
424	S001	H8/9	杭	243	83	24	釘	心 木⑫	S97
425	S001	H8/9	杭	369	103	64	釘	心 木⑬	S95
426	S001	H8/9	杭	336	61	53	釘	心 木⑭	T147
427	S001	H8/9	杭	410	90	80	釘	心 木⑮	T148
428	S001	H8/9	板状	1754	299	48	釘	心 横板下段	T142
429	S001	H8/9	板状	1555	242	48	釘	心 横板上段	T143
430	S001	H8/9	杭	1223	100	82	釘	心 木⑯	F98
431	S001	H8/9	杭	880	169	150	釘	心 木⑰	F104
432	S001	H8/9	杭	329	42	38	釘	心 木⑱	ET77

No.	種類	地区	種別	D(直) (厚)	高さ (厚)	幅	木取	備考	実測No.
495	SD03	G8/10	不明	34	33	27	底	心	E183
518	SD01/02	G9/10	耐台合	113	49	9	釘	絵	E119
560	SD02	G9	横棒	34	29	8	釘		F202
565	SD02	G9	円柱版	100	182	14	釘	板 傷印 別材使用	AM16
566	SD02	G9	円柱版	65	64	4	釘	板 傷印	T254
567	SD02	G9	円柱版	198	54	7	釘	板 傷印	AM14
568	SD02	G9	円柱版	126	60	8	釘	板 傷印	ET36
570	SD02	H10	横側板	68	46	6	釘	板 傷印	ET85
571	SD02	G9	横側板	237	64	7	釘	板 傷印	T251
572	SD02	G9	横側板	113	57	11	釘	板 傷印	T253
573	SD02	G9	把手台	192	35	8	釘	板	AM15
574	SD02	G9	把手	90	30	8	釘	板	T252
575	SD02	G9	横板	45	35	38.5	底	心 組立易層	ET81
576	SD02	G9	板状	128	60	8	釘	板	F277
577	SD02	G9	木端	231	25	9	釘	板 背面木端	S199
579	SD02	G9	板状	110	100	18	釘	板	F279
580	SD02	H10	下駄	222	102	94	底	板	AM13
581	SD02	G9	下駄	218	82	27	底	板	ET80
582	SD02	G9	下駄	165	84	40	底	板	S249
583	SD02	G9	下駄	243	104	12	釘	板 田下駄	AM11
584	SD02	G9	杭	310	38	45	底	心 上に砂層	S248
585	SD02	G9	不明	92	92	71	釘	心	T250
588	SD02	G9	板状	487	74	12	釘	下駄(SD01 合成物)	ET31

第7表 石製品観察表

No.	種類	地区	種別	長	幅	厚	底	重量	備考	実測No.
97	SE02	SK07	F6	火打石	19	20	6	2.61	A/ラ	E135
121	SE03	F5	砾石	83	85	53	600	搬り面アリ	T174	
122	SE03	F5	不明	97	107	84	1120		T176	
157	SD05	E5	磨削石	56	33	10			S130	
199	SK01	E5	砾石	51	35	11	33.79		E175	
218	SK13	E12	砾石	69	46	9	27.72		E179	
222	SK24	F6	石材	36	52	29	21.54		E256	
223	SK24	F6	石材	25	17	15	9.38		E257	
234	SK23	J6	石材	48	29	27	40.19		E259	
249	SK05	L6	石材	43	29	11	10.04		E260	
250	模様外			30	19	6	2.68		E231	
251	模様外			26	12	7	1.73		E232	
433	S001	H8/9	打削石	76	58	21	130	上層	F200	
434	S001	H8/9	打削石	81	56	16	98		F191	
435	S001	H8/9	底削石	73	48	45	185		F192	
436	S001	H8/9	打削木	119	54	23	265		F193	
437	S001	H8/9	石	23	18	6			T210	
438	S001	H8/9	石	20	12	4	0.98	上層	F201	
439	S001	H8/9	石	10	8	4	0.19	上層	T249	
440	S001	H8/9	剥片	25	20	9	4.67		T214	
441	S001	H8/9	剥片	21	14	8	3.91		T215	
442	S001	H8/9	石	37	23	9	10	未完成品	T211	
444	S001	H8/9	剥片	35	23	15	15.63		T217	
445	S001	H8/9	剥片	28	29	12	7.61		T216	
448	S001	H8/9	剥片	32	23	8	6.565		T212	
449	S001	H8/9	砾石	57	29	26		黒粒粘着	M141	
450	S001	H8/9	砾石	23	29	6		底上砂層	M136	
462	S003	H8	火打石	17	15	17	6.80		F184	
484	S006	H8	剥片	50	56	31		緑色凝灰岩	F190	
559	SD02	G9	砾石	82	55	17	120		F194	

第8表 金属製品・鉱物観察表

No.	種類	地区	器種	長	幅	厚	底	重量	備考	実測No.
183	S009	E12	底	38	37	23	33.28			E186
297	S001	H8/9	底	58	70	24				M128
388	S001	H8/9	刀子	220	23	5				T221
451	S001	H8/9	底	37	27	25	10.33	2 H2		E224
452	S001	H8/9	底	40	35	14	28.27			T218
453	S001	H8/9	底	64	40	25	55.54			T219

第5章 直江遺跡群の古環境

第1節 花粉化石

鈴木 茂 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

金沢市直江町地内に所在する直江遺跡群において行われた発掘調査に際し、直江北遺跡の井戸側内（弥生時代末～古墳時代初頭）、直江中遺跡の井戸側内（13・14世紀）および川跡（13・14世紀）より土壤試料が採取された。以下にこの採取された土壤試料について行った花粉分析の結果を示し、直江遺跡群周辺の古植生について検討した。

2. 試料と分析方法

花粉分析用試料は直江北遺跡東側南地区の井戸 SK20 の側内土壤（試料 No.1）、直江中遺跡西側地区の井戸 SE03 の側内土壤（2層：試料 No.3）、同遺跡東側地区的川跡 SD01 の堆積土壤（11・13層：試料 No.4）の3試料である。各試料について、試料 No.1 はオリーブ黒色の砂質粘土で、オリーブ褐色砂の小塊が散在している。試料 No.3 は灰オリーブ色の砂質粘土、試料 No.4 は暗緑灰色の砂質シルトである。これら3試料について以下のような手順にしたがって花粉分析を行った。

試料（湿重約 5g）を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え 20 分間湯煎する。水洗後 0.5mm 目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に 46% フッ化水素酸溶液を加え 20 分間放置する。水洗後、比重分離（比重 2.1 に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理（無水酢酸 9：濃硫酸 1 の割合の混酸を加え 3 分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作成して行い、その際サフランにて染色を施した。

3. 分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は樹木花粉 22、草本花粉 19、形態分類を含むシダ植物胞子 3 の総計 44 である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を第9表に、また主要な花粉・シダ植物胞子の分布を第46図に示した。なお、分布図における樹木花粉は樹木花粉総数を、また草本花粉、シダ植物胞子は全花粉・胞子総数を基準とした百分率で示してある。表および図においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示し、クワ科・マメ科の花粉は樹木起源と草本起源のものとがあるがそれぞれに分けることが困難なため便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

検鏡の結果、スギが圧倒的に多く、3試料とも出現率は 50% 以上を示しており、試料 No.4 では 80% 近くに達している。他に出現率が 10% を越える分類群はなく、その中ではイチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科（以後ヒノキ類と略す）とコナラ属コナラ亜属が 5% 前後、ハンノキ属、ブナ、ニレ属-ケヤキ属が 3 試料とも 1% 以上を示している。草本類ではイネ科が最も多く、試料 No.3 では 40% を越えている。次いでヨモギ属が多く、試料 No.1 では 20% 近い出現率を示している。その他、カヤツリグサ科、アブラナ科、シダ植物がやや目立って検出されており、試料 No.4 ではソバ属が観察されている。また、試料 No.3,4 では水生植物のガマ属、サジオモダカ属、オモダカ属が若干得られている。

4. 直江遺跡群周辺の古植生

先にも記したが、時期については直江北遺跡の井戸 SK20（試料 No.1）が弥生時代末～古墳時代初

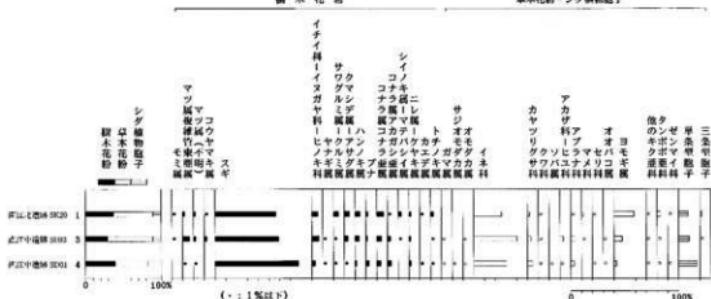
表 9 産出花粉化石一覧表

和名	学名	1	3	4
樹木				
モミ属	<i>Abies</i>	1	1	-
マツ属单被管束型属	<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxyylon</i>	-	-	1
マツ属複被管束型属	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxyylon</i>	2	14	2
マツ属(不明)	<i>Pinus</i> (Unknown)	2	5	1
コウヤマキ属	<i>Sciadopitys</i>	1	5	-
スギ科	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	61	123	158
イヌイリイイヌガヤ科ヒノキ科	<i>T. L.</i>	6	13	6
ヤナギ属	<i>Salix</i>	-	1	1
サワグルミ属カーカルミ属	<i>Pterocarya-Juglans</i>	5	2	1
クマシデ属アザダ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	5	8	-
カバノキ属	<i>Betula</i>	-	3	1
ハンノキ属	<i>Alnus</i>	5	8	3
ブナ	<i>Fagus crenata</i> Blume	2	3	6
コナラ属コナラ属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	7	9	8
コナラ属アカガシ属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	1	6	7
クリ属	<i>Castanea</i>	1	-	-
シノキ属マテバシイ属	<i>Castanopsis - Passania</i>	3	2	-
ニレ属ケヤキ属	<i>Ulmus - Zelkova</i>	2	3	4
カエデ属	<i>Acer</i>	1	-	2
トネリキ属	<i>Aesculus</i>	3	1	1
ウコギ科	<i>Araliaceae</i>	-	-	1
トネリコ属	<i>Fraxinus</i>	-	2	-
草本				
ガマ属	<i>Dypha</i>	-	1	3
サジオモダカ属	<i>Alisma</i>	-	-	1
モモダカ属	<i>Sagittaria</i>	-	1	1
イネ科	<i>Gramineae</i>	76	290	159
カヤツリグサ科	<i>Cyperaceae</i>	5	24	25
タワ科	<i>Moraceae</i>	2	2	1
サナエタ部-ウナギカミ部	<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria-Echinocaulon</i>	-	2	-
シバ属	<i>Fagopyrum</i>	-	-	1
アカサ科ヒユ科	<i>Chenopodiaceae - Amaranthaceae</i>	-	22	3
ナデシコ科	<i>Caryophyllaceae</i>	-	2	-
アフランカ科	<i>Cruciferae</i>	1	27	16
アズキ科	<i>Leguminosae</i>	4	1	-
シリオネソウ属	<i>Lapathis</i>	1	-	-
セリ科	<i>Urticaceae</i>	1	-	1
シソ科	<i>Labiatae</i>	-	1	-
オオバコ属	<i>Plantago</i>	-	1	1
ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	55	55	12
他のキク科	other <i>Tubulifloras</i>	1	1	1
タンボボ科	<i>Liguliflorae</i>	9	4	1
シダ植物				
ゼンマイ科	<i>Osmundaceae</i>	1	-	1
革类型胞子	<i>Monolete spore</i>	26	71	88
三葉型胞子	<i>Trilete spore</i>	4	6	-
樹木花粉	<i>ArboREAL pollen</i>	109	209	204
草本花粉	<i>NonarboREAL pollen</i>	155	431	236
シダ植物胞子	<i>Spores</i>	31	77	89
花粉・胞子総数	<i>Total Pollen & Spores</i>	294	720	519
不明花粉	<i>Unknown pollen</i>	28	11	9

T. - C. は Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceaeを示す

樹木花粉

草本花粉・シダ植物胞子



第46図 直江遺跡群の主要花粉化石分布図

(樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は花粉・胞子総数を基準として百分率で算出した)

頭、直江中遺跡の井戸 SE03 および川跡 SD01 の堆積土壌（試料 No.4）が 13・14 世紀と考えられている。花粉分析の結果、これらの試料に大きな違いは認められないことから、ほぼ同様の植生が成立していたと推測される。すなわち、弥生時代末～古墳時代初頭および 13・14 世紀の直江遺跡群周辺丘陵部では斜面部を中心にヒノキ類が混じるスギ林が広く成立していたとみられる。また、コナラ亜属やクマシデ属ーアサガホ属、ニレ属ーケヤキ属などの落葉広葉樹林も一部に形成されていたと推測される。さらにアカガシ亜属やシノノキ属ーマテバシイ属などの常緑広葉樹類も尾根部などに分布していたであろう。なお、試料 No.3 においてマツ属複維管束亜属（アカマツ、クロマツなどのいわゆるニヨウマツ類）がやや多く検出されていることから、13・14 世紀の直江遺跡群周辺丘陵部では一部にニヨウマツ類の二次林が形成されていた可能性が推察される。

一方、直江遺跡群周辺低地部では河川周辺などにハンノキ属やクルミ属ーサワグルミ属、ヤナギ属が生育しており、河畔林や湿地林を形成していたとみられる。また、プラント・オパール分析において直江中遺跡の 2 試料よりイネのプラント・オパールが多く検出されており、13・14 世紀の直江遺跡群周辺では川跡周辺などの低地部において水田稲作が行われていたことが推測される。この水田には水田雑草と考えられるサジオモダカ属、オモダカ属が生育していたとみられる。なお、試料 No.1 においても若干のイネのプラント・オパールが検出されており、弥生時代末～古墳時代初頭の時期においても遺跡周辺において稲作が行われていた可能性が推察されるが、これについてはさらに検討が必要であろう。

井戸についてみると、弥生時代末～古墳時代初頭の直江北遺跡井戸 SK20 周辺にはヨモギ属を中心としたタンボボ亜科、シダ植物などが生育していたとみられる。さらに大型植物遺体分析結果をみるとキジムシロ属やスミレ属、スゲ属などが井戸試料としては本試料のみの検出であり、これらが生育する雑草群落が SK20 周辺に形成されていたとみられる。

13・14 世紀の直江中遺跡井戸 SE03 周辺には SK20 と異なり、アカザ科ヒユ科やアブラナ科、ハコベ属（大型植物遺体同定参照）などが目立つ雑草群落が形成されていたとみられる。さらに、わずかではあるがオオバコ属の花粉化石が検出されており、大型植物遺体においてはオオバコ属やスペリヒュ属の種子が得られている。このオオバコ属、スペリヒュ属は道端雑草を含む分類群であることから、井戸周辺において人が盛んに行き来していた様相がうかがえよう。

第 2 節 プラント・オパール

鈴木 茂（パレオ・ラボ）

1. はじめに

金沢市直江町に所在する直江遺跡群において行われた発掘調査で、弥生時代末～古墳時代初頭や 13・14 世紀の井戸側内および 13・14 世紀の川跡より土壌試料が採取された。以下にこの土壌試料について行ったプラント・オパール分析の結果を示し、遺跡周辺のイネ科植生について検討した。

2. 試料と分析方法

試料は直江北遺跡東側南地区の井戸 SK20 の側内土壌（試料 No.1）、直江中遺跡西側地区の井戸 SE03 の側内土壌（2 層：試料 No.3）、同遺跡東側地区の川跡 SD01 の堆積土壌（11・13 層：試料 No.4）の 3 試料である。各試料の層相については第 1 節を参照して頂きたいが、おおむね砂質粘土や砂質シルトである。時期については試料 No.1 が弥生時代末～古墳時代初頭、試料 No.3, 4 が 13・14 世紀と考えられている。これら 3 試料について以下に示した手順にしたがってプラント・オパール分析を行った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約1g（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスピーズ（直径約0.04mm）を加える。これに30%の過酸化水素水を20~30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波モジナイザーによる試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数はガラスピーズが300個に達するまで行った。

3. 分析結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスピーズ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め（第10表）、それらの分布を第47図に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は試料1g当りの検出個数である。

試料No.1：検鏡の結果、若干のイネのプラント・オパールが検出された。最も多く検出されたのはクマザサ属型で、10,000個を越えて得られている。その他、ウシクサ族、ヨシ属、キビ族などが検出されている。

試料No.3：イネのプラント・オパールが非常に多く検出されており、イネの穎の部分に形成される珪酸体の破片もやや多く観察されている。また、連なった状態のイネ型短細胞珪酸体もやや多く得られている。イネ以外ではクマザサ属型が最も多く検出されているが、10,000個には達していない。その他、ウシクサ族、ヨシ属、キビ族、ネザサ節型が検出されている。

試料No.4：本試料においても

イネのプラント・オパールが多く検出されており、イネの穎の部分に形成される珪酸体の破片や連なった状態のイネ型短細胞珪酸体もやや多く得られている。イネ以外ではウシクサ族、ヨシ属、クマザサ属型、キビ族、ネザサ節型が検出されている。



第47図 直江遺跡群のプラント・オパール分布図

第10表 試料1g当たりのプラント・オパール個数

試料番号	イネ (個/g)	イネ穎破片 (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	クマザサ属型 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	不明 (個/g)
1	1,500	0	0	12,000	3,000	1,500	4,500	1,500
3	71,200	19,900	1,400	8,500	1,400	2,800	5,700	2,800
4	35,400	7,600	1,300	2,500	3,800	2,500	5,100	3,800

4. イネについて

上記したように全試料よりイネのプラント・オパールが検出され、個数としては試料No.1が約2,000個、試料No.3が約71,000個、試料No.4が約35,000個であった。ここで検出個数の目安を示すと、イネのプラント・オパールが試料1g当り5,000個以上検出された地点から推定された水田址の分布範囲と実際の発掘調査とよく対応する結果が得られている（藤原、1984）。このことから稲作の検証としてこの5,000個を目安に構造の状況をふまえて判断されている。直江遺跡の試料No.3では約71,000個が示されており、5,000個をはるかに越える個数が得られている。また、穎部珪酸体の破片や連な

った状態のイネ型短細胞珪酸体も多く検出されている。こうしたことから稻藁や稻殻がそのままあるいはそれらの灰が井戸 SE03 内に混入している、捨てられているのではないかと思われる。

試料 No. 4 (直江中遺跡の川跡 SD01)においても 5,000 個をはるかに越えるイネのプラント・オパールが検出されている。また、花粉分析結果をみると、同試料よりサジオモダカ属やオモダカ属といった水田雜草を含む分類群が観察されている。試料 No. 4 は川跡堆積物であることから、川周辺において行われていた水田稲作地よりイネのプラント・オパール等がもたらされた可能性が推察されよう。

試料 No. 1 (直江北遺跡の井戸 SK20)においても若干のイネのプラント・オパールが検出されている。また同試料よりイネの果実等が得られている (大型植物遺体参照)。こうしたことから、少なくとも弥生時代末～古墳時代初頭の頃には直江遺跡群にイネが存在していたと考えられるが、稲作については遺構の検出等さらに検討が必要であろう。

5. 遺跡周辺のイネ科植物

クマザサ属型が最も多く観察されている。花粉分析結果をみると直江遺跡群周辺ではスギ林が広く成立しており、コナラ亜属などが生育する落葉広葉樹林も一部に形成されていたと推測されている。クマザサ属型のササ類 (スズダケ、チマキザサなど) はこれら森林の下草の存在で生育していたとみられる。またウシクサ族 (スキ、チガヤなど) やネザサ節型のササ類 (ケネザサ、ゴキダケなど) はこれら森林の林縁部などの開けた日のあたるところに分布していたと推測される。

低地部においてはハンノキ属などが生育する河畔林や湿地林の存在が考えられており (花粉分析の節参照)、そうしたところにヨシやツルヨシといったヨシ属が生育していたとみられる。なお、キビ族についてはその形態からアワ・ヒエ・キビといった栽培種であるのかイヌヒエ・エノコログサなどの雑草類であるのか分類が難しいのが現状であるが、現生標本の観察からここでみられたキビ族については雑草類の可能性が高いと思われる。

引用文献

藤原宏志 (1984) プラント・オパール分析法とその応用—先史時代の水田址探査—. 考古学ジャーナル, 227, 2-7.

第3節 大型植物遺体同定

佐々木由香・バンダリ スダルシャン (バレオ・ラボ)

1. はじめに

直江中遺跡と直江北遺跡は金沢市の北西部である直江町地内に位置し、直江北遺跡は日本海へ約 3 km、河北潟と日本海を結ぶ大野川へ約 1 km の距離という臨海地帯に立地する、縄文時代晚期後半と、弥生時代、古墳時代、13・14 世紀の遺構・遺物が含まれる複合遺跡である。直江中遺跡は直江北遺跡から南西方向に約 200m の位置に所在し、縄文時代晚期から近世までの遺構・遺物を確認している集落遺跡である。中心時期は鎌倉時代から南北朝時代頃であり、他の時代は少ない。調査では遺構内から大型植物遺体が含まれる堆積物が採取された。ここでは堆積物を水洗して得られた大型植物遺体を検討し、当時の植生や利用された植物について検討した。

2. 試料と方法

試料は遺構内より採取された堆積物 4 試料である。試料 No. 1 は直江北遺跡の東側南地区に位置する弥生時代末から古墳時代初頭の井戸 (SK20) 側内堆積物である。試料 No. 2 は同遺跡の支線南地区に位

置する古墳時代中期の井戸（SE06）側内堆積物である。試料 No. 3 は直江中遺跡の 13・14 世紀の井戸（SE03）側内の 2 層堆積物である。試料 No. 4 は直江中遺跡の 13・14 世紀の川跡（SD01）の 11～13 層堆積物である。試料の層相は花粉分析の報告を参照されたい。

堆積物から 300cc 計量後、0.25mm 目の篩を用いて水洗選別を行い、大型植物遺体の抽出・同定・計数を実体顕微鏡下で行った。試料はエタノール水溶液 60% 中に保存し、炭化したものはおもに乾燥保存した。試料は金沢市埋蔵文化財センターで保管されている。

3. 結果

同定した結果、木本植物では、広葉樹のヒメコウゾ核と、クワ属核、アカメガシワ種子の 3 分類群が得られた。草本植物では、カナムグラ核と、ミズ属果実、ヤナギタデ果実、イヌタデ果実、サナエタデ・オオイヌタデ果実、アキノウナギツカミ果実・炭化果実、タデ属果実、ギシギシ属果実、スペリヒニ属種子、ハコベ属種子、アカザ属種子、キンボウゲ属種子、ムラサキケマン種子、タネツケバナ属種子、キジムシロ属種子、カタバミ属種子、エノキグサ種子、スミレ属種子、ウリ属メロン仲間種子、ウリ科 A 種子、ウリ科 B 種子、メハジキ属果実、イヌコウジュ属果実、シソ属果実、ナス属種子、オオバコ属種子、タカサゴウ属種子、メナモミ属果実、キク科 A 果実、キク科 B 果実、コナギ種子、ツユクサ種子、ヒエ果実、ヒエ属果実、イネ果実・炭化果実・炭化種子、アワ果実・炭化種子、イネ科果実、スゲ属 A 果実、スゲ属 B 果実、スゲ属果実、カヤツリグサ属果実、ウキヤガラ炭化果実、ホタルイ属果実の 43 分類群が得られた。スゲ属はタイプごとに A と B に分け、それ以外をスゲ属とした。このほかに子囊菌が得られた。全体的に木本植物が少なく、草本植物が多かった。

以下に遺構別に記載する。

[直江北遺跡井戸（SK20）：弥生時代末から古墳時代初頭]

木本植物ではなく、草本植物が 19 分類群得られた。ミズ属が多く、キジムシロ属とスゲ属 A が少量得られた。その他は 10 点以下の産出数であった。栽培植物はイネとアワが微量得られた。イネには炭化したもののが含まれていた。

[直江北遺跡井戸（SE06）：古墳時代中期]

木本植物は 2 分類群、草本植物が 15 分類群得られた。ヒエ属が多く、ハコベ属とギシギシ属がそれに次いだ。その他は 10 点以下の産出数であった。栽培植物は少量のイネとアワが得られた。イネの破片数はやや多いが、個体数に換算すると 10 点以下であった。

[直江中遺跡井戸（SE03）：13・14 世紀]

木本植物は 1 分類群、草本植物が 20 分類群得られた。ハコベ属が多く、タネツケバナ属とカタバミ属、ギシギシ属、オオバコ属、イネ科がやや多く得られた。その他は 10 点以下の産出数であった。栽培植物は少量のイネとアワが得られた。イネとアワには炭化したものが含まれていた。

[直江中遺跡川跡（SD01）：13・14 世紀]

木本植物は 1 分類群、草本植物が 26 分類群得られた。ハコベ属がやや多く、カヤツリグサ属とスゲ属が少量得られた。その他は 10 点以下の産出数であった。栽培植物はメロン仲間とヒエ、イネ、アワが微量得られた。イネには炭化したものが含まれていた。

第11表 直江遺跡群から出土した大型植物遺体（（）は破片を示す）

分類群	試料名	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4
		直江北遺跡	直江北遺跡	直江中遺跡	直江中遺跡
		遺構名	層位	層位	層位
ヒメコウゾ	<i>Broussonetia kazinoki</i> Sieb.	核			1
クワ属	<i>Morus</i> sp.	核	9		
アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i> (Thunb.) Muell.-Arg.	種子	0(1)	0(1)	
カナムグラ	<i>Humulus japonicus</i> Sieb. et Zucc.	核			0(1)
ミズ属	<i>Pilea</i> sp.	果実	69		
ヤナギタデ	<i>Persicaria hydropiper</i> (L.) Spach	果実	3		2(1)
イヌタデ	<i>Persicaria longisetata</i> (De Bruyn) Kitagawa	果実	3(2)	6(1)	1(2)
サナギタデ-オオイヌタデ	<i>Persicaria scabra</i> - <i>P. lapathifolia</i>	果実	2(2)		
アキノウナギツカミ	<i>Persicaria sieboldii</i> (Melsn.) Ohki	果実	3(1)		
		炭化果実	1		
タデ属	<i>Polygonum</i> sp.	果実			1
ギシギシ属	<i>Rumex</i> sp.	果実	24(25)	13(4)	9(2)
スペリヒュ属	<i>Portulaca</i> sp.	種子		4(1)	3
ハコベ属	<i>Stellaria</i> spp.	種子	10	53	38(5)
アカザ属	<i>Chenopodium</i> sp.	種子		3	2(7)
キンポウゲ属	<i>Ranunculus</i> sp.	種子			4
ムラサキマツマン	<i>Corydalis incisa</i> (Thunb.) Pers.	種子		1(1)	1
タネクサバ属	<i>Cardamine</i> sp.	種子			26
キジムソ属	<i>Potentilla</i> sp.	種子	21(4)		3(1)
カタバミ属	<i>Oxalis</i> sp.	種子		1	0(2)
エノキグサ	<i>Acalypha</i> sp.	種子	1(9)	1	3(37)
スミレ属	<i>Viola</i> sp.	種子	5		3(12)
ウリ属-ロン開	<i>Cucumis melo</i> L.	種子			0(1)
ウリ科A	<i>Cucurbitaceae</i> A	種子	0(1)		
ウリ科B	<i>Cucurbitaceae</i> B	種子			0(1)
メハジキ属	<i>Leonurus</i> sp.	果実		3	
イスコウジウ属	<i>Mosla</i> sp.	果実	3		8
シソ属	<i>Perilla</i> sp.	果実			2(2)
ナス属	<i>Solanum</i> sp.	種子	1		
オオバコ属	<i>Plantago</i> sp.	種子			13
タカハブロウ属	<i>Eclipta</i> sp.	種子			4
メナモニ属	<i>Siegesbeckia</i> sp.	果実	1(2)		
キク科A	<i>Compositae</i> sp. A	果実			4
キク科B	<i>Compositae</i> sp. B	果実			1
コナギ	<i>Monochoria vaginalis</i> (Burm. fil.) Presl	種子		1	2
フユクサ	<i>Commelinia communis</i> L.	種子	4(1)		
ヒエ	<i>Echinochloa crus-galli</i> (L.) Beauv.	果実		105	2
イネ	<i>Oryza sativa</i> L.	果実	0(1)	0(25)	0(1)
		炭化果実	0(3)		0(2)
		炭化種子			0(7)
アワ	<i>Setaria italica</i> Beauv.	果実	4(3)	2	8(9)
		炭化種子			1
イネ科	<i>Gramineae</i> sp.	果実		1	11
スグ属A	<i>Carex</i> sp. A	果実		13(1)	
スグ属B	<i>Carex</i> sp. B	果実	1		
スグ属	<i>Carex</i> spp.	果実			11
カヤフリグサ属	<i>Cyperus</i> sp.	果実	5	2	14
ウキヤガラ	<i>Scirpus</i> <i>yagara</i> Ohwi	炭化果実			0(1)
ホタルイ属	<i>Scirpus</i> sp.	果実			1
子囊菌	<i>Ascomycotina</i>	炭化子囊	2		2(3)

以下に主要な種実遺体の記載を行い、図版に写真を示す。

(1) クワ属 *Morus* sp. 核 クワ科

明黄褐色で、側面観はいびつな広倒卵形または三角状倒卵形、断面形は卵形または三角形。背面は稜をなす。表面はゆるやかな凹凸があり、厚くやや硬い。基部に嘴状の突起を持つ。長さ 2.3mm、幅 1.5mm 程度。

(2) カナムグラ *Humulus japonicus* Sieb. et Zucc. 核 クワ科

灰黒色~茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は円形。完形であれば一端に黄白色で心形の着点がある。壁は薄く、やや硬い。残存長 3.5mm、幅 3.6mm。

(3) イヌタデ *Persicaria longisetata* (De Bruyn) Kitagawa 果実 タデ科

黒色で、上面観は三角形、側面観は広卵形。果皮は厚く硬い。表面は平滑で他のタデ属より光沢がある。また稜となる部分が幅広である。大きさは他のタデ属より小さい。長さ 2.1mm、幅 1.2mm 程度。

(4) サナエタデ-オオイヌタデ *Persicaria scabra* (Moench) Mold.-*P. lapathifolia* (L.) S.F.Gray
果実 タデ科

黒色で、上面は扁平で両凸レンズ形、側面観は橢円形で先端がやや尖る。中央部がやや凹む。表面は平滑で光沢はない。長さ 2.6mm、幅 1.5mm 程度。

(5) ギシギシ属 *Rumex* sp. 果実 タデ科

茶褐色で、断面観は三角形、側面観は狭倒卵形で両端が尖る。表面は平滑で鈍い光沢がある。長さ 2.7mm、幅 1.6mm 程度。

(6) スペリヒユ属 *Portulaca* sp. 種子 スペリヒユ科

黒色で、上面観は扁平、側面観は円形。全体的にいぼ状の突起がある。「の」の字状になり先端に着点がある。長さ 0.8mm、幅 0.8mm 程度。

(7) ハコベ属 *Stellaria* spp. 種子 ナデシコ科

赤茶色で、上面観は扁平、側面観は円形。表面には三角形または半円形のいぼ状の突起が散在する。複数種含まれる。長さ 1.3mm、幅 1.1mm 程度。

(8) アカザ属 *Chenopodium* sp. 種子 アカザ科

黒色で、上面観はやや扁平、側面観は円形。種皮は強い光沢があり、硬い。着点の一端がやや突起し、中心部方向にむかって浅い溝がある。長さ 1.1mm、幅 1.1mm 程度。

(9) カタバミ属 *Oxalis* sp. 種子 カタバミ科

灰色～灰黒色で、上面観は扁平、側面観は卵形。横方向に歓状の隆起がある。種皮はやや薄く、柔らかい。長さ 1.5mm、幅 1.1mm 程度。

(10) エノキグサ *Acalypha australis* L. 種子 トウダイグサ科

黒色で、上面観は円形、側面観は倒卵形。表面には細かい網目模様があり、光沢がなくざらつく。種皮の断面は柵状で薄く硬い。長さ 1.7mm、幅 1.3mm 程度。

(11) ウリ属メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

透明をおびる黄茶褐色で、上面観は扁平、側面観は細長い卵形で頂部が尖る。幅狭でやや厚みがある。藤下(1984)は、おむね種子の大きさから次の 3 群に分けられるとしている。長さ 6.0mm 以下は雑草メロン型、長さ 6.1～8.0mm はマクワウリ・シロウリ型、長さ 8.1mm 以上はモモルディカメロン型である。本遺跡のメロン仲間は長さ 6.5mm、幅 3.0mm で、大きさから分類すると、マクワウリ・シロウリ型である。

(12) イヌコウジュ属 *Mosla* sp. 果実 シソ科

褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には浅く多角形な網目模様がある。長さ 1.1mm、幅 1.0mm 程度。

(13) シソ属 *Perilla* spp. 果実 シソ科

黄褐色～褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には浅い多角形な網目模様がある。エゴマ以外のシソ属を一括した。長さ 1.8mm、幅 1.6mm 程度。

(14) ヒエ *Echinochloa crus-galli* (L.) Beauv. var. *frumentacea* (Roxb.) W.Wright 果実 イネ科

淡褐色で、紡錘形。縦方向に微細な筋がある。壁は薄く弾力がある。光沢がある。長さ 2.5mm、幅 1.2mm 程度。全体的に細長く、かつ全体形がつぶれているものはイヌビエなど野生の可能性を考慮し

てヒエ属とした。

(15) イネ *Oryza sativa* L. 果実・炭化果実・炭化種子 イネ科

果実は黄褐色～淡褐色で、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。いずれも破片で、残存長 5.5mm、残存幅 1.5mm。種子の上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に中央がやや盛り上がる縦方向の 2 本の浅い溝がある。残存長 2.8mm、幅 1.4mm 程度。

(16) アワ *Setaria italica* Beauv. 果実・炭化種子 イネ科

果実は赤茶色で、紡錘形、横方向に細かい顆粒状の模様がある。厚みがある。長さ 2.6mm、幅 1.3mm 程度。種子は小さいが厚みがあり、上面観は楕円形、側面観は円形に近く、先端がやや突出することがある。腹面下端中央の瘤んだ位置に細長い楕円形の胚がある。胚の長さは種子の長さの 2/3 程度。長さ 1.3mm、幅 1.1mm。

(17) カヤツリグサ属 *Cyperus* sp. 果実 カヤツリグサ科

黒褐色で、側面観は狭倒卵形、断面観は三角形。果皮は硬く光沢がある。長さ 2.1mm、幅 0.5mm 程度。

(18) ホタルイ属 *Scirpus* sp. 果実 カヤツリグサ科

黒色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は短倒卵形。頂部は尖り、基部は狭まって着点がある。壁は硬く、光沢がある。長さ 2.1mm、幅 1.7mm 程度。

4. 考察

遺構内からは、草本植物を主体とする多くの種実が得られた。このうち、明らかな栽培植物はウリ属メロン仲間、ヒエ、イネ、アワで、稲作と畑作の双方が行われていたことが推定される。イネとアワは食用となる種子が炭化していた。時期別にみると、弥生時代末から古墳時代初頭、古墳時代中期ではイネとアワ、13・14 世紀ではメロン仲間と、ヒエ、イネ、アワが得られた。同時期水田遺構なし畑作遺構は調査区内で検出されていない。

産出した分類群を生育する立地ごとに分類してみると、林縁要素はほとんどないことから、検討した時期の直江遺跡群周辺には森林と呼べる林分はほとんどなかったことが推定される。アカメガシワは開けた明るい場所に生育する樹木であることから、開けた場所であったことが推察される。クワ属は食用可能であるが、出土した状態では人間が利用したかどうか判断できなかった。

以下、遺構別に産出した種実と人間との関わりを主眼に考察する。

[直江北遺跡井戸 (SK20) : 弥生時代末から古墳時代初頭]

草本植物を主体に他種類の種実が得られていることから、周辺に生育していたものが流れ込んだと考えられる。木本植物は産出してないが、草本植物で林縁に生育するミズ属が目立つことから、遺構からやや離れたところには森林があった可能性がある。イネには果実が含まれていたことや、水田雑草として考えられる畦畔・湿地に生育するサナエタデ-オオイヌタデや、アキノウナギツカミ、イヌコウジュ属が伴うことから、周辺に水田があった可能性があるが、プラント・オパール分析の結果からは稲作が行われているかははつきりしなかった（プラント・オパール分析の項参照）。畦畔・道端に生育するハコベ属や畦畔・道端・畑地に生育するイヌタデは、畦畔に生育しやすいが他の立地に生育していた可能性もある。畑地としては栽培植物のアワがあり、出土部位が果実であることや、畑地・道端・荒れ地などに生育するエノキグサや、ツユクサ、メナモミ属、スミレ属が少量みられることから、畑地が付近にあった可能性がある。ただし、栽培植物以外の草本植物は井戸周辺に生育していた可能

性もある。

[直江北遺跡井戸 (SE06) : 古墳時代中期]

林縁に生育するクワ属とアカメガシワ、ムラサキケマンが少量産出することから、明るい開けた場所であるが、多少樹木が周囲に生育していたと考えられる。イネには果実が含まれていたことや、水田雑草として考えられる水田・湿地に生育するコナギやヤナギタデが伴うことから、ごく近くに水田があった可能性がある。量的には畦畔・道端に生育するハコベ属や、畦畔・道端・畑地に生育するギシギシ属とイヌタデが目立つ。畑地としては栽培植物のアワがあり、出土部位が果実であることや、畑地・道端・荒れ地などに生育するアカザ属や、カタバミ属、エノキグサ、メハジキ属が少量みられることから、畑地が付近にあった可能性がある。ただし、栽培植物以外の草本植物は井戸周辺に生育していた可能性もある。

[直江中遺跡井戸 (SE03) : 13・14世紀]

イネとアワには炭化果実と炭化種子がみられることから、貯蔵中に焼けたか調理中に炭化したなど、なんらかの人為的な関わりが想定される。林縁に生育するアカメガシワとムラサキケマンが少量産出することから、明るい開けた場所であるが、多少樹木が周囲に生育していたと考えられる。イネには果実が含まれていたことや、水田雑草として考えられる水田・湿地に生育するコナギや、水田・畦畔・湿地に生育するタネツケバナ属とホタルイ属が伴うことから、ごく近くに水田があつた可能性がある。量的には畦畔・道端に生育するハコベ属が目立つ。畑地としては栽培植物のアワがあり、出土部位が果実を含むことや、畑地・道端・荒れ地などに生育するスペリヒユ属や、アカザ属、カタバミ属、エノキグサ、オオバコ属が少量みられることから、畑地が付近にあった可能性がある。ただし、栽培植物以外の草本植物は井戸周辺に生育していた可能性もある。オオバコ属は人による踏みつけに強く、人などがよく踏む道路脇などの場所に生えることから、人の往来があったことを示す。

[直江中遺跡川跡 (SD01) : 13・14世紀]

栽培植物はメロン仲間とヒエ、イネ、アワが微量得られた。イネには炭化した果実と種子が含まれていた。基本的な植生は上記の同時期の井戸と変わらないが、水田・湿地に生育する草本植物は川跡にも生育していた可能性がある。川跡には現場所見から砂礫層も確認されたが、ウキヤガラやホタルイ属が少量みられることから、少なくとも、分析した堆積物の堆積時はほとんど流れがなく、浅い池のような水域があつたことが推定される。

以上のように産出した大型植物遺体の組成から、周囲の水田や畑から多様な種実が流れ込み、溜まっている可能性が示唆された。水田遺構は検出されていないが、古墳時代中期以降は水田雑草の指標とされるコナギが産出することから、採取地点のごく近くに水田があつたと考えられる。また畑作遺構も検出されていないが、調理前の果実の形態でアワと 13・14世紀にはヒエがみられることや、畑作雑草と考えられる草本植物から、畑地があつたことが想定された。

引用文献

藤下典之 (1984) 出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法、古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書、638-654、同朋社。

第6章 総括

第1節 遺構の変遷

本遺跡からは、縄文時代晚期や平安時代、鎌倉時代～室町時代の遺物が際立っているが、遺構については、その大半が鎌倉時代～室町時代頃のものである。

縄文時代の遺物は土器が主体であり、その時期も縄文時代晚期後葉の下野式期のものが大半である。この傾向は近隣の直江北遺跡や近岡遺跡でも同様であり、周辺の縄文集落の特徴といえよう。

縄文時代以降、弥生時代や古墳時代の遺物も散見されるが、次に出土量が多いのは平安時代である。目立った遺構はないが、SD01を中心として9世紀から10世紀頃の須恵器や11世紀頃の土師器が多く出土している。墨書き土器や綠釉陶器、灰釉陶器も数点出土しており、注目される。

さて、平安時代末頃から始まる中世が本遺跡の主たる時代である。12世紀末頃から14世紀代頃までが中心時期だが、川跡SD01はその後も機能しているようである。以下に遺構変遷案を示すが、時期特定可能な遺物が出土する遺構が少ないと建物跡の主軸方位が5度前後に収まるなど、時期を分けることが困難な遺構が多いため、一つの試みとして提示してみたい。なお、溝や川跡については、中世を通して機能していると想定し、個別の時期には特に触れない。

まず井戸について、その出土遺物の年代観から13世紀前半頃の遺物が出土するSE02・04、13世紀後半までの遺物が出土するSE07～10、13世紀後半から14世紀前半頃の遺物が出土するSE01・03・05・06をI～III期に分類した。そして、SB01は柱穴がSE05に切られる可能性が高いことから、前の2段階に位置づけられるが、SE08と重複することからI期に位置づけられる。そして、I期井戸と重複せずに、なおかつ柱穴から13世紀前半までの土師器皿が出土しているSB04もI期に位置づけられる。このように見ていくと第48図のような変遷モデルが想定可能となる。

I期（12世紀末頃～13世紀前半）：SB01・04、SE02・04、SK23で構成される。建物は本遺跡最大のSB04と付属屋規模のSB01である。SD01や03・15～17はこの時に成立しており、区画や用排水として機能したものと考えている。

II期（13世紀中頃～13世紀後半）：SB05、SE07～10で構成される。南側で建物は顕著でないが、未調査箇所に展開するものと想定され、集落域が南側に拡張される。

III期（13世紀末頃～14世紀前半）：SB07、SE01・03・05・06で構成されるが、SE03は後発的である。井戸の存在から、川の東岸側も生活空間として利用するようになった可能性がある。

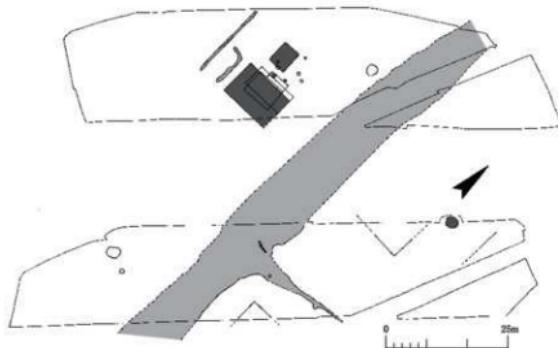
以上が変遷案であり、川辺に立地する集落の拡張過程を示しているといえよう。

第2節 中世前期の景観

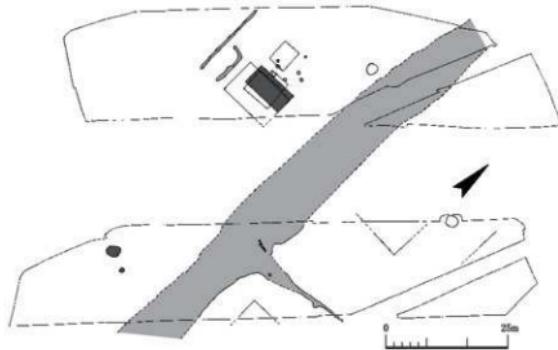
前節でみたように、遺跡の中心は平安時代から南北朝時代頃のいわゆる中世前期である。第5章に詳しいが、井戸と川の土壤分析からは、中世前期の直江中遺跡周辺は、明るく開けた環境にあり、水田や畠地が広がる田園風景が想起される。また、多くの往来もあり、遺跡周辺は生産活動や流通を営む人々の活動が頻繁に行われていたことであろう。近隣遺跡でも13世紀代の井戸などが多数見つかっており、本遺跡でみたような数軒単位で一定程度の農地を営むような小規模集団が直江町地内の範囲に複数存在し、ひとつのもしくは別々の生産集団を形成していた可能性が考えられる。

中世倉月荘の一部である当地の本調査成果は、荘園内の農村集団の一端を示す好例と評価できる。

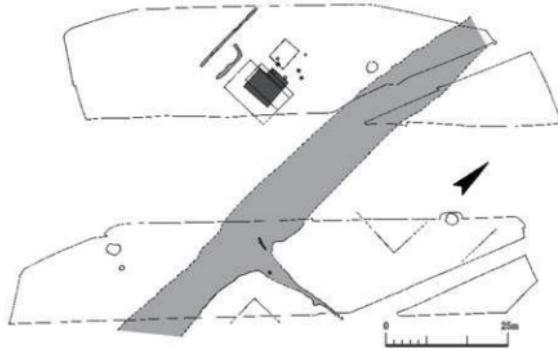
I期
SB01, SB04
SE02, SE04, SK23



II期
SB05
SE07, SE08, SE09, SE10



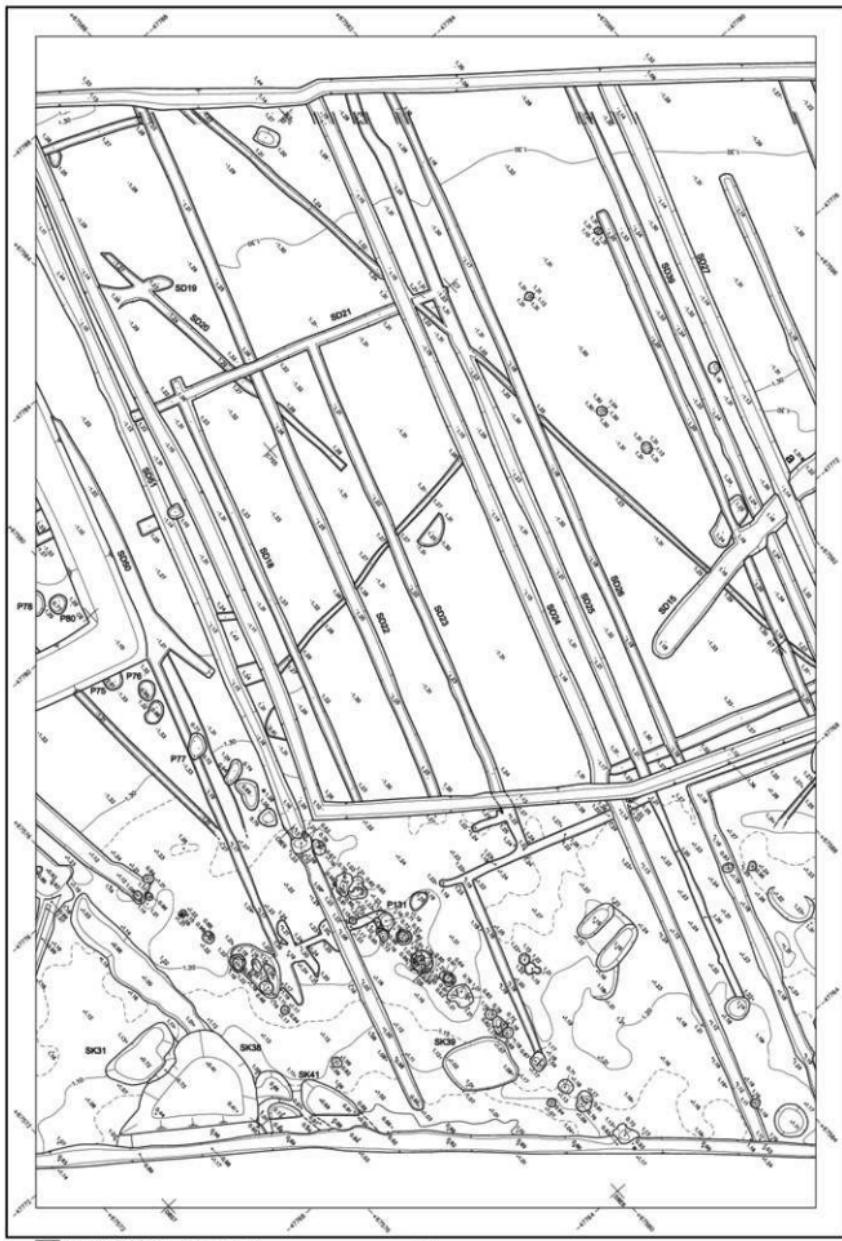
III期
SB07
SE01, SE03, SE05, SE06



第48図 遺構変遷図 [S=1/1,000]



第49図 遺構平面図1 [S=1/100]



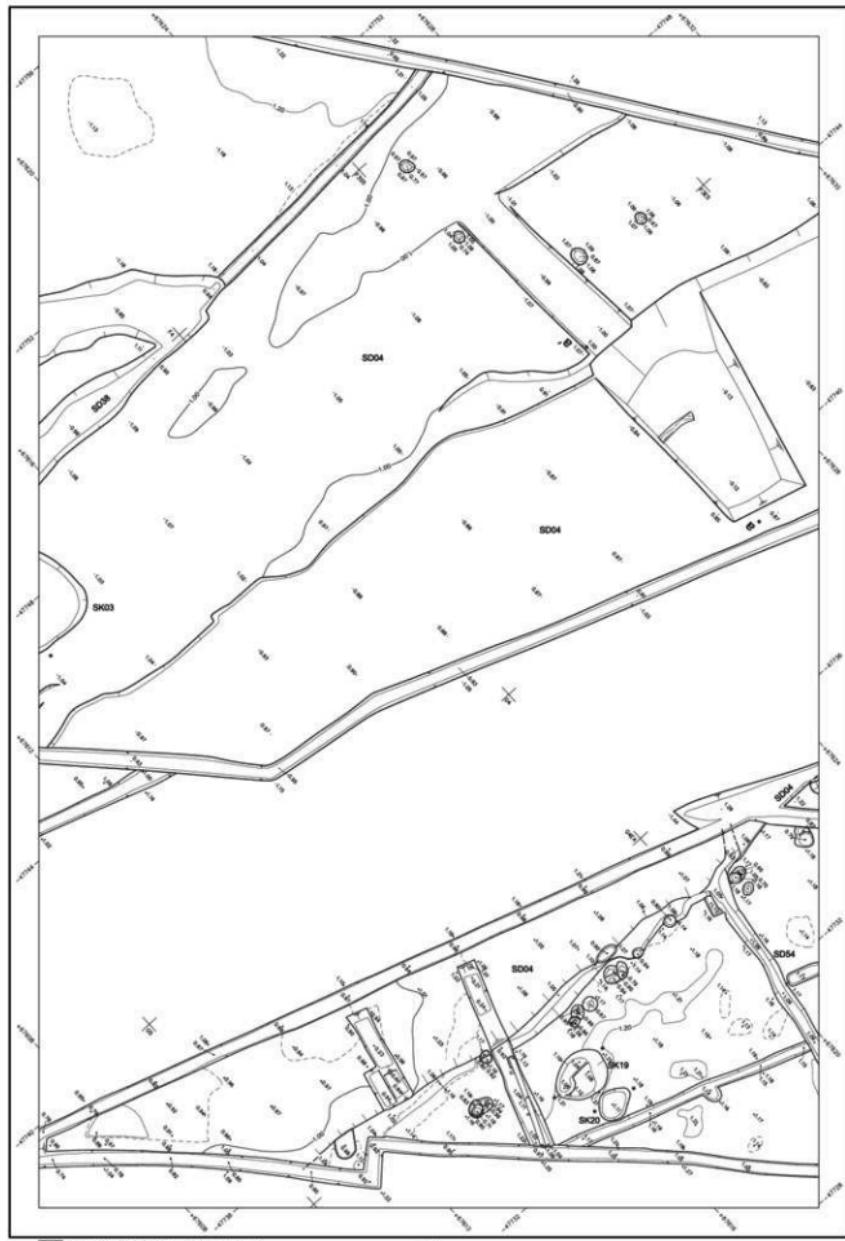
第50図 遺構平面図2 [S=1/100]



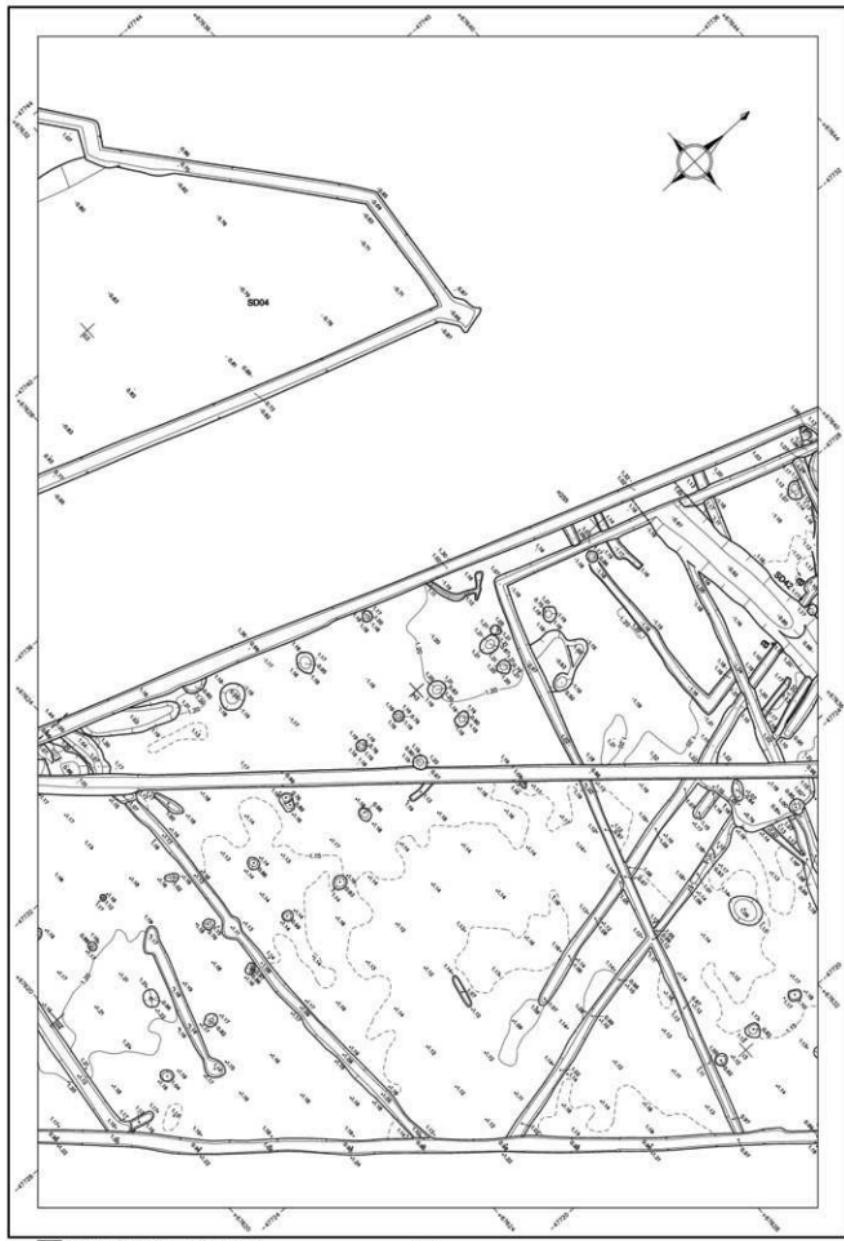
第 51 図 遺構平面図 3 [S=1/100]



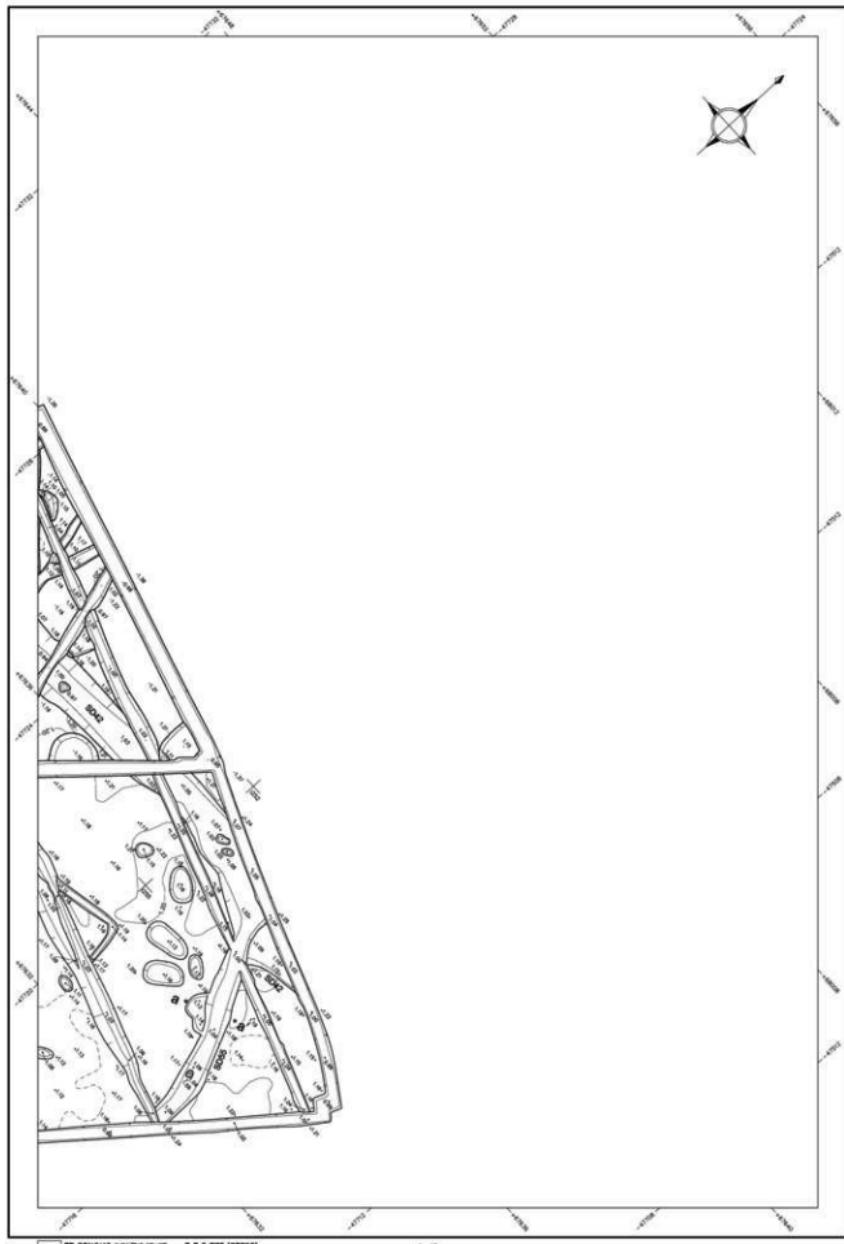
第52図 遺構平面図4 [S=1/100]



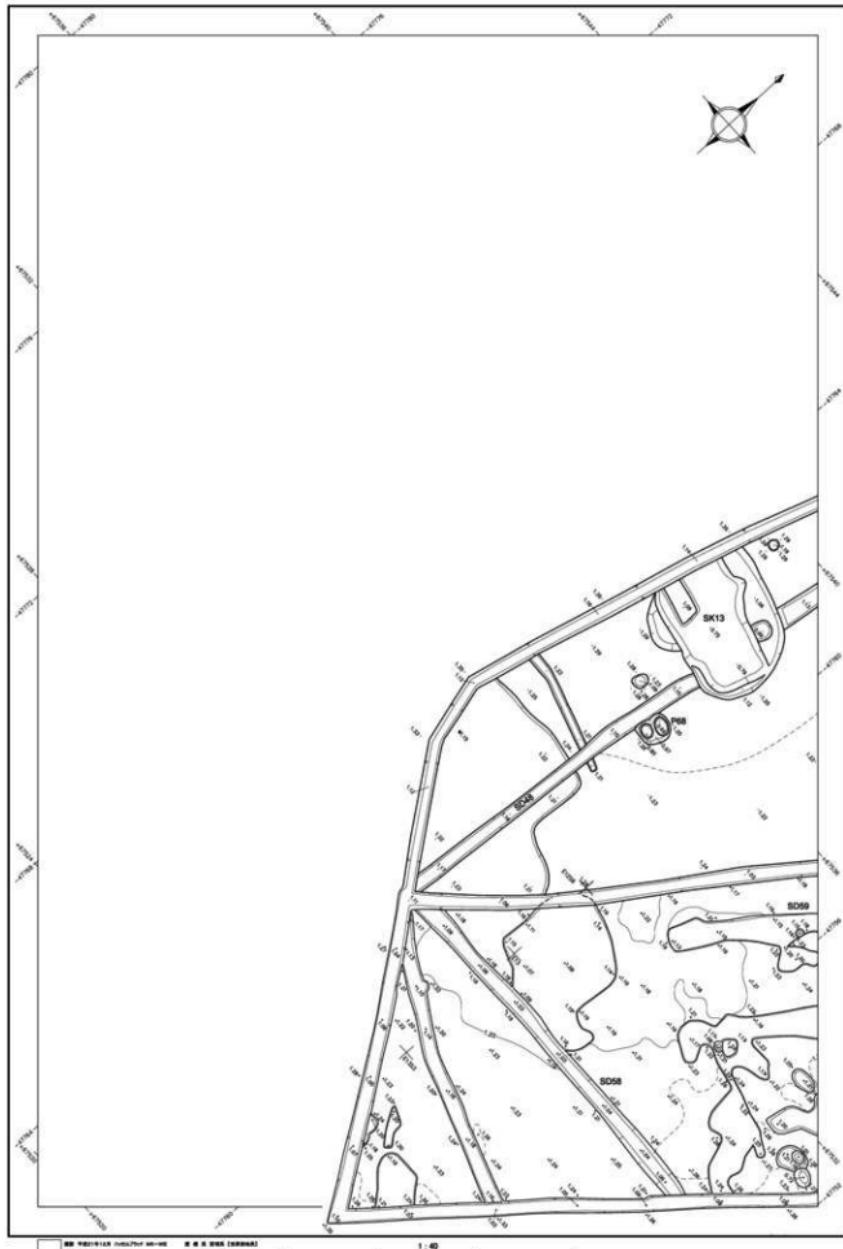
第 53 図 遺構平面図 5 [S=1/100]



第54図 遺構平面図6 [S=1/100]

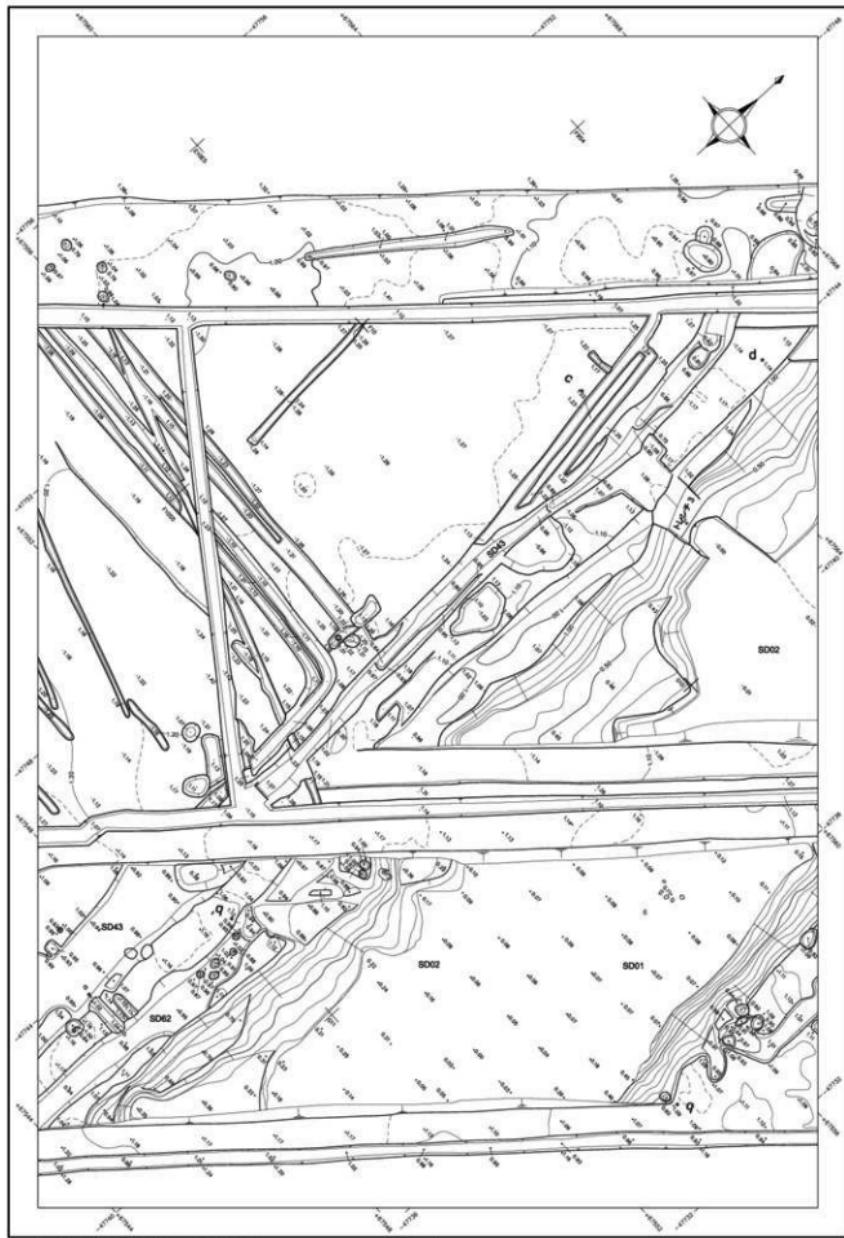


第55図 遺構平面図7 [S=1/100]

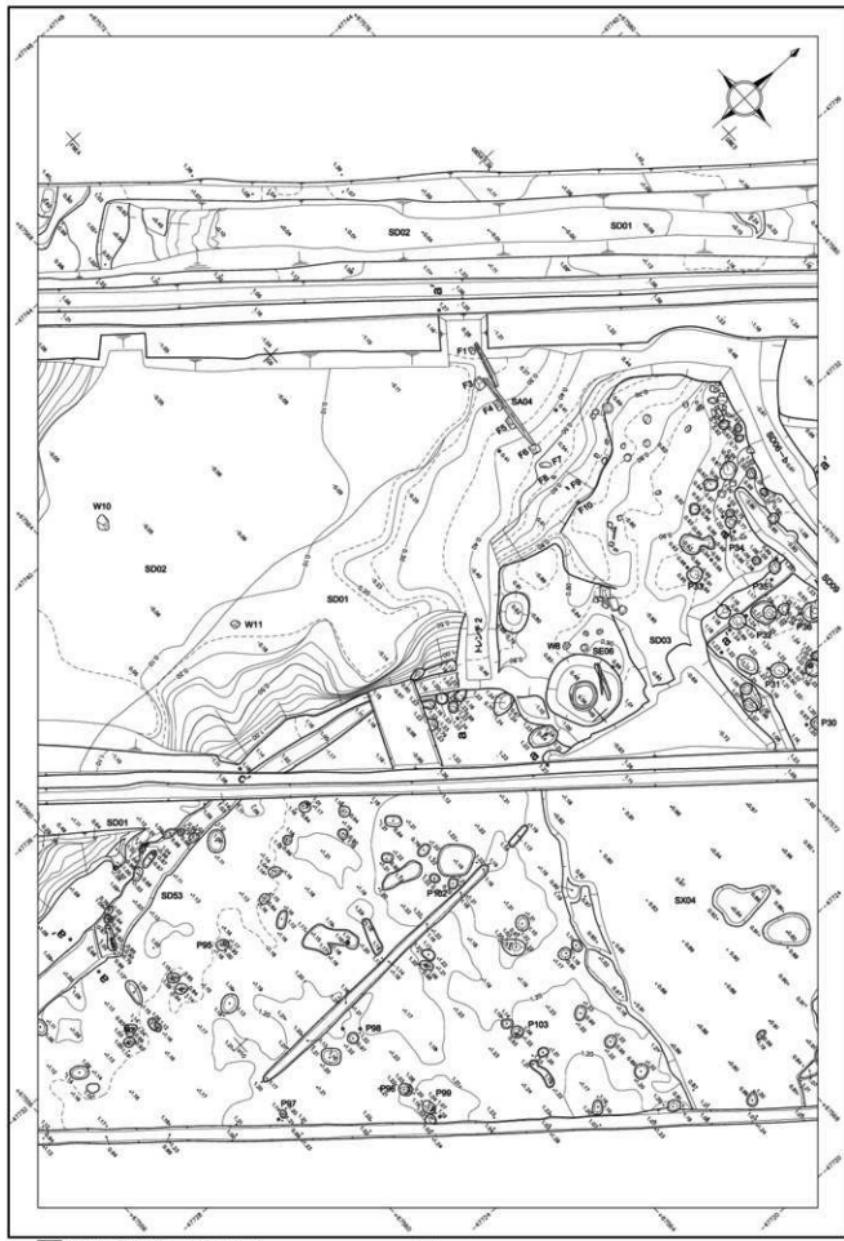




第 57 図 遺構平面図 9 [S=1/100]



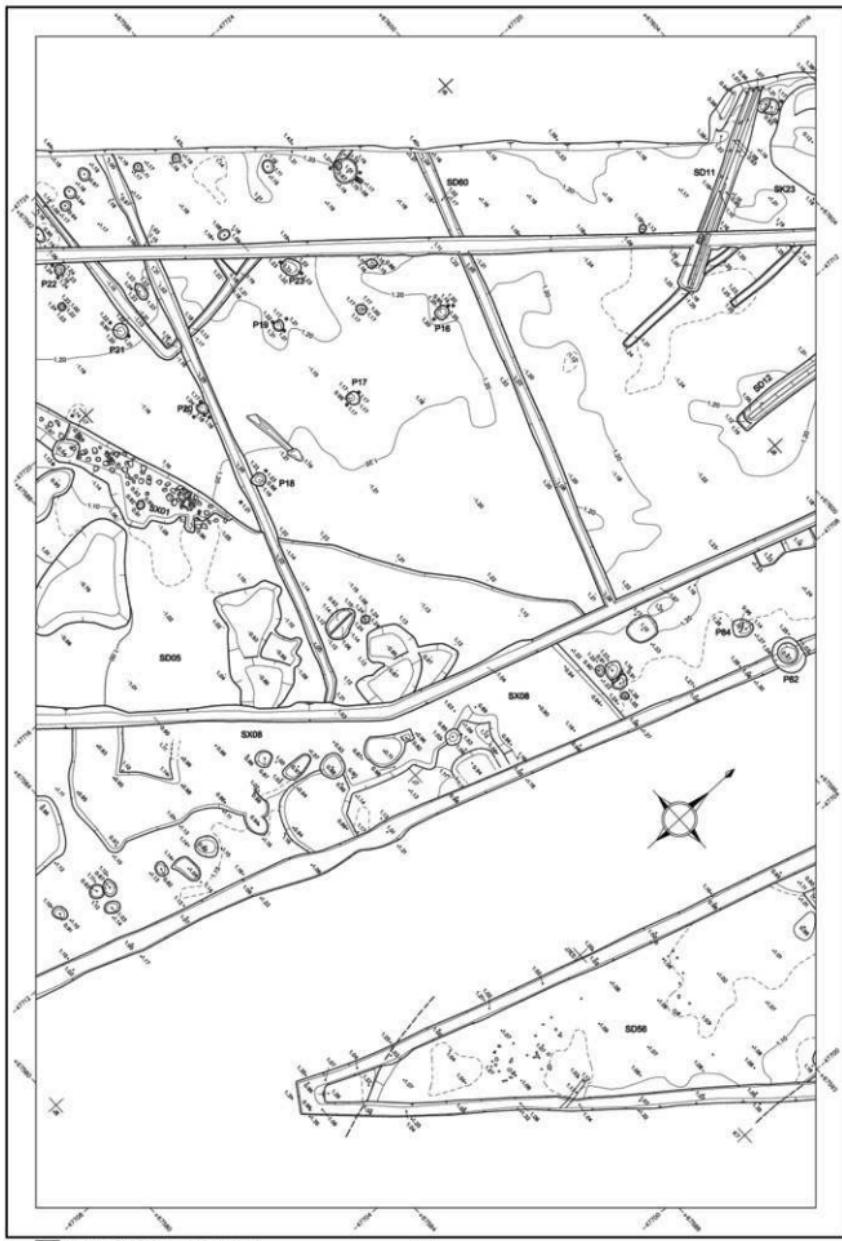
第58図 遺構平面図10 [S=1/100]



第59図 遺構平面図11 [S=1/100]



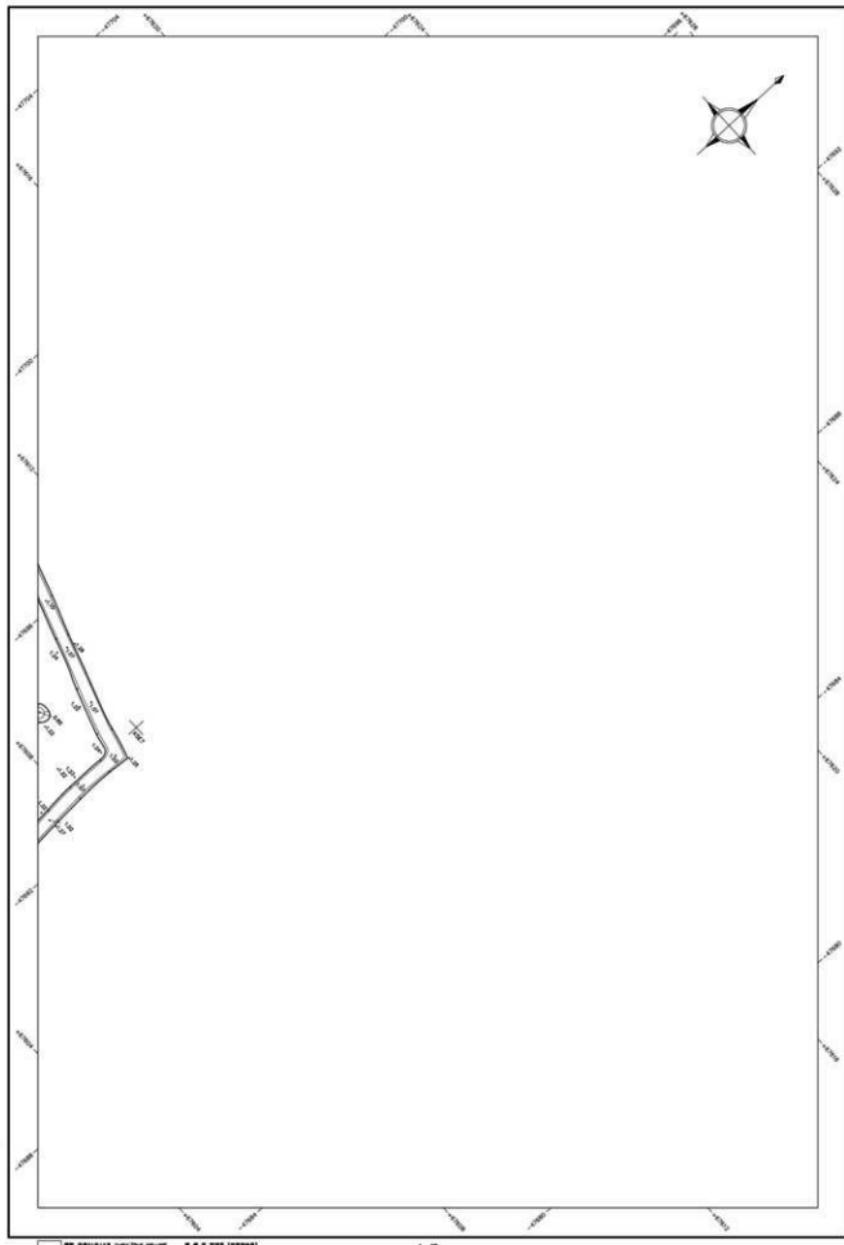
第60図 遺構平面図12 [S=1/100]



第61図 遺構平面図13 [S=1/100]



第62図 遺構平面図14 [S=1/100]



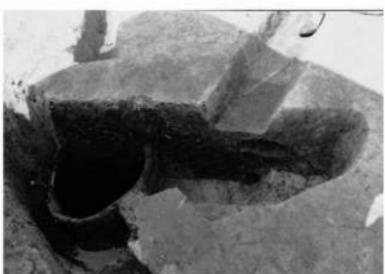
第63図 遺構平面図15 [S=1/100]



遺跡全景（オルゾ画像、S=1/500）



SE01



SE02



SE03



井戸枠1 (SE02)



SE10



SE07



SE04



SK23



SE05



SE06



井戸枠8(SE05)



井戸枠3(SE06)



井戸枠4(SE06)



SE08



SE09



井戸枠9(SE08)



井戸枠10(SE08)



井戸枠11(SE09)



SD01



SD01



SD01



SD01 · SA04



28 · 25 · 30 (SE01)



92 · 93 (SE02)



35 · 38 · 46 · 50 · 44 · 45 (SE02)



123 · 133 · 124 · 129 · 127 · 141 (SE04)



70 · 63 · 65 · 62 (SE02)



94 · 96 · 95 (SE02)

143 · 144 · 145 (SE04)



110・107・108 (SE03)



169 (SE06)・393 (SD01)・233 (SK23)



上: 152・147・154、下: 151・148・153 (SE05)



358・353・362 (SD01)



187 (SE07)



508 (SD01)



191 (SE10)



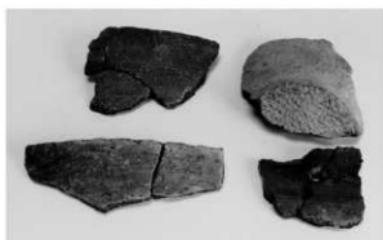
157 (SE05、SK04)



205・203・200 (SK02)



308・270・309 (SD01)



上: 235・239 (SX01)、下: 241・245 (SX02)



320・318・312・322・327 (SD01)



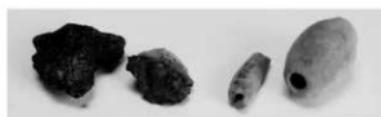
上 : 371・305・370・375・374、中 : 369、
下 : 304・373・372・294 (SD01)



上 : 443・453・452・386・384、下 : 388 (SD01)



266 (SD01)



297・296・283・284 (SD01)



上 : 573・574、下 : 565・566 (SD02)



471・467・478 (SD03)



572・570・569 (SD02)



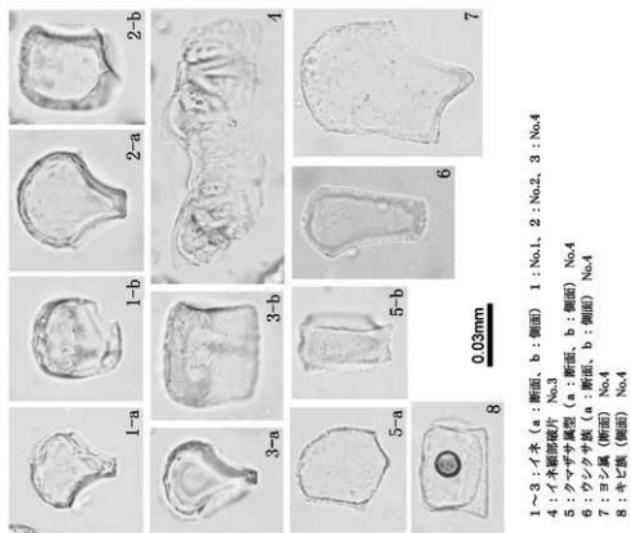
561 (SD02)



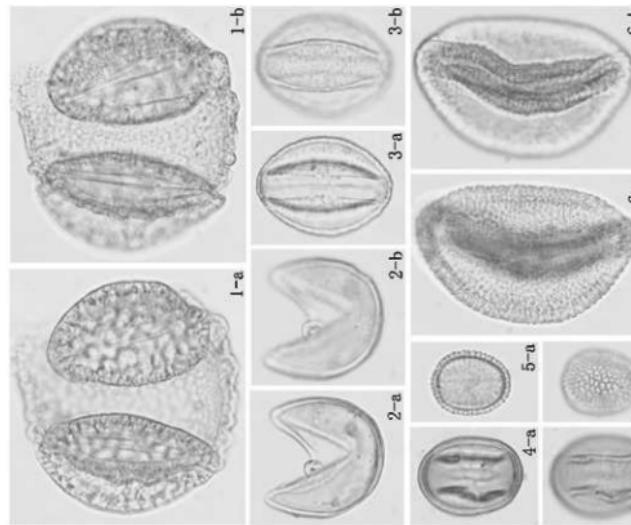
556・558 (SD02)



559 (SD02)・450 (SD01)・218 (SK13)・199 (SK01)・
449 (SD01)

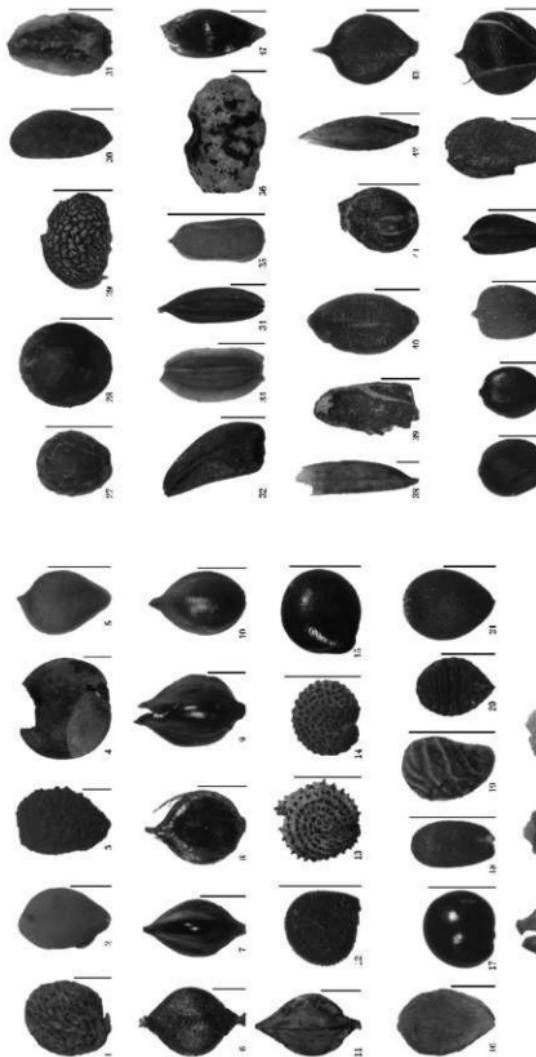


1~3:イヌ (a:断面, b:側面) 1:No.1, 2:No.2, 3:No.4
 4:ホトトギス (a:断面, b:側面) No.3
 5:クマザサ属 (a:断面, b:側面) No.4
 6:ウンカサ属 (a:断面, b:側面) No.4
 7:ヨシ属 (断面) No.4
 8:キビ属 (側面) No.4



1:マツ属 (側面) PL.C.SS 4832 No.4
 2:ギギ PL.C.SS 4827 No.4
 3:コナラ属 (側面) PL.C.SS 4831 No.4
 4:コナラ属 (ガガシ属) PL.C.SS 4829 No.4
 5:アブガリ科 PL.C.SS 4830 No.4
 6:ソバ属 PL.C.SS 4828 No.4

写真図版 8 (直江遺跡群から出土した大型植物遺体)



報告書抄録

直江中遺跡

『金沢市文化財紀要』266)
金沢市副都心北部直江土地区画整理事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1
平成23年3月31日発行
(2011)

編集 金 沢 市
発行 金沢市埋蔵文化財センター
〒920-0374
石川県金沢市上安原南60番
TEL (076)269-2451
印刷 ソノダ印刷株式会社

